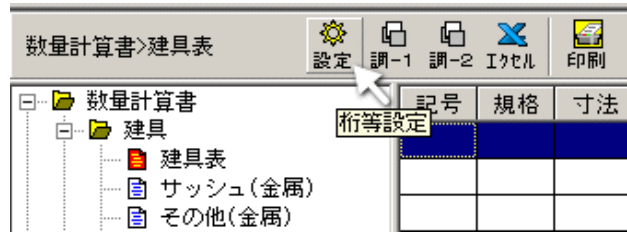


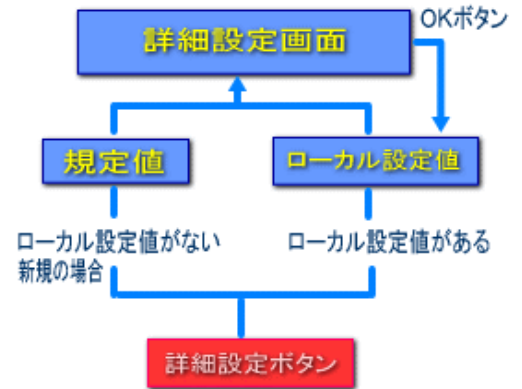
詳細設定



詳細設定は主に各調書の数量小数点以下桁数と端数処理を設定します。ここでは「詳細設定」の仕方を説明します。新規作成した場合は「詳細設定」は行わずに、一旦登録してください。この時点で詳細設定は「標準」になっています。「標準」以外の設定を行いたい場合はもう一度「設定」画面を開き「詳細設定」ボタン(上図青丸内)をクリックしてください。この面倒な過程は新規作成時点ではまだ許可された新しいフォルダが無いため、その現場固有の設定を行うのであればそのフォルダの内部に記録する必要があるという理由によります

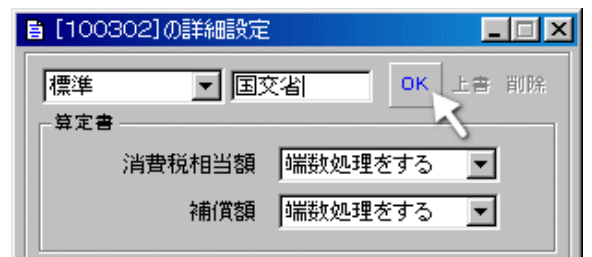
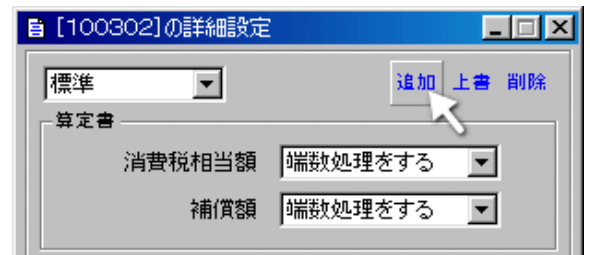
右図をご覧ください。詳細設定ボタンをクリックした後のプログラムの流れです。まだ一度も詳細設定が行われていなければ「新規作成」時に設定された「標準」が規定値となりますが、詳細設定にて「OK」ボタンがクリックされると「ローカル設定」ファイルが作成され、そちらが読み込まれるようになります。

規定値には「標準」以外の規定値を含むことができ、起業者による使い分けを簡単に設定することができます。詳細設定画面左上のプルダウンメニューはその設定名(規定値)です。初期時点では「標準」のみが搭載されています。詳細設定画面右上の「追加」等ボタンは規定値に対して行うものです。ローカル設定値とは違いますのでご注意ください。例えば「上書き」とは規定値の変更を行いたいときに、表示されている規定値に現在の値を上書きするという意味になります。以下は「詳細設定」画面での標準以外の設定値を追加作成する方法です。



1. 「追加」ボタンをクリックします。(右図は新しい規定値を追加しようとしています)
2. 開いたテキストボックスに追加する規定値名を入力します。これは他の現場と共通ですので誰でも認識できる名前をお勧めします。(右下図)
3. それぞれの値を設定します。
4. 「OK」ボタンをクリックします。

「上書き」「削除」はいずれもこれら規定値に対して行われます。例えば現在表示されている値をローカル設定とした場合は詳細設定画面右下の「OK」ボタンをクリックすることになります。ローカル設定を行わないということは「標準」の設定値を選択することになりますし、左上プルダウンメニューの値が「標準」のとき、設定値を変更せずにローカル設定のための「OK」ボタンをクリックすれば単に標準設定がローカルにコピーされるだけで、設定しないのと等価となります。ただし、Hosは以降このローカル設定値を読むよ

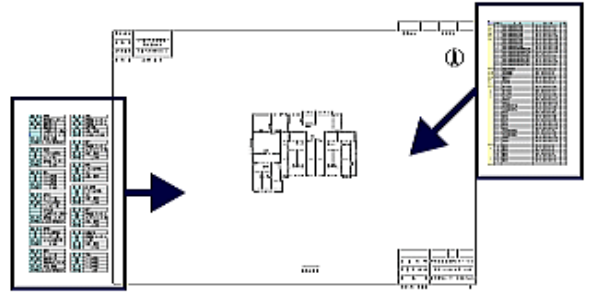


CADへ転送するためのエクセルシート作成概要

図面をCADで作成している場合は、平面図等に「建具表」や「仕上表」を描画するために、エクセルシートに作成したそれらの表を、X]等でCADへ転送することがあります。

通常この作業は、積算を行うための平面図作成を作業当初に行うことから、数量計算書の詳細を入力する前に「建具表」や「仕上表」をエクセルシート上に作成する必要があります。

ここではまず最初に、CADへ転送するための「建具表」や「仕上表」をエクセルシート上に作成する方法を説明しま



建具表、仕上表とも入力支援機能が整ったHosで作成し、そのデータをエクセルへ転送する方法を推薦いたします。エクセルシートからCADへ転送する方法については、各アドイン説明書に従ってください。

建具表、仕上表を作成する前に、調査表 - 1 (下図) を完了してください。



建具表の作成

建具表は野帳から読み取りながら入力します。このときHosは入力行毎に仮番号を表示しますので、その番号を野帳に記入してください。この番号は最終的に建具が並び替えられたときに、番号が新たに振り直されるため、新しい番号と

記号	規格	寸法	箇所	枚数	W	H	規格寸法	仮No.
PD	01	1817	1		1,690	1,790	W1,690 × H1,790(3.02㎡)	1

(a)記号

建具記号は規定値を変更できます。記号入力状態でマウスの右ボタンをクリックするか、キーボードのアプリケーションキーを押下して、ポップアップ参照表を表示し、さらにその表の上でマウスの右ボタンをクリックして下さい。Hosお馴染みの参照語句変更画面が現れますのでここで記号の書き換えが可能です。(このとき、項目順番は絶対に変更しないで下さい。この参照表内での削除・挿入も行わないでください。)

こうすることによって、起業者に合わせた記号を表示することができます。

記号は、右クリックによる参照表から選択すること、キーボードから直接入力することの両方が可能です。直接入力するときに小文字で入力されたものは大文字に自動変換されますし、登録された以外の記号は無効となり、再入力状態となり、なお、入力決定は「Enter」を使用してください。次の適切な入力位置に誘導します。

(b)規格

記号に応じた規格を入力します。規格内容は右クリックによる参照表をご覧ください。もしこの規格表を誦んでいるのであれば記号の入力位置で、例えば AB01 と入力すると、AB | 01 と規格を自動分離します。

(c)寸法

寸法は基本的に近似値の置換方法で行います。通常は4桁で当該建具の横幅と高さを表し、調査表 - 1の柱径と小数有効桁数の設定により、例えば「1818」は、巾1,700、高さ1,760等に自動変換されます。建具の高さのみ、参照表に登録されていない数値を3桁まで検知します。例えば先の例で「18072」は「1,700」と「0,720」とに変換されます。

巾寸法が規格外の場合は、この欄は空白にして直接「W」「H」欄に数値を入力できます。

(d)ヶ所、枚数

この部分については、直接「値」を入力してください。枚数欄で「Enter」キーを押下すると、これまで入力した値により単価マスターから該当建具を抽出します。

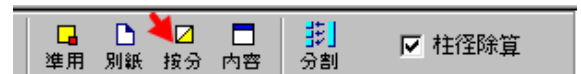
生成された規格寸法の「？」について

規格分類における「？」は、Hosが振分しますが、規格外寸法のものについては「？」で表示します。したがって「？」が付けられた規格寸法欄のデータはユーザが適当に修正しなければなりません。

(e)按分

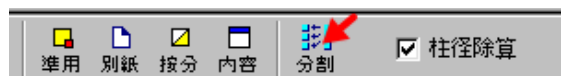
建具の按分は次の方法で行います。

- ()対象建具のデータを完全に入力します。
- ()「按分」ボタン(右図赤矢印)をクリックします。
- ()対象建具の基本寸法を「m」単位で入力します。
- ()Hosは一覧で入力された寸法と検討を行い、式を生成後、按分単価を計算してこの単価を採用します。



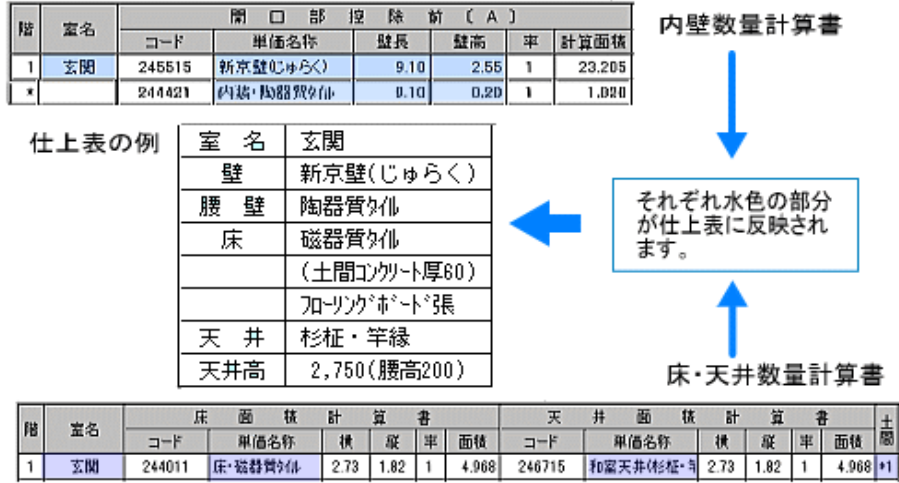
(f)振分

入力が終了しましたら、下図の分割ボタン(赤矢印)をクリックして、入力データを「サッシュ」等に振り分けます。



振分はほとんどの場合瞬時に終了しますが、振分終了時点で画面左にあるディレクトリ部の建具分類項目アイコンが「白」から「水色」に変化しますのでそれが終了目安となります。

仕上表の作成



上図のように「内壁」「床・天井」数量計算書とも「水色」の部分が仕上表に反映されますから、とりえず仕上表のみほしい場合は、各表とも「水色」の部分のみ入力しておいてください。

内壁は「計算面積」で「Shift」+「Enter」を押下することにより「開口部」を跳ばして次行へ、床・天井は入力表上部にある「仕上表入力」チェックをONにすることにより、寸法等は跳ばしながら入力を進めることができます。

仕上げコード入力箇所、直前に入力したものと同じであれば「+」を入力するだけで同じコードが得られます。また、行挿入は「Ctrl」+「Insert」(入力状態 - カーソルがセルの内部で点滅 - では「Insert」キーを押下するだけで空白行を挿入)、行削除は「Ctrl」+「Delete」によるショートカットが用意されています。

内壁、床・天井の必要箇所の入力が済みましたら、必ず「仕上」ボタンをクリックして仕上表を作成して下さい。

室名	内壁	腰壁	床	天井	天井高
玄関	新京壁(じゅらく)	陶器質タイル	磁器質タイル (土間コンクリート厚60) フローリングホート張	杉葺・竿縁	2,750(腰高200)
洋室	フローリング合板張		カーペット敷	化粧せっこうホート	2,500
物入	フローリング合板張		フローリング合板張	フローリング合板張	1,900
台所A	しっくい壁	フローリング合板張	ビニルシート張 モザイクタイル (土間コンクリート厚60)	化粧せっこうホート	2,550(腰高950)
台所B	ステンレス鋼板張		ビニルシート張	ステンレス成型材張	2,100
トイレ	しっくい壁	陶器質タイル	磁器質モザイクタイル	杉葺・敷目	2,550(腰高950)
浴室	陶器質タイル		磁器質モザイクタイル (土間コンクリート厚60)	フローリング合板張	2,650
洗面所	新京壁(じゅらく)	フローリング合板張	フローリングホート張	フローリング合板張	2,600(腰高1,000)
和室01	新京壁(じゅらく)		タタミ敷	杉葺・敷目	2,600
納戸	フローリング合板張		フローリングホート張	フローリング合板張	2,600
和室02A	新京壁(じゅらく)		タタミ敷	杉葺・竿縁	2,600
和室02B	新京壁(じゅらく)		タタミ敷	杉葺・竿縁	2,750
広縁	新京壁(じゅらく)	新京壁(じゅらく)	緑甲板張	杉葺・竿縁	2,800~2,500

再集計 OK キャンセル

仕上表の中で天井高については、同じ部屋の中に壁高が3箇所以上あると腰壁の位置がわからなくなる(2箇所であれば2個目を腰高としています)ため、間違った天井高が取得されていますので必ず修正して下さい。

なお、[再取得]ボタンをクリックしますと、それまで編集された仕上表は新しく取得された仕上表に上書きされますのでご注意ください。

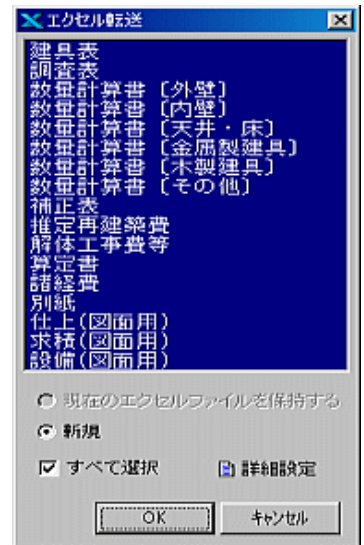
エクセルシート転送

まだエクセル転送が一度も行われていない状態ですので、「新規」(右図)となり、すべての調書が一旦作成されますが「調査表 - 1」が作成されていれば「建具表」と「仕上表」しか入力できていなくても、問題なく転送できます

OKボタンをクリックすると転送を開始します。転送完了に要する時間は、調書内容量やお手持ちの環境により幾分差が出ますが、大体1分から2分程度はかかります。

転送途中で中止したい場合は「中止」ボタンをクリックしてください。その際、転送途中の状態により直ちに中止できないことがあります。そのような時は「了解(中止)・・・」のプロンプトをHosがはきだしますので、しばらくお待ちください。

転送が終了すると、エクセルの画面が最前面に表示されますが、OSによりHosの画面が最前面に表示されたままになる場合があります。そのときはディスプレイ下部のタスクバーにエクセルのアイコンが点滅していますので、そこをクリックしてください。



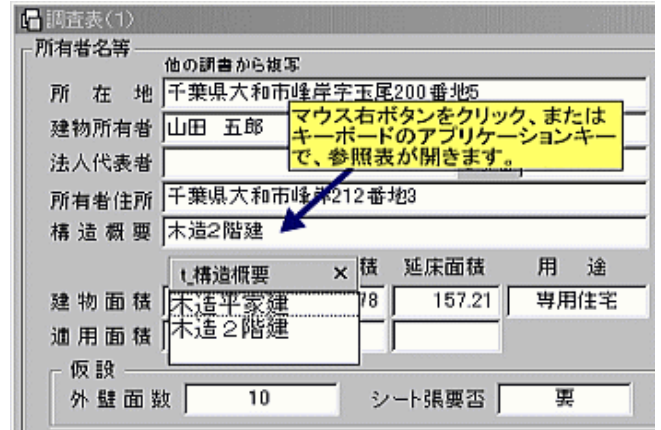
調査表 - 1

最初に調査表を開いたとき、以下の内容がベースからコピーされます。

所在地、建物所有者、所有者住所
整理番号、調査年月日、調査員名

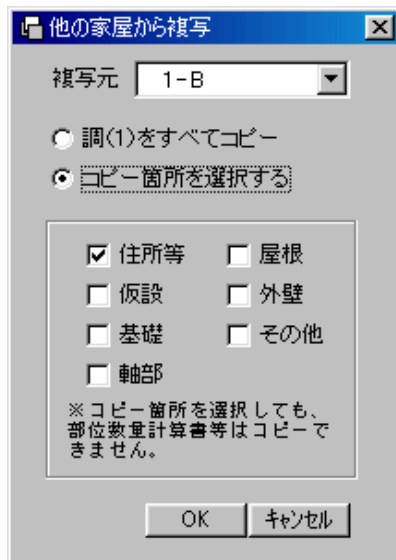
新しく調査表が作成される時だけ、ベースで登録された内容が参照されます。調査表が保存されると調査表の内容を優先するため、ベースは参照しなくなりますのでご注意ください。

参照表があったほうが入力しやすいボックスでは、右図のようにマウスの右ボタンをクリックするか、キーボードのアプリケーションキー押下により参照表を開くことができます。



b. 調査表の複写

他の家屋と内容が相似しているなら、画面上部の「他の調書から複写」をクリックしてください。



左図「複写元」を選択して「すべてコピー」か「コピー箇所を選択」のいずれかを選び、「コピー箇所を選択」であればその下表からコピー箇所(ブロック)をチェックします。

「住所等」を選んだ場合、前出のベースからコピーされた項目についてはそのまま、「住所等」の他の項目のみがコピーされます。

コピーしない項目

所在地、建物所有者、所有者住所
整理番号、調査年月日、調査員名

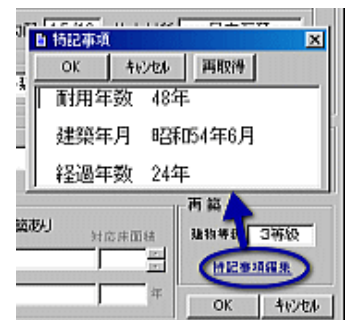
ここでのコピーは、調査表上の内容コピーであり、数量計算書等の調書までコピーするわけではありません。数量計算書等の調書までコピーしたいときは「ベース」の「複製(家屋ごと複写)」を実行してください。

c. 建物用途

建物用途に[併用住宅]を選択しますと、用途入力ボックスの右側にあるアップダウンボタンが有効となり、店舗や倉庫等の面積を入力できます。ここで入力された面積データは[軸部]や[基礎]において分割使用されます。

d. 特記事項編集

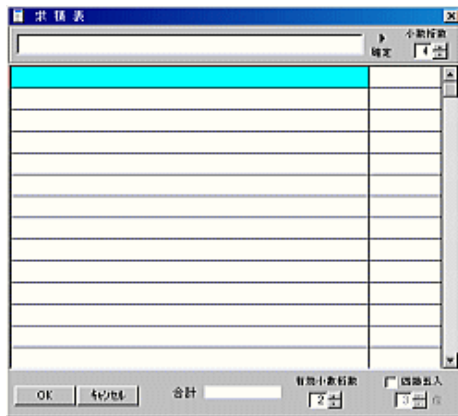
算定所に付記される特記事項は、この表の[建物等級(耐用年数)][建築年月]と[経過年数]から抽出します。自由に編集できますが[再取得]を行うと現在のデータに基づいて特記事項が再構築されます。



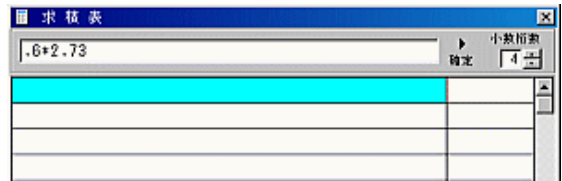
e. CADへ転送するための「求積表」の作成

延床面積セル上でマウス右ボタンをクリック(必ずセルの中でカーソルが点滅している状態で行ってください)すると求積表が開きます。以下「求積表」の作成手順を示します。

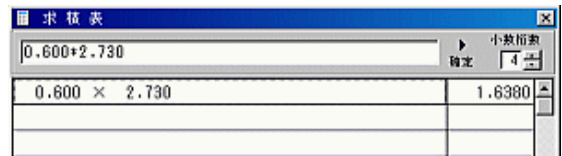
最上段空白行で「Enter」



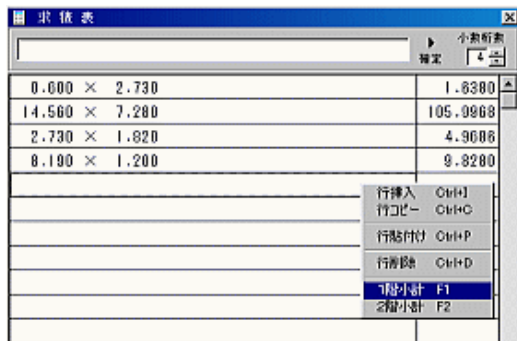
1行目の式を入力(0.600は.6でOK)



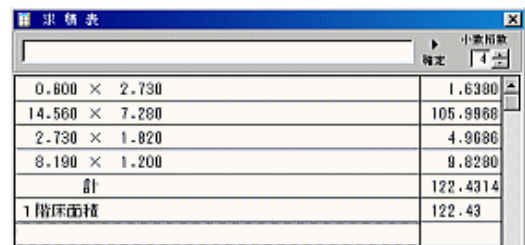
「Enter」を押下(式は整形されている)



1階小計行で右ボタンクリック



1階小計を選択



2階は1階と同じ操作で1階部分の下に続けて入力します。「OK」ボタンをクリックすると、調査表-1面積部の適正な位置に、作成された面積が表示されます。

なお、計算できるセルは最上段の入力ボックスのみです。各セルで編集はできますが、再計算は行いません。

調査表 - 2

各調書が作成されていないと取得できない項目がありますので、すべての調書が完了した後に調査表 - 2を実行してください。

最初に調査表を開いたとき、以下の内容が作成された調書からコピーされます。(右図、水色部)

[樋]	軒樋巾、材質
[電気]	総数量、照明器具の種類
[軸部]	柱の分布、木材・労務費区分

「再取得」ボタンは右図水色部分に対して、調書からの再取得を試みますが、取得した内容を保障するものではありませんので、確認が必要です。

入力内容によってはその調書を参照したい場合があるかもしれません。[参照]と表示された項目については[参照]文字をクリックすると関連調書をこの画面の下に表示させることができます。

外壁数量計算書

控除前面積

a. 面

面	階	開口部	
		コード	単価名称

面のセルをダブルクリックまたは Enter キーを押下すると面の入力状態になりますので、例えば「北」と漢字で入力します。或いはマウスの右ボタンまたはアプリケーションキーを押下して参照表(右図)を表示し、その中から方位を選択してください。

参照表をキャンセルするには、「ESC」(エスケープ)キーを押下する、参照画面に「閉じる」([×])ボタンがあればそれをクリックする、方位参照表のように「閉じる」ボタンがない表であれば文字が表示されていない空白域をクリックする、のいずれかです。

面の入力が完了したら Enter キーを押下します。次のセルをダブルクリックしてもよいのですが、Enter キーを押下することによるアクションがいくつかありますので、その為にも次のセルへ移動する場合は、Enter キーを押下することを強く推奨します。

開口部控除前(A)の入力例

面	階	開口部 控 除 前 [A]					
		コード	単価名称	壁長	壁高	率	計算面積
北	1	263461	内外装・フッ素樹脂塗料	3.64	3.20	1	11.648

b. 階

参照表から選ぶこともできますが、1階であれば単に「1」と入力するだけです。

c. コード

目的のコードがわかっている場合は直接コードを入力して Enter を押下してください。単価マスタを開いていなくても自動的に単価マスタを開きながら目的のコードを抽出します。通常は入力画面上部の「単価マスタ」チェックをONにして単価マスタを画面下部に表示した上でその中から目的のコードをダブルクリックまたは Enter キー押下することによって、編集中的に行に抽出します。

単価名称文字列が長い場合はセルに表示しきれませんが、内部では全文字列保持しています。

d. 壁長、壁高、率

壁長、壁高、率、いずれも直接半角数字で入力します。単一セルですので「0.90」は「.9」あるいは「1.00」は「1」で入力可です。「率」は三角面の場合に「0.5」としてください。率のセルで Enter を押下すると計算面積に結果が表示されます。

<桁設定の例外処理> 寸法小数桁数設定において例えば[2桁まで]としていた場合[1.3]は[1.30]となりますが、[1.365]とした場合でも[1.365]として例外処理をします。

開口部面積

開口部面積(B)の入力例

計算面積	開口部面積 [B]				実施工面積 [A] - [B]
	建具No.	建具記号	数量	控除面積	
11.648	4	AB	1	3.02	
	12	AD	1	-	

e. 建具

建具表が完成していれば該当 を入力することによりその内容(建具記号、数量、面積)を抽出します。建具記号は指定がない限り標準単価表に記述されている記号のみとなります。数量は建具表で入力された数値ですので必要に応じて修正します。控除面積が[0.5]以下である場合「-」で表示され、開口部面積から除外されます。

ほかの仕上げに開口部がまたがった場合でも、開口部面積が[0.5]以下であれば「-」となります。同一開口面積として控除したい場合は、「-」のセルを入力状態としてマウスの右ボタンやアプリケーションキーにより参照表を開き、「控除する」を選択してください。「-」を実数値に置き換えます。

f. 控除面積の分割

下の図は仕上種類により同一開口箇所を分割する例です。控除対象行で「控除」ボタンをクリックします。

計算面積	開口部面積〔B〕			控除面積	実施工面積〔A〕-〔B〕
	建具No.	建具記号	数量		
11.648	4	AB	1	3.02	
	12	AD	1	-	
11.648				3.02	8.63
3.640	4	AB	1	3.02	
3.640				3.02	0.62

計算面積	開口部面積〔B〕			控除面積	実施工面積〔A〕-〔B〕
	建具No.	建具記号	数量		
11.648	4	AB	1	1.28	
				⇒ W1.740×H0.740=1.28	
	12	AD	1	-	
11.648				1.28	10.37
3.640	4	AB	1	1.74	
				⇒ W1.740×H1.000=1.74	
3.640				1.74	1.90

控除面積変更

W(m) 1.740 × H(m) .74 × 数量

W1.740×H0.740=1.28

OK キャンセル

控除面積変更

W(m) 1.740 × H(m) 1 × 数量

W1.740×H1.000=1.74

OK キャンセル

自動的に挿入されます

面内同一仕上の小計は、小計させたい行で入力画面上部の「計」ボタンをクリックしてください。計上させる行にデータがある場合は自動的に挿入をしながら計上します。

g. 軒天井、その他の外壁

外壁入力画面上部の「軒等」ボタンをクリックしてください。ここでも部位、コードの入力までは上記同様です。式は下図の様に一般式で入力しますが、値は式の最後で「Ctrl」+「Enter」押下により取得します。

部位	コード	単価名称	計算式〔A〕
軒裏	246611	天井・ラフ合板張	0.64*1.82+0.46*3.64

取得した値は〔小計セル〕では小数点以下第4位を切捨てとなりますが、式に追加された「=」後の数値は値によりそれ以上の桁が取得されている可能性がありますので、任意に調整してください。

部位	コード	単価名称	計算式〔A〕
軒裏	246611	天井・ラフ合板張	0.64*1.82+0.46*3.64=2.8392 2.839

開口箇所があれば同様に式を入力して値を取得します。開口部がなければ空白のまま「計」ボタンをクリックしてください。施工面積に小数点以下第3位が四捨五入された値が取得されます。もちろん複数行にも対応しています。

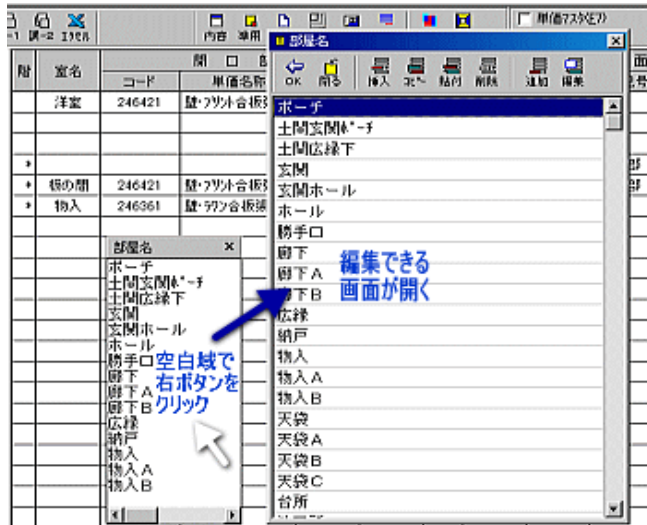
「戻る」ボタンで直前の画面に復帰します。

h. 集計

外壁数量計算書の入力終了したら、必ず「集計」ボタンで外壁の集計を行ってください。

内壁数量計算書

a. 階、室名



- 1.物入Bをクリック
- 2.「コピー」ボタンをクリック
- 3.「天袋」行をクリック(天袋の直前に挿入)
- 4.「貼付け」ボタンをクリック
- 5.「編集」ボタンをクリック ([Shift]+[Enter]でも可)
- 6.「物入B」を「物入C」に書き換え

今回の場合は参照表の更新ですので、「閉じる」ボタンで終了します。参照表の修正結果は親の参照表へ直ちに反映します。

b. その他のセル

他のセルへの入力方法については、外壁と同様ですので省略します。

c. 各室仕上毎の小計

小計を計上したい行で「計」ボタンをクリックします。小計行には階数セル内にアスタリスク[*]が付きます。

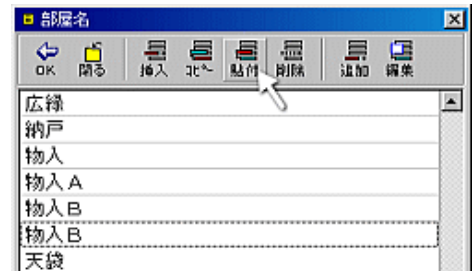
d. 集計

内壁数量計算書の入力終了したら、必ず「集計」ボタンで内壁の集計を行ってください。

階は外壁と同様です。室名は参照表からの選択が可能となっています。左図は室名参照表の編集を行おうとしているところです。この画面を表示するには「室名」セルをダブルクリック(Enter) マウス右ボタン(アプリケーションキー) 表示された参照表上でマウス右ボタン

ここで参照表への項目追加(挿入)方法を説明します。

例として「物入C」を「物入B」の下行に挿入してみます。



床・天井数量計算書

a. 階、室名、床面積等

この部分のセル入力につきましては、内壁と同様ですので省略します。

b. 天井面積

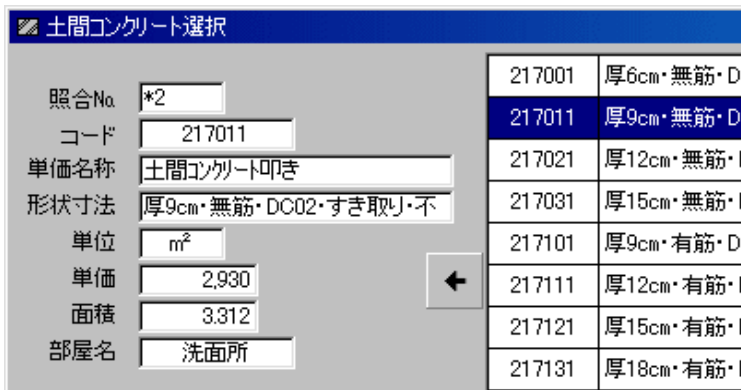
天井寸法はほとんどの場合床と同じと考えられますので、天井仕上名を入力した時点(または天井仕上名セルでEnter 押下時点)で床の寸法をそのままコピーしてきます。修正の必要がない場合は次のセルで「Shift」+「Enter」を押下してその行の入力を終了してください。入力セルは次の行の室名へ移動します。

c. 土間コンクリートの付加



玄関、浴室等の土間コンクリートを設定できます。

付加したい行をクリックしておき、入力画面上段の「土間」ボタンをクリックしてください。左側の画面が表示されましたら、右側の単価マスタより該当データを選択し、「」ボタンをクリックします。



左図は右側の単価マスタからコピーしたところですが、照合 No はHosが行う管理番号ですので変更した場合の動作については保障できません。また、最下段の部屋名につきましては将来へのオプションです(自動挿入されます)。

d. 行の挿入、削除

すべての調書に共通していますが、行の挿入、削除は右ボタンクリックによりポップアップウィンドウを開き、その中にある「行挿入」「行削除」を選択して行います。数量計算書は先に仕上表を作成する関係で、行挿入が頻繁に行われますが、入力状態でもストレスなく行挿入ができるように「Insert」キーのみで行挿入ができるよう配慮されています。

また、入力状態でなくても(カレントセル行が帯状の青色反転になっている状態)挿入は「Ctrl」+「I」、削除は「Ctrl」+「D」によりキーボードからでも操作することができます。

行追加	Ctrl+A
行挿入	Ctrl+I
行コピー	Ctrl+C
行貼付	Ctrl+P
行削除	Ctrl+D
セルコピー	
セル貼付	

e. 集計

床・天井数量計算書の入力が終了したら、必ず床、天井とも「集計」ボタンでそれぞれの集計を行ってください。

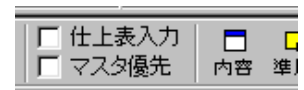
f. 編集時に便利な機能

仕上表入力チェック

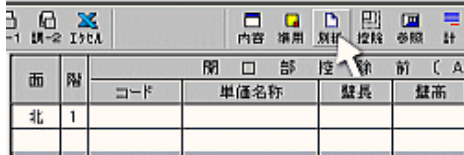
ここを[ON]にすると、仕上表を作成するためのモードになります。階数、部屋名のほかは[床]と[天井]の仕上げ部分についてのみの入力セルに誘導します。

マスタ優先チェック

ここを[ON]にすると、仕上表を作成するためのモードのとき、次の入力へ移行した時点でマスタ選択の画面が優先されます。[OFF]のときは次のセルが入力状態となります。

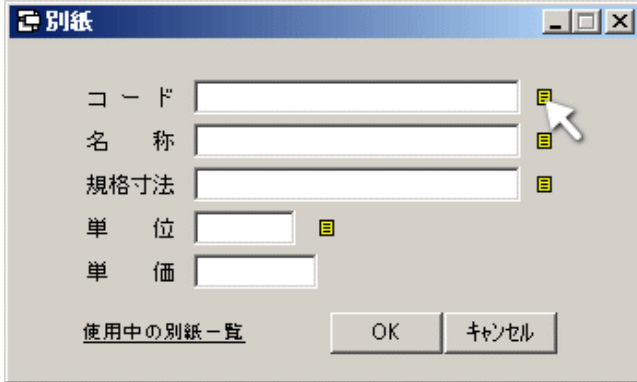


別紙(代価表)の作成(1)



面	階	閉	口	部	控	前	計
北	1	コード	単価名称	壁長	壁高		

Hosでは、代価表等を「別紙」と称しています。「別紙」を「別紙」とするか「代価表」等とするかはユーザ設定によりますが、ここでは便宜上「別紙」として扱います。「別紙」を作成するには、作成したい行で、左図矢印の「別紙」ボタンをクリックします。



別紙

コード

名称

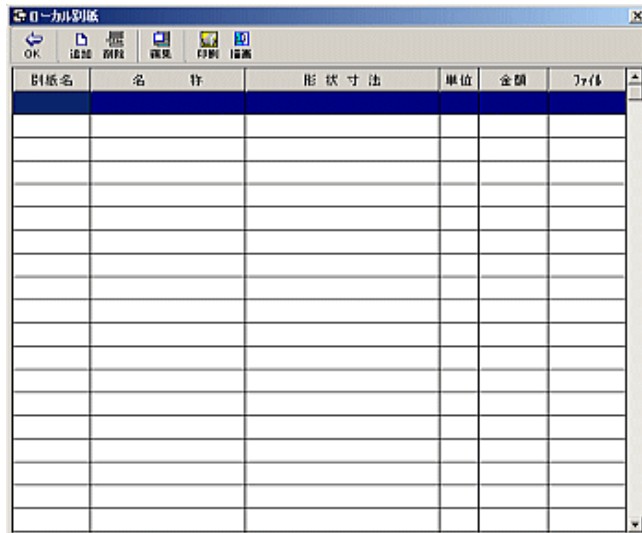
規格寸法

単位

単価

使用中の別紙一覧 OK キャンセル

左図は空白行で「別紙」ボタンをクリックして開いた画面です。空白行なので各項目は空白データとなっています。この中に別紙を取り込むには、左図矢印のボタンをクリックします。



別紙名	名	作	形	状	寸	法	単	位	金	額	マ	ツ	リ

次に関く画面は、当該現場に登録されている別紙一覧ですが、左図ではまだ何も登録されていない状態です。



ローカル別紙

OK 追加 削除 編集 印刷 描画

一覧表から選択決定 | 一覧表に新しい別紙を追加 | 一覧表から別紙を削除 | 作成した別紙の内容変更 | 別紙印刷 | 別紙プレビュー

上図は左図画面の上部コマンドボタンの説明です。この中の印刷とそのプレビューはエクセル出力時のシミュレーションですので、参考程度にお考え下さい。

ここでは新しく別紙を追加します。上図上部の[追加]ボタンをクリックすると、下図(次ページ)の画面が開きます。

コード	名称	形状寸法	単位		係数	
コード	名称	形状寸法	単位	負数	単価	金額
作成別紙の単価名等(黄色行)						
別紙の内訳書						
計 係数	内訳書の計					
内訳書内各単価の数量式及び単価算出式						

最上段「黄色」行がこの別紙の単価名で「名称」「形状寸法」「単位」は手入力となります。
 その下のエリアはこの別紙の内訳書です。
 中段は上部内訳書の合計行。
 最下段エリアは内訳書内各単価の数量式、及び単価の算出式を入力します。

別紙(代価表)の作成(2)

各エリアの作成順番としては、内訳書 数量式 別紙の表題(黄色行)で、中段の合計エリアは自動作成されます。

〔内訳書〕

コード	名称	形状寸法
コード		形状寸法

まず、内訳書「コード」列の最上段をクリックした後、マウスの右ボタンをクリックして「単価マスタ」選択画面を開き、市場単価をクリックして

市場単価を作成する場合は、上図のボタンのようにこの画面に登録する[サーバ]登録型と、サーバには保存しない[非保]非保存形式の作成方法があります。

左図「出典名」より「積算ポケット」を選択します。

出典名の []内はその資料の略記号です。例えば[積ホ]となっていれば、そのコードは「積ホ-P999」のようになります。

左図のように予めサーバに登録されていると、各科目ごとに登録された単価が表示されます。

市場単価のように登録しても他で使用される機会が少ないものは、「サーバ」追加ボタンによるサーバ登録型よりも、サーバに保存せずに一過性のものとして作成する「非保」ボタンによる非保存型の市場単価作成を行った方が合理的な場合もありますので、市場単価を作成する場合はその性格に応じて「サーバ」「非保」を使い分けて下さい。

[サーバ]または[非保]ボタンをクリックすると左図の画面が新たに開きます。名称その他必要項目を入力してください。形状寸法上部にある×や××は寸法補助、単位のそれはよく使われる単位を入力補助として置いてあります。

備考の[P***]は、備考欄をクリックしたときに***の部分反転しますので、そのまま出典頁数を入力して下さい。

マスターコード編集

名称 シャッター雨戸

形状寸法 W2,670×H1,800

単価 60,100 80%属 単位 ヶ所

備考 [P549]

コード 積水®-P549

OK キャンセル

コードは頁数を入力すると自動作成されます。

80%属性は[非保]作成では無効となっていますが[サーバ]登録時には有効となります。これを指定しておくで登録一覧から選択するとき単価を80%にして貼り付けるかを問合せします。作成時点の単価はいずれの場合も出典先の通り生の単価を入力しておいて下さい。

[OK]ボタンをクリックすると[サーバ]の場合は一覧画面、[非保]の場合は別紙入力画面に戻ります。

コード	名称	形状寸法	単位	係数		
積水®-P549	シャッター雨戸	W2,670×H1,800	ヶ所		60,100	

別紙の内訳書に貼付けされた市場単価には[員数]と[金額]欄が空白となっていますが、ここはそのままにして次の単価を貼付けします。

コード	名称	形状寸法
積水®-P549	シャッター雨戸	W2,670×H1,800

次は「標準単価」を選択してください。「サッシ工」を貼付けします。

標準単価

23 非保用 積水 ¥16,200 サッシ工 (人)

大科目	番号	名称	単価
仮設	6	石工	
土工・地業	7	アソビ工	
く体	8	電工	
建具	9	鉄筋工	
外部仕上	10	鉄骨工	
内部仕上	11	塗装工	
電気設備	12	沼掘工	
結露水衛生設備	13	運転手(特殊)	
空気調和・昇降設備	14	運転手(一般)	
解体	15	型枠工	
運搬・発生材・廃材処分	16	大工	
工作物	17	左官工	
労務単価-その他	18	配管工	
資材単価	19	はり工	
中科目	20	防水工	
労務単価	21	板金工	
地材費等、その他	22	ク体工	
電話・ファクシ設備	23	サッシ工	
	24	屋根葺工	
	25	内装工	
	26	ガラス工	
	27	畳工	
	28	建具工	
	29	ク外工	
	30	保温工	

標準単価マスタ画面が開きましたら、大科目、中科目を選択して目的の「サッシ工」をダブルクリックしてください。

コードがあらかじめ分かっているのでしたら、上図コード欄をクリックした状態でコードを入力後[Enter]キーを押下することにより取得可能です。

コード入力時には、必ずしも入力セルをダブルクリックする等による入力状態にしなくても、該当セルが選択されていればそのままコード入力出来ます。

コード	名称	形状寸法	単位	係数		
積水®-P549	シャッター雨戸	W2,670×H1,800	ヶ所		60,100	
23	サッシ工		人		16,200	
900002	その他	労×10~15%	式			

上図は内訳書への単価貼付けが終了した状態です。次に各単価の数量式を入力します。これにより「員数」と「金額」が確定します。

別紙(代価表)の作成(3)

[計算式(1)]

計		
係数		

最下段エリアの最上行「式」列(左図)をクリックして、マウスの右ボタンをクリックするとポップアップメニューが開きますので、そこから参照表を選択します。

別紙テキスト

- ※員数
- ※員数は、コードより。
- ※員数は、コードより準用
- ※積算ホケット手帳及びびかろぐ等の資材掲載価格については、8割を標準とする。
- ※員数は、旧損失補償算定標準書算定要領及び歩係編〔Ⅱ〕コードより。
- 【間口で按分】
- 積ホ = 積算ホケット
- 員数は、コード準用

員数	積算ホケット
員数	積算ホケット
員数	積算ホケット
員数	積算ホケット
員数	積算ホケット
員数	積算ホケット
員数	積算ホケット
員数	積算ホケット
員数	積算ホケット
員数	積算ホケット
員数	積算ホケット

参照表には初期値で左図の内容が入っていますが、自由に編集できます。表上のどこかでマウスの右ボタンをクリックしますと、編集可能な画面(右図)が開きますので、そこで内容の変更、削除、追加を行ってください。

ここでは「員数は、コードより。」を選択します。

計		
係数		

左図は参照表より貼付けした後、そのセルをダブルクリックして編集可能状態し、反転した部分(254351)を挿入したところです。

計		
係数		

次行で、もう一度マウスの右ボタンをクリックしてポップアップメニューを開き、「内訳より名称コピー」を選択します。

計		
係数		
※負数は、コード254351より。		
シャッター雨戸		
サッシ工		
その他		
計		
係数		
※負数は、コード254351より。		
シャッター雨戸	1.000	
サッシ工	0.200 × 4.806m ²	
その他	0.120	

名称を内訳からコピーすると、各行は上部エリアの内訳内「員数」「単価」と連動し始めます。

シャッター雨戸はヶ所単位ですので、式セルに単に「1.000」と入力します。サッシ工は数量を算出する「式」を入力します。

ここでは「0.200*4.806」と入力してください。単位等式以外の文字を同時に入力できますが、演算子を除く全角、半角英字のみ有効です。例えば「m²」は関知しません(有効)が「m2」は数字の「2」が演算対象となり、結果に影響を与えます。

[m2]のように演算結果に影響を与えるような文字は、下の演算処理を行った後入力してください。

次に入力した式から値を抽出し、その結果を右側の計欄に表示します。有効な式をドラッグして選択状態にしてマウスの右ボタンをクリックします。開いたポップアップメニューから「計算(計セル)」を選択します。

※負数は、コード254351より。					
1.000					
0.200 × 4.806m ²					
0.120					

- 参照表
- 計算(セル内)
- 計算(計セル)**
- 内訳より名称コピー
- 行挿入
- 行コピー
- 行貼付
- 行削除

計(セル) ✕

員数...「はい」

単価...「いいえ」

続けて左図の画面が開き、計算対象が「員数」か「単価」かを問い合わせてきますので、今回の場合は「員数」を選択します。

「員数」を選択すると、最終的に小数点以下第3位を四捨五入します。「単価」は端数処理を行います。

結果は下図の様になり、結果が内訳表の員数に自動挿入されます。その他の単価「15,552」は内訳単価欄に直接入力して下さい。

コード	名称	形状寸法	単位	係数	単価	金額
					75,600	
コード	名称	形状寸法	単位	員数	単価	金額
積木-P549	シャッター雨戸	W2,670 × H1,800	ヶ所	1.00	60,100	60,100
23	サッシ工		人	0.96	16,200	15,552
900002	その他	労×10~15%	式	0.12		
計						75,652
係数						75,600
	※負数は、コード254351より。					
シャッター雨戸	1.000		=	1.000	=	1.00
サッシ工	0.200 × 4.806m ²		=	0.961	=	0.96
その他	0.120		=	0.120	=	0.12

別紙(代価表)の作成(4)

【計算式(2)】

		※別紙テキスト
		※員数
		※員数は、コトより。
		※員数は、コトより準用
		※積算ホケット手帳及び功知が等の
		資材掲載価格については、8割を
		標準とする。
		※員数は、旧損失補償算定標準書
		算定要領及び歩係編【Ⅱ】
		コトより。
		【間口で按分】
		積ホ = 積算ホケット
		員数は、コト準用
計		
係数		
シャッター雨戸	1.00	
サッシ工	0.20	
その他	0.120	
		※積算ホケット手帳及び功知が等の

次に式行に注釈を入れます。

左図のように長い文章を参照表から貼付ける場合は、前の文章に上書きするように貼り付ければ、前文の後方に新しい文が追加されま

計		
係数		
		※員数は、コト254351より。
シャッター雨戸	1.000	
サッシ工		
その他		
		等の資材掲載価格については、8

ここで「シャッター雨戸」の単価を8割にするため、「シャッター雨戸」のセルをコピーします。

「シャッター雨戸」のセルを入力状態(セル上でダブルクリック又はEnter押下)にし、文字列を選択状態にした上でマウスの右ボタンをクリック後、ポップアップメニューから「コピー」を選択します。

計		
係数		
シャッター雨戸		
サッシ工		
その他		
		の資材掲載価格については、8

貼付したいセルを入力状態にして、マウスの右ボタンをクリック。ポップアップメニューから「貼り付け」を選択して「シャッター雨戸」を貼り付けます

		※員数は、コト254351より。
シャッター雨戸	1.000	
サッシ工	0.200 × 4.806㎡	
その他	0.120	
		※積算ホケット手帳及び功知が等の資材掲載価格については、8
シャッター雨戸	60,100 × 0.8	
		参照表
		計算(セル内)
		計算(計セル)
		内訳より名称コピー
		行挿入

現在の単価「60,100」を引用して式には「60,100*0.8」と入力します。このときカンマ「,」は式に含めて計算できます。

この式のセルをクリック後マウスの右ボタンで開くポップアップメニューより「計算(計セル)」を選択します

計(セル)

負数・・・「はい」

単価・・・「いいえ」

はい(Y) いいえ(N)

今回は「単価」式ですから、いいえ(単価)を選択してください。
 計算した結果は小数点以下を切捨てた後、その結果を端数処理します。(下図参照)

コード	名称	形状寸法	単位		係数	
					65,400	
コード	名称	形状寸法	単位	負数	単価	金額
積水-P549	シャッター雨戸	W2,670×H1,800	ヶ所	1.00	48,000	48,000
23	サッシ工		人	0.96	16,200	15,552
900002	その他	労×10～15%	式	0.12	15,552	1,866
計						65,418
係数						65,400
※負数は、コード254351より。						
シャッター雨戸	1.000			=	1.000	= 1.00
サッシ工	0.200×4.806m ²			=	0.961	= 0.96
その他	0.120			=	0.120	= 0.12
※積算ホウツ手帳及び功知が等の資材掲載価格については、8割を標準とする。						
シャッター雨戸	60,100×0.8			=	48,080	= 48,000

コード	名称	形状寸法
積水-P549	シャッター雨戸	W2,670×H1,800
23	サッシ工	
900002	その他	15%

行挿入
 行コピー
 行貼付
 行削除
 準用
 表題へコピー

次にこの別紙の単価名称を決定します。今回のようなケースでは内訳表最上段の「シャッター雨戸」をそのまま流用できますから、その様な場合はポップアップメニューに「表題へコピー」コマンドが用意されていますのでそれをご利用下さい。

コード	名称	形状寸法
	雨戸	W2,670×H1,800(4.806m ²)
	雨戸	W2,670×H1,800
		労×10～15%

代価

- 建具代価
- 仕上代価
- 造作代価
- 設備代価
- 解体代価
- 付随代価
- 飾(金属)代価
- 建具別紙
- 仕上別紙
- 造作別紙
- 設備別紙
- 解体別紙
- 付随別紙

コードの分類を決定します。コードセル上(入力状態ではありません)で右ボタンをクリックしますと、左図のようにコード分類一覧が開きますので、該当名称を選択します。この中に該当するものが無いときは更に表上で右ボタンをクリックすると編集画面が開きますから、そこで追加して下さい。

別紙編集		
OK	中止	クリア 割戻 サージ
コード	名称	形状寸法
建具代価	シャッター雨戸	W2,670×H1,800(4.806㎡)
コード	名称	形状寸法
積木-P549	シャッター雨戸	W2,670×H1,800
23	サッシ工	
900002	その他	労×10~15%

[OK]ボタンをクリックしてこの別紙の作成を完了します。

別紙(代価表)の作成(5)

[サーバ登録]

コード	名称	形状寸法
建具代価	シャッター雨戸	W2,670×H1,800(4.806㎡)
コード	名称	形状寸法
積木-P549	シャッター雨戸	W2,670×H1,800
23	サッシ工	
900002	その他	労×10~15%

汎用性がある別紙は他の現場でも使用できるように「サーバ」に登録できます。

登録したい別紙をローカル別紙一覧表から選択し、編集ボタンをクリックして別紙編集画面を開きます。
オ (ナ) 編集画面上部にある[サーバ]ボタンをクリックします。

コード	名称	形状寸法
建具代価	シャッター雨戸	00(4.806㎡)
コード	名称	形状寸法
積木-P549	シャッター雨戸	00
23	サッシ工	

サーバ登録ツールが右側に開きますので、プルダウンメニューより該当する科目を選択して[登録]ボタンをクリックすれば完了です。

該当科目が無ければ左図のように[科目]ボタンをクリックして科目編集画面を開きます。

科目
建具(木製)
仕上(外壁)
仕上(内壁)
仕上(天井下)
仕上(床)
仕上(屋根)
造作
金属・塗装工事
設備(その他)
付随工作物
解体

科目編集画面での行挿入と行削除はマウス右ボタンによるポップアップメニューより行います。

「建具(金属製)」を「建具(木製)」の下に挿入するには、その直下の「仕上(外壁)」をクリックしておいてポップアップメニューを開き「行挿入」を選択します。

空白行ができたなら、そこをダブルクリックして入力状態にし「建具(金属製)」を入力して完了です。

科目
建具(木製)
仕上(外壁)
仕上(内壁)
仕上(天井下)
仕上(床)
仕上(屋根)
造作

科目
建具(木製)
建具(金属製)
仕上(外壁)
仕上(内壁)
仕上(天井下)
仕上(床)
仕上(屋根)
造作

[サーバより貼付]

別紙代価表追加	名称	形状寸法
建具代価	シャッター雨戸	W2,670×H1,800(4.806㎡)

サーバから別紙をローカルにコピーするには、ローカル別紙一覧表上部にある[追加]をクリックして空白の別紙追加画面を開きます。

コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法

登録時と同じように[サーバ]ボタンをクリックします。

開いた画面の上部(黄色)のエリアが現在の科目内(下図では「建具(木製)」)別紙一覧です。その下のエリアは一覧で現在選択されている別紙の内容となります。

別紙追加						
コード	名称	形状寸法	単位	係数	備考	
40302140.711	欄間・障子	H500×W790	ヶ所	128,000		
40302101.946	折戸ユニットセット	0.5間・パネル／四方枠	組	56,700		
40301171.849	折戸ユニットセット	1.0間・パネル／四方枠	組	90,700		
40301171.023	折戸ユニットセット	1.0間・パネル／四方枠	組	85,000		
40301164.616	折戸ユニットセット	1.0間・パネル／四方枠	組	120,400		
40226135.619	クローゼット収納折戸	四方枠・幅1,680mm	組	111,600		
コード	名称	形状寸法	単位	負数	単価	金額
165021 補正	欄間・障子	H1360×W1700	ヶ所	1.00	128,000	128,000
上部一覧で選択されている別紙の内容						
計						128,000
係数						128,000
欄間・障子	144000×(0.5×0.79)÷(1.36×1.7)			=	24,602	≒ 24,600

先ほど登録した「シャッター雨戸」も登録されています。ここでは上図「欄間・障子」を選択して[決定]をクリックします。

別紙追加						
コード	名称	形状寸法	単位	係数	備考	
50216174.455	シャッター雨戸	W2,670×H1,800(4,806㎡)	ヶ所	65,400		
※負数は、コード254351より。						
コード	名称	形状寸法	単位	負数	単価	金額
積木-P549	シャッター雨戸	W2,670×H1,800	ヶ所	1.00	48,000	48,000
23	サッシ工		人	0.96	16,200	15,552
900002	その他	労×10~15%	式	0.12	15,552	1,866
計						65,418
係数						65,400
シャッター雨戸	1.000			=	1,000	≒ 1,00
サッシ工	0.200×4,806㎡			=	0,961	≒ 0,96
その他	0.120			=	0,120	≒ 0,12
※積算ソフト手帳及び功知が等の資材掲載価格については、8割を標準とする。						
シャッター雨戸	60,100×0.8			=	48,080	≒ 48,000

空白の別紙追加画面にサーバで選択された別紙がコピーされましたら「コード」の分類を決定後完了となります。

コード	名称	形状寸法	単位		係数	
	欄間・障子	H500×W790	ヶ所		128,000	
コード	名称	形状寸法	単位	負数	単価	金額
165021 補正	欄間・障子	H1360×W1700	ヶ所	1.00	128,000	128,000
計						128,000
係数						128,000
欄間・障子	144000×0.5×0.79÷(1.36×1.7)				=	24,602
					≒	24,600

別紙(代価表)の作成(6)

[子別紙(別紙の別紙)作成手順]

コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法

Hosは内訳表内のコードに[*]が付加された行には子別紙があると評価します。ただし子別紙のコードはHosが管理しますので、ユーザは子別紙を作成するときはそのコードを意識(コードを作成)する必要はありません。

子別紙追加		
コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法
コード	名称	形状寸法

単価マスタ選択画面(上図)から「合成単価」を選択すると、左図のように新しい別紙追加画面が開きます。

これに子別紙のデータを入力します。下図は子別紙完成例です。

子別紙にはコード属性はありません(親別紙のコード属性)ので別紙名のコードは空白にして[OK]ボタンをクリックして完了して下さい。コードはHosが生成します。

コード	名称	形状寸法	単位	係数	単価	金額
	格子天井・6帖	敷目・網代・よしず・葦板共	ク所		310,700	
246701	和室天井	杉空(ワ)天・敷目	m2	4.92	8,440	41,524
積木-P654	網代天井	杉葎アジロ・材	m2	3.90	2,520	9,828
積木-P654	網代天井	杉葎アジロ・工	m2	3.90	3,700	14,430
積木-P654	よしず	さつまよし・材	m2	1.02	3,880	3,957
積木-P654	よしず	さつまよし・工	m2	1.02	3,800	3,876
265071	葦板・[既製品]	182×21cm×厚24mm・杉空貼	枚	14.03	16,900	237,107
計						310,722
係数						310,700
※負数						
和室天井	2.73×3.64 - 1.83×2.74		=	4.923	=	4.92
網代天井	4.923 - 1.024		=	3.899	=	3.90
網代天井・材	3,150×0.8		=	2,520	=	2,520
網代天井・工	6,850 - 3,150		=	3,700	=	3,700
よしず	0.16×2.74 + 1.83×0.16×2		=	1.024	=	1.02
よしず・材	4,850×0.8		=	3,880	=	3,880
よしず・工	8,650 - 4,850		=	3,800	=	3,800
葦板・[既製品]	②.73×2 + 3.64×2 + 1.83×4 + 2.74×2)÷1.82		=	14.032	=	14.03
※積算ソフトウェア帳及び補助帳等の資料掲載価格については、8割を標準とする。						

別紙(親)編集画面に挿入された子別紙単価

コード	名称	形状寸法	単位	係数	金額	
コード	名称	形状寸法	単位	員数	単価	金額
*1	格子天井・6帖	敷目・網代・よしず・幕板共	ク所		310,700	

親別紙に記入された子別紙コードは、エクセル転送時に親別紙番号に枝番を付加したコードが振られます。例えば親別紙のコードが「仕上代価 4」であれば子別紙のコードは「4-1」等となり、親別紙の次頁に挿入されます。

もちろんこの行のほかにも通常の標準単価コード等との混在もできます。

【子別紙の再編集】

子別紙コード上で単価マスタ選択画面を開き「合成単価」を選択すると、その子別紙編集画面が開きます。このとき子別紙編集画面の子別紙単価名にあるコードには[*]マークが表示されますが、これを消去したり改変しないようご注意ください。

コード	名称	形状寸法
*	格子天井・6帖	敷目・網代・よしず・幕板共
コード	名称	形状寸法
246701	和室天井	杉空(ワ)天・敷目
積水®-P654	網代天井	杉柂アジロ・材
積水®-P654	網代天井	杉柂アジロ・工

【割戻】

歩掛によっては僅少量を有効にするため意図的に10倍の員数を用いたものがありますが、その金額を1/10に戻すために「割戻」ボタンを用意しています。(下図)

コード	名称	形状寸法	単位	係数	金額	
造作代価	板庇・(塩ビ)波板葺	W182×D60cm・ラッカー塗装	ク所	198,900		
コード	名称	形状寸法	単位	員数	単価	金額
146001	木材・[正角材]			0.45	44,400	19,980
146041	木材・[板材]			0.30	47,600	14,280
241411	硬質塩ビ波板葺			15.26	1,260	19,227
261131	フタル酸樹脂ワニス塗			15.69	1,690	26,516
16	大工			4.50	20,800	93,600
2	普通作業員			0.40	13,900	5,560
900012	釘・金物・接着剤	労×4%	式	0.04	99,160	3,966
900001	その他	労×12~20%	式	0.16	99,160	15,865
計						198,994
係数						198,900

小計						198,994
計		小計÷10				19,899
係数						19,800

別紙の【他システム】への送信

別紙送受信のイメージ



メールの添付ファイルとして送りたい別紙を送信用フォルダへコピーする

ここでは、上図【別紙送受信のイメージ】の左側部分について説明しています。

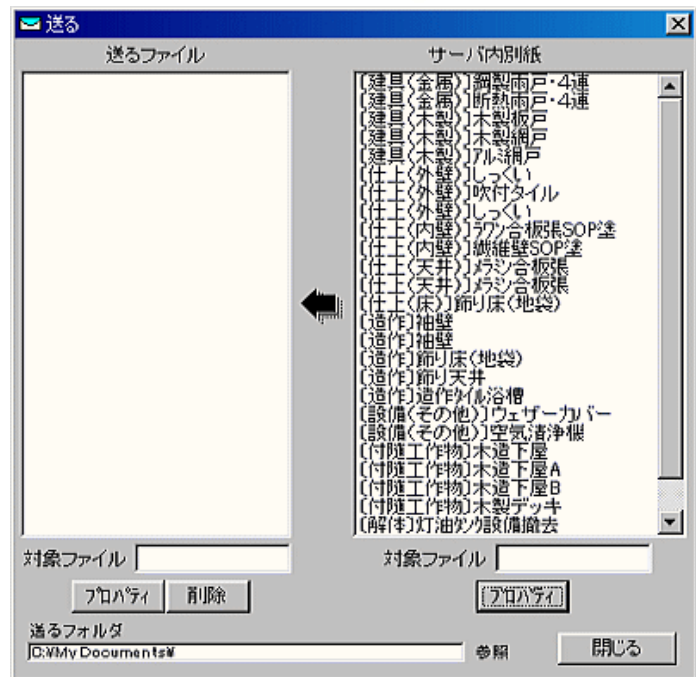
サーバ別紙上段【別紙一覧表】上でマウスの右ボタンをクリックすると、右図のようにポップアップメニューが開きます。その中から【送る】を選択します。



右図はその「送る」画面です。

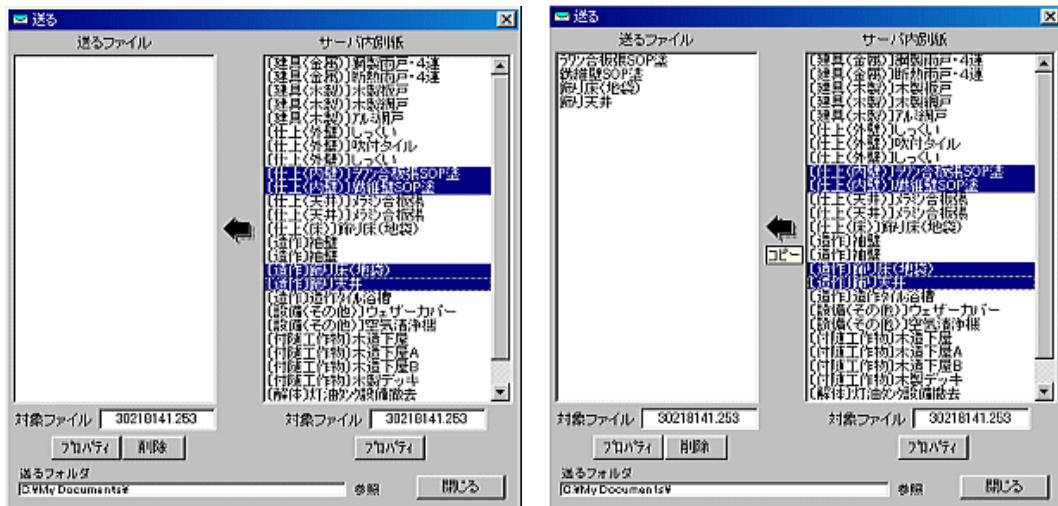
図、左側の窓が「送信フォルダ」、右側が「サーバ内別紙」一覧で、()付きはその科目を表します。この画面では、各々の内容はチェックできませんが、規格、単価等は【プロパティ】ボタンで見ることが出来ます。

【対象ファイル】には、その別紙ファイルのOSレベルでの名前が表示されます。また、左側窓の送信フォルダは、最下部の「送るフォルダ」の【参照】ボタンで任意に指定できます。ただし、添付ファイルとして結合するときに、一応他の関係ないファイルと混合しても別紙ファイルのみを抽出できるようには配慮していますが、なるべくならば専用のフォルダをご用意ください。



送りたい別紙を一覧より選択してコピー

左下図は送りたい別紙を選択した状態になっています。右下図は、両窓中央にある左向き矢印ボタンをクリックして、コピーが終了したところです。「送る」画面ではここまでが作業領域ですので、「閉じる」ボタンで一旦終了します。後は「登録一覧」(Hos起動直後の画面)にある「メール送信」にて、送信フォルダにコピーした別紙ファイルを、添付ファイルとしてメール送信を行います。



「子別紙」を送信フォルダへコピーする場合は、子別紙一覧画面から独立して行いますが、親別紙と同じ送信フォルダへコピーしても、受信側システムで最後に科目別に振分けする段階で区別できます。

送信用フォルダの別紙ファイルを結合してメール送信

「送りたい別紙を一覧より選択してコピー」が終了したら、「登録一覧」画面(右図)にある「メール」ボタンをクリックして、別紙ファイルを結合後、添付ファイルとして送信します。このときHosは、一覧表の選択バーがどの位置にあっても「別紙送信」では無視します。

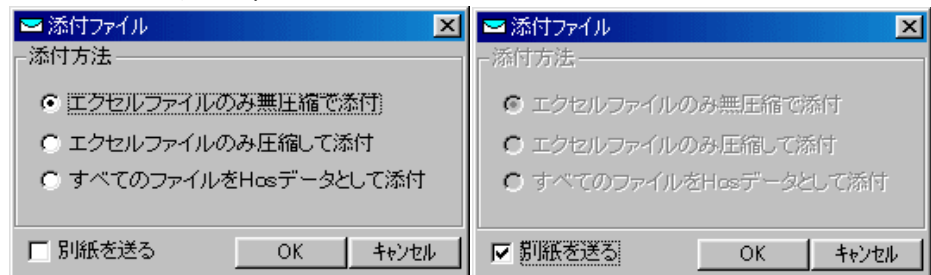
ここまでの一連の処理はHosが行いますので、面倒なお手間はかけません。



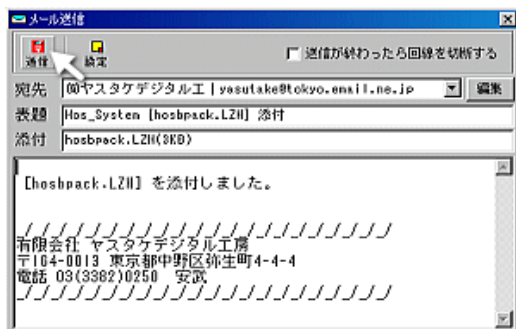
結合

データ送信時のおなじみの画面が左下図です。その画面の左下にある「別紙を送る」にチェックを入れると右下図になります。この状態で「OK」ボタンをクリックしてください。

結合・圧縮が始まりましたら、操作を間違えても、中止しないでそのままプロセスを終了してください。次の送信画面で画面を閉じれば、圧縮ファイルは自動的に削除されます。



宛先を選択して[送信]



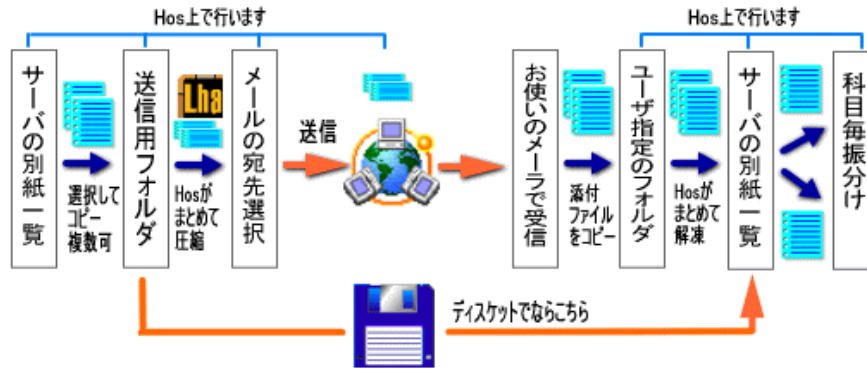
左図は、結合・圧縮後表示される「メール送信」画面です。ここで、目的の宛先を選択します。文章も普通に加えることができますが、送信履歴は現在のところ表示できませんのでご了承ください。

準備が出来ましたら「送信」ボタンをクリックしてください。この画面が消えたら送信終了です。

なお、この部分のご使用のパソコンがインターネットのプロバイダにアクセスが可能で、Hosのメーラ設定が終了していることを前提としています。

別紙の【他システム】からの受信と登録

別紙送受信のイメージ



メールの添付ファイルとして届いた別紙ファイルをサーバ別紙へ登録する

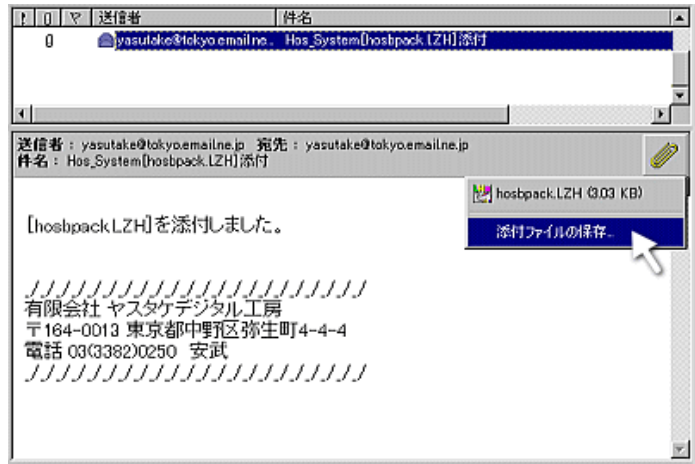
ここでは、上図【別紙送受信のイメージ】の右側部分について説明しています。

他のシステムからメールを介して送られてきた別紙結合ファイルは、一旦所定のフォルダへ保存します。

所定のフォルダとは、Hos【ツール】メニューにある【オプション】画面の【メール添付】で指定されたフォルダです。

普通は【My Documents】または【Documents and Setting】下に設定します。

右図は一般的なアウトLOOK・エクスプレスにより受信した画面で、添付された別紙結合ファイルを、所定のフォルダへ保存しようとしています。添付ファイル名は、別紙の場合は「hospack.lzh」に固定されています。



サーバ別紙上段【別紙一覧表】上でマウスの右ボタンをクリックすると、右図のようにポップアップメニューが開きます。その中から【更新】を選択します。



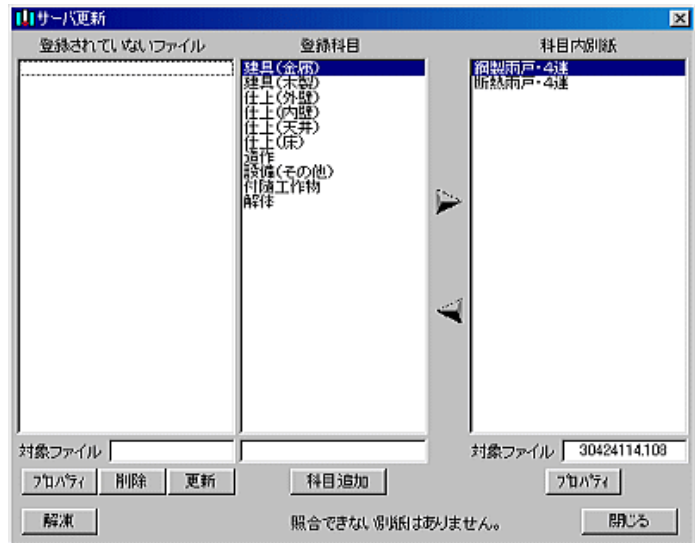
右図はその「サーバ更新」画面です。

図、左側の窓が「登録されていないファイル(別紙)」、中央が「サーバ内の別紙科目」、右側が「科目内別紙一覧」です。

この画面では、各々の内容はチェックできませんが、規格、単価等は【プロパティ】ボタンで見ることが出来ます。

【対象ファイル】には、その別紙ファイルのOSレベルでの名前が表示されます。また、中央窓の科目には、新しい科目を追加することも出来ます。

先ほどコピーした添付ファイル「hospack.lzh」を送信サーバに解凍するには、画面左下にある【解凍】コマンドボタンをクリックします。



右図は【解凍】コマンドボタンをクリックしようとしています。クリック後「hospack.lzh がありません」というプロンプトが出る場合は、「hospack.lzh」のコピー先が所定フォルダと違うフォルダへコピーされている可能性があります。

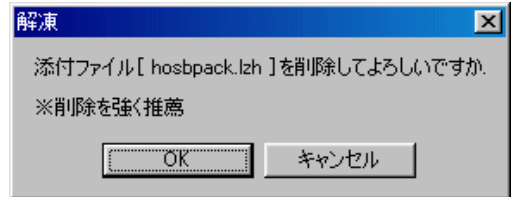


解凍中、右図の[上書き確認]画面が出るときは、OSレベルで同じ名前のファイルがあることを示しています。

一般的に、受け側の別紙サーバに無い別紙を取り寄せる場合は、このパターンは確率的にありえませんが、受け側と同じ別紙を、更新された(単価等)ものとして受け取る場合にはこのような警告が出ます。[上書き確認]画面が出たときは、十分な注意が必要です。



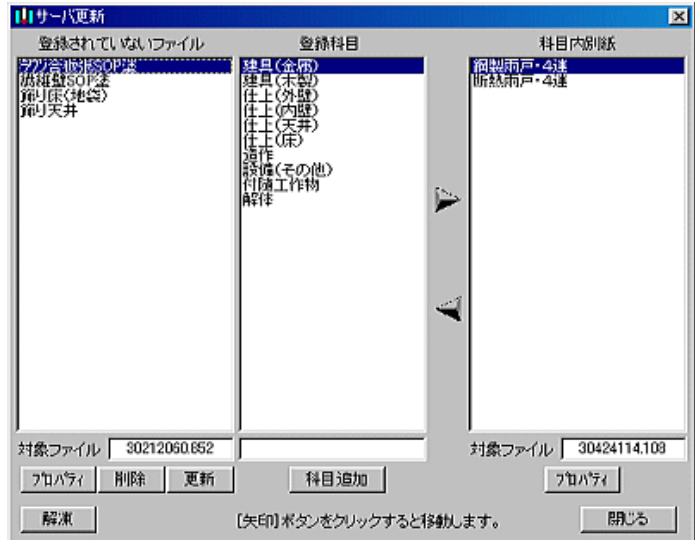
正常に解凍されると右のプロンプトが表示されますが、残す理由がなければ[OK]ボタンをクリックして、'hosbpack.lzh'を削除してください。



解凍した別紙の科目振分け

右図は解凍直後の例です。

左側窓「登録されていないファイル」が今解凍された別紙ファイルです。これら科目属性がない別紙ファイルを、それぞれ一致する科目へ振り分けます。一致する科目がない場合は、中央窓(科目一覧)下の[科目追加]ボタン上部にあるテキストボックスに、追加したい科目名を入力して[科目追加]ボタンをクリックしてください。



右図は「登録されていないファイル」にある二つの別紙を選択後、該当科目である「仕上(内壁)」を選択しています。例では右側窓の「科目内別紙」が空白になっていますが、これは該当科目に別紙が何も登録されていないことを示して

同時に複数の別紙を、同一の科目へコピーできます。複数の別紙を選択する方法は、Windows標準の方法で、連続した選択はそのままマウスでドラッグするか、最初のファイルをクリックしておき、最後のファイルキーボードの[Shift]を押しながらクリックします。

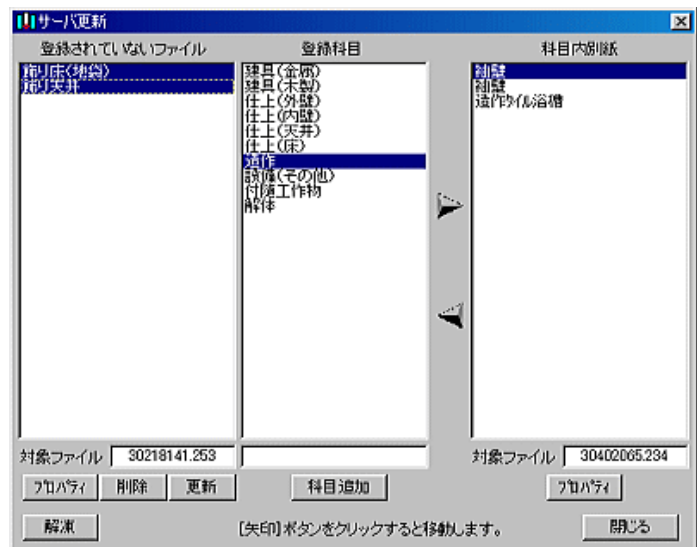
不連続な選択は[Ctrl]を押しながらクリックします。



ここで中央窓と右側窓の間にある[右矢印]ボタン(上)をクリックすると、左側窓「登録されていないファイル」から選択した別紙が、選択されている科目の属性を得て、移動します。

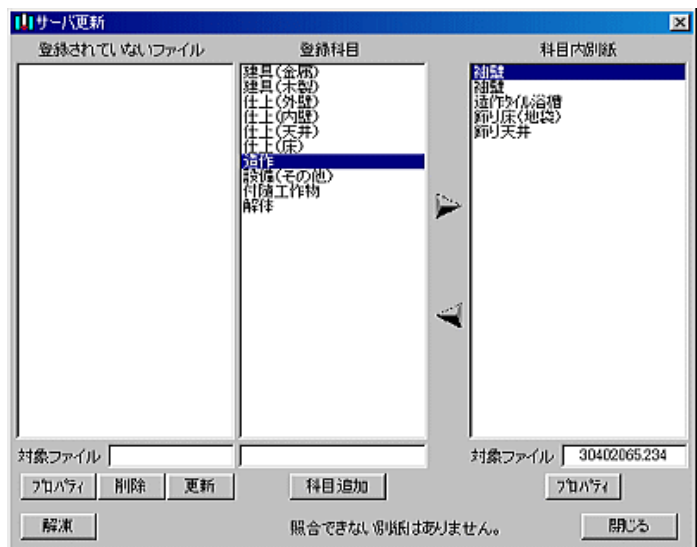


右図の例では、左側窓「登録されていないファイル」に残った二つのファイルを選択して、さらに該当科目である[造作]を選択しています。[造作]科目にはすでに三つの別紙が登録されているのがわかります。科目内にある別紙名称と左側窓「登録されていないファイル」の中にある別紙名称が同じであっても、それぞれOSレベルのファイル名が違いますので、同じ科目



右図は「登録されていないファイル」フォルダからすべての別紙の移動を終了したところで「閉じる」ボタンで終了します。

サーバ別紙画面に戻ると、今登録した別紙が反映されているのがわかると思います。



仮設

調査表-1の延床積C仮設部(外壁面数、シーリング等)の八ノリが適正かどうかは「作成」ボタンで元々の調査が自動作成できます

延床面積 A		規模補正率 B		建物形状補正率 C		仮設工事面積 A×B×C=D	
157.21		0.90		1.05		148.563	
コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	仮設工事面積	金額	
202001	仮設工事費(A)	防災防止シート	延㎡	6,050	148.56	898,788	

直近下位比較補正表

直近下位との比較が必要な数量については「作成」時にその比較補正表を同時に出力し、適正な数量を採用します。

延床面積 A	規模補正率 B	建物形状補正率 C	A×B×C=D	備考
157.21	0.90	1.05	148.563	採用
直近下位				
129.99	1.00	1.05	136.489	

基礎

a. 布基礎

下図、最上段のいくつかは「作成」ボタンにより調査表 - 1から取得されます。中段と下段は「単価マスタ」チェックをONにして入力画面下方に開く単価マスタから該当単価データを選択すれば完了です。上段「略記号」と「基礎長」「基礎外周長」は単価データが選択された時点で自動挿入されます。

面積区分	用途	略記号	1階床面積 A	基礎率 B	基礎長 A×B	
IV	専用住宅	CF03	122.43	1.06	129.775	
コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	基礎長計	
215005	布基礎(有筋)	A1=30cm・B1=12cm・(CF03)・縦桷堀	m	8,590	129.78	1,114,810
仕上コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	基礎外周長	
215511	布基礎(外刷毛仕上)	H=30cm	m	1,400	48.52	67,928

布基礎長補正表(直近下位比較表)が自動生成されます。

b. 束石基礎

下図、上段のいくつかは「作成」ボタンにより調査表 - 1から取得されます。下段は「単価マスタ」チェックをONにして入力画面下方に開く単価マスタから該当単価データを選択すれば完了です。「束石数量計」は単価データが選択された時点で自動挿入されます。

1階床面積 A	束石面積 B	A-B=C	面積区分	基礎率 D	束石数量 C×D	
122.43		122.43	IV	0.47	58	
コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	束石数量計	金額
215241	束石(100kg)	15×15cm・(TS02)・縦桷堀	ヶ所	1,030	58	59,740

束石数量補正表(直近下位比較表)が自動生成されます。

c. ベタ基礎

下図、中段は「作成」ボタンにより調査表 - 1から取得されます。上段と下段は「単価マスタ」チェックをONにして入力画面下方に開く単価マスタから該当単価データを選択すれば完了です。上段「底盤施工面積」と下段「立上数量」は単価データが選択された時点で自動挿入されます。

コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	底盤施工面積	金額
215117	べた基礎(底盤部分)	厚15cm・有筋・(CW03)・縦桷堀	m ²	6,840	115.91	792,824
用途	底盤施工面積 A		基礎率 B		立上数量 A×B=C	
専用住宅	115.91		1.06		122.864	
コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	立上数量	金額
215147	べた基礎(立上部分)	A1=30cm・B1=12cm・(CW06)	m	2,900	122.86	356,294

ベタ基礎立上数量補正表(直近下位比較表)が自動生成されます。

数量等に補正(変更)の必要が生じた場合は直接変更が可能ですが、補正表を貼付する関係上、基礎で変更が可能なのは単価を選択する直前までです。基礎調書完成後に変更したい場合は「消去」を実行した後、再度「作成」を行ってください。これは補正表を再作成するためのもので、完成後に数量等を変更しても補正表には反映できません。

d. その他の基礎

土間コンクリートは「床数量計算書」で作成済みですのでそこから自動作成するほかは、単価マスタから選択しながら数量を拾う方式となります。

軸部

下図、最上段のいくつかは「作成」ボタンにより調査表 - 1から取得されます。中段と下段は「単価マスタ」チェックをONにして入力画面下方に開く単価マスタから該当単価データを選択すれば完了です。中段「木材材積量」と下段「延床面積」は単価データが選択された時点で自動挿入されます。

上段、各補正率は原則的に手入力となりますが、「施工状況補正率」に関しては「割引」ボタンから補正率を取得することもできます。

延床区分	用途	柱径	柱長	適用延床面積 A	木材材積率 B	柱径補正率	柱長補正率	施工状況 補正率	木材材積量A×B
V	専用住宅	120	3.00	157.21	0.19				29.869
コード	単価名称	形状寸法			単位	単価	木材材積量	金額	
231034	木材費	3等級・[B]			m ³	60,900	29.87	1,819,083	
コード	単価名称	形状寸法			単位	単価	適用延床面積	金額	
235003	労務費	専用・共同住宅・[Ⅲ]			延m ²	40,400	157.21	6,351,284	

軸部木材材積量補正表(直近下位比較表)が自動生成されます。ここでの補正表は、上段補正率セルで「Enter」を押下したときにも再作成されます。

屋根、設備、付随工作物

a. 屋根

下図は屋根入力例です。コード等の入力は外壁等調書と同様ですので省略します。

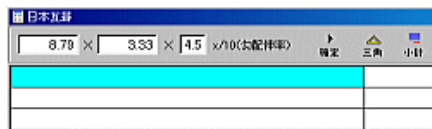
コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	施工面積	金額
241004	日本瓦葺	いぶし瓦・新唐き(銀色)・野地板を除く下地	m ²	7,240	200.01	1,448,072
241081	カラー鉄板平板葺	厚0.4mm・四つ切り・野地板を除く下地共	m ²	3,140	5.69	17,866

施工面積の求積表がCADで利用できます。施工面積セル入力状態でマウス右ボタンをクリックするか、対象行を青色反転させた状態で「計算」ボタンをクリックしてください。以下はその作成方法です。

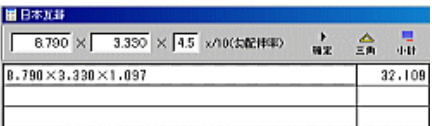
最上段空白行で「Enter」



1行目の式を入力(3.330は3.33でOK)



「Enter」を押下(式は整形されている)



入力を終了

式	面積
8.780 x 3.330 x 1.097	32.109
1.510 x 5.150 x 1.097	8.530
0.450 x 3.330 x 1.097	1.643
8.970 x 0.480 x 1.097	64.920
0.450 x 0.600 x 1.097	0.296
7.590 x 2.100 x 1.097	17.435
0.600 x 0.450 x 1.097	0.296
1.200 x 0.900 x 1.097	1.194
5.130 x 3.020 x 1.097	16.995
(2.73 + 3.03) x 0.45 x 1/2 x 1.097	1.569
8.500 x 5.050 x 1.097	55.061
計	200.000
合計	200.01

[OK]をクリックすると施工面積セルに合計を挿入します。

b. 設備、付随工作物

屋根と同じように「数量」セルに式を挿入できます。屋根のような求積表は作成しませんが、CAD転送表の備考欄に式を配置します。

(木造建物算定)取扱説明書

外壁、内壁、床、天井、開口部

これらの調書につきましては、すべて数量計算書で入力が終了してしまいますので、単に「作成」ボタンをクリックしていただけるだけで完了します。

コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	施工面積	金額

外壁作成結果例

コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	施工面積	金額
268490	外装・サイディング張	金属系・カラー鋼板・厚15mm・縦張・下地別	m ²	2,830	114.10	322,903
仕上代価	しっくい	木摺下地共	m ²	14,100	29.77	419,757
244605	外装・磁器質タイル	施軸・小口平・木摺・ラス共・(木適用)	m ²	17,600	3.89	60,464
246611	天井・ラワン合板張	厚4mm・2類・下地雑別途	m ²	2,370	46.50	110,205

(木造建物算定)取扱説明書

造作

造作では按分を多用するため、その支援プログラムが用意されています。按分対象行で「按分」をクリックしてください。

コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	数量	金額
265425	下駄箱(和風タイプ)	150×43.8×83.3cm	ヶ所	98,000	1	98,000
265501	カーテンボックス	杉・W15×H10×2.4cm	m	3,230	2.8	9,044
247725 按分	カーテンレール	ステンレス製・ダブル・2m物	組	3,800	1	3,800
247725	カーテンレール	ステンレス製・ダブル・2m物	組	3,800	1	3,800
247705 按分	カーテンレール	ステンレス製・シングル・2m物	組	3,910	1	3,910

上図の位置で「按分」ボタンをクリックすると下図のウィンドウが開きます。新規作成の初期画面は元の単価が左端のテキストボックスに表示されているだけです。すでに下図では元の寸法「3」mと按分要素「2」mが入力されています。

按分

造作按分

3,800 × % × 3 / 2 × / × /

3,800 × 3m / 2m = 5,700

クリア 小数点以下桁数 0 W/H/D 単位 m OK キャンセル

「OK」ボタンをクリックすると取得した新しい単価がセットされます。この時もとの単価は別の領域で保持されます。下図は作成された式が直後の行に挿入されたところです。式左端の「」はエクセル転送時に除去されます。

コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	数量	金額
265425	下駄箱(和風タイプ)	150×43.8×83.3cm	ヶ所	98,000	1	98,000
265501	カーテンボックス	杉・W15×H10×2.4cm	m	3,230	2.8	9,044
247725 按分	カーテンレール	ステンレス製・ダブル・2m物	組	5,700	1	5,700
				⇒ 3,800 × 3m / 2m = 5,700		
247725	カーテンレール	ステンレス製・ダブル・2m物	組	3,800	1	3,800
247705 按分	カーテンレール	ステンレス製・シングル・2m物	組	3,910	1	3,910

樋、塗装

これらの調書につきましては、「作成」ボタンをクリックすると必要な面積を調査表-1から取得します。その後単価マスタから該当データを面積取得行にセットしてください。

コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	1階床面積	金額
					122.43	
268011	錆(金属)工事	塩ビ製・半円・幅105mm・受金物共	建㎡	1,180		
268021	錆(金属)工事	塩ビ製・半円・幅120mm・受金物共	建㎡	1,290		
268031	錆(金属)工事	塩ビ製・角型・幅120mm・受金物共	建㎡	1,400		
268041	錆(金属)工事	塩ビ製・角型・幅150mm・受金物共	建㎡	1,600		

下図は、面積を取得した行に単価マスタから該当データをコピーしようとしています。

作成 計算 単用 別紙 按分 金額

単価マスタ(7)

コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	1階床面積	金額

設備

a. 入力例

下図はガス設備入力例です。コード、施工面積の求積表の入力は屋根調書等と同様ですので省略します。

コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	施工面積	金額
241004	日本瓦葺	いぶし瓦・新唐き(銀色)・野地板を除く下地	m ²	7,240	200.01	1,448,072
241081	カラー鉄板平板葺	厚0.4mm・四つ切り・野地板を除く下地共	m ²	3,140	5.69	17,866

設備では[その他の設備]にも該当しない汎用的な設備調書が作成できます。下記はその作成方法です。



作成方法

1. 「 」をクリックします。(左図)
2. 入力画面上部に「作成」ボタンと工事名入力ボックスが表示されますので、工事名を入力後「作成」ボタンをクリックしてください。(下図)



3. 作成ボタンをクリックすると左図のように今入力した工事名「店舗設備」が反映されると共に「 」が追加されます。この時点での「 」は次工事調書の候補です。「 」をクリックして「作成」しなければエクセル転送時に無視されます。「 」を作成すれば「 」の次候補が追加され、最大「 」まで追加が可能です。

4. 調書を削除したい場合は下図「削除」ボタンをクリックしてください。削除すると順次番号が入れ替わります。



上屋解体等

すべて単価マスタからの選択と数量入力となります。

a. 金額の隠蔽

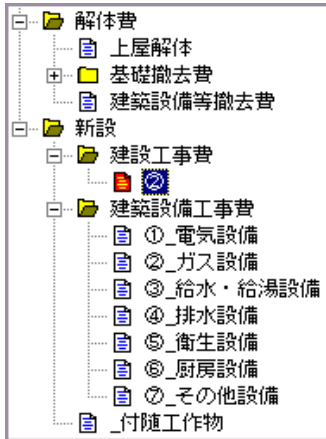
曳家算定で上屋解体等一部の金額を隠蔽したい場合があります。この場合は金額欄を空白にしてもHosが勝手に再計算してしまうことがあります。このような場合は明示的に「-」(半角マイナス)を金額欄に入力して置いてください。下図はその例です。

コード	単価名称	形状寸法	単位	単価	数量	金額
290401	土間コンクリート解体	厚6cm・無筋・DC01	m ²	550	8.83	4,856
290405	土間コンクリート解体	厚9cm・無筋・DC02	m ²	830	12.54	10,408
292251	溜ます・[撤去B]	既製品・内法24×24cm・深39cm・人力堰	ヶ所	2,890	1	2,890
292255	溜ます・[撤去B]	既製品・内法30×30cm・深45cm・人力堰	ヶ所	3,270	3	9,810
292301	汚水兼用ます・[撤去B]	既製品・内法30×30cm・深45cm・人力堰	ヶ所	4,310	1	4,310
292411	浄化槽・[撤去B]	7人槽・汲取清掃共	基	184,300	1	184,300
292515	テレビアンテナ[撤去A]	VHF・UHF併設・屋根上設置・H4m以下	基	9,390	1	-
290401	土間コンクリート解体	厚6cm・無筋・DC01	m ²	550	1.71	940
290455	土間コンクリート解体	厚9cm・無筋・DC22・モルタル塗	m ²	1,110	30.01	33,311
解体代価1	石油風呂釜撤去		基	3,750	1	3,750
解体代価2	浴槽(ステンレス)撤去		基	12,100	1	12,100
解体代価3	灯油炉設備撤去		基	2,140	1	2,140
541714準用	鉄製物干台	柱建式	m ²	3,660	4.13	15,115
542114	物干台屋根・(加算)	面積3m ² ~6m ² ・アクリルパネ・[撤去A]	m ²	2,970	4.13	12,266

b. 廃材運搬費と廃材処分費

「廃処」ボタンをクリックして諸費用を直接入力してください。(v2.05)

建設工事費

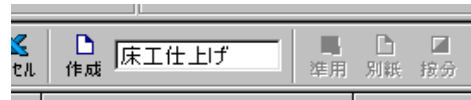


建設工事費の「基礎工事費」については推奨費より参照しますので、ここでは必要に応じて「」以下を作成してください。

作成方法

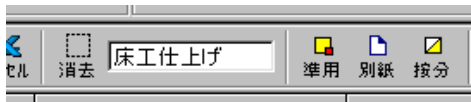
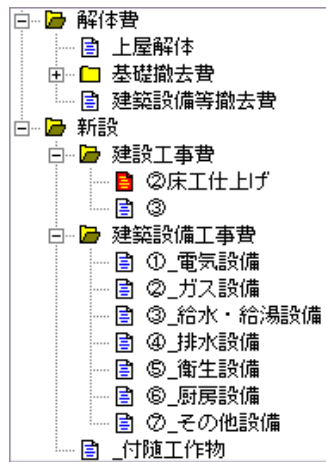
1. 「」をクリックします。(左図)

2. 入力画面上部に「作成」ボタンと工事名入力ボックスが表示されますので、工事名を入力後「作成」ボタンをクリックしてください。(下図)



3. 作成ボタンをクリックすると左図のように今入力した工事名「床工仕上げ」が反映されると共に「」が追加されます。この時点での「」は次工事調書の候補です。「」をクリックして「作成」しなければエクセル転送時に無視されます。「」を作成すれば「」の次候補が追加され、最大「」まで追加が可能です。

4. 調書を削除したい場合は下図「削除」ボタンをクリックしてください。削除すると順次番号が入れ替わります。



時点修正について

いわゆる単価入替えについては、工作物と同じ方法を用いています。ある年度の単価で編集されたデータを別の年度の単価に置き換えるには、データの単価マスタを、置き換える年度に設定しておく必要があります。

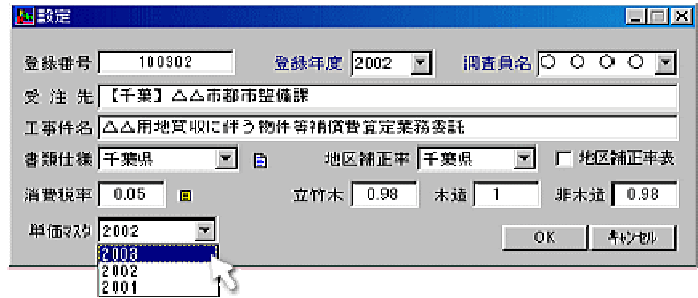
単価の入替えは[設定]で単価マスタを置き換えたい年度に設定しただけでは、すでに入力されたデータには何等影響を与えません。このあと[時点修正]メニューで単価の総入れ替えを行う必要があります。

また、単価の入替えはHosデータに対して行うもので、出力されているエクセルデータの単価を入替えるには、さらにエクセル送信にて再出力を行うことになります。

a. 単価マスタの設定

右図は[設定]にて単価マスタを、旧[2002]から、新[2003]へセットしようとしています。

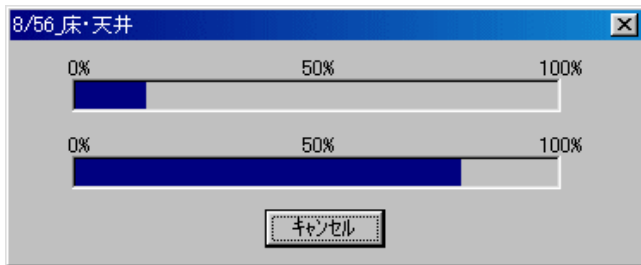
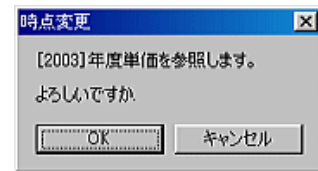
右図の[登録年度]と混同しないようご注意ください。[登録年度]は書庫への登録年度のことであり、単価マスタの年度とは別のものです。



b. 時点修正



時点修正は目的の木造算定画面を表示させておいて[ツール] [時点修正]を選択し、「よろしいですか」で[OK]



入れ替え時間は諸条件によって大きく変化しますが、大体2分前後を目安に下さい。

入れ替えの比較項目はコードのみです。したがって、前年度とコードが変更されたものはそれに沿った単価となります。また、名称と形状規格寸法は入れ替えしません。

左図は入れ替え中のプログレスです。

c. 変更できなかった単価

該当するコードが単価表にない(別紙-代価表-等)データは、時点修正終了時に一覧表を画面に表示します。この表は印刷できますので、この時点で印刷しておいてください。閉じるとこの表は削除されてしまいます。

削除されると、もう一度同じ単価表で時点修正するまで復活できません。

図書	コード	名称
建具表	建具代価①	木製網戸
木製建具	建具代価①	木製網戸
外壁(北)	仕上代価①	シロクイ
床・天井(洗面所)	仕上代価②	タタミ合板張
床・天井(納戸)	仕上代価①	タタミ合板張
外壁屋根	仕上代価①	シロクイ
天井根連	仕上代価②	タタミ合板張
その他の建具種類	建具代価①	木製網戸
造作根連	造作代価①	縁り天井
造作根連	造作代価②	縁り床(衝動)
ガス設備	設備代価①	ガス給湯機
その他の設備	設備代価①	空気清浄機
上屋解体	解体代価①	木造建物解体
設備解体	解体代価①	石油風呂釜撤去
設備解体	解体代価②	浴槽(ガス)撤去
設備解体	解体代価③	灯油炉設備撤去

工作物編集概要

調書の種類

A. 工作物調査表

項目	種別	数量	単位	備考
1	基礎工事	100	㎡	
2	基礎工事	100	㎡	
3	基礎工事	100	㎡	
4	基礎工事	100	㎡	
5	基礎工事	100	㎡	
6	基礎工事	100	㎡	
7	基礎工事	100	㎡	
8	基礎工事	100	㎡	
9	基礎工事	100	㎡	
10	基礎工事	100	㎡	
11	基礎工事	100	㎡	
12	基礎工事	100	㎡	
13	基礎工事	100	㎡	
14	基礎工事	100	㎡	
15	基礎工事	100	㎡	
16	基礎工事	100	㎡	
17	基礎工事	100	㎡	
18	基礎工事	100	㎡	
19	基礎工事	100	㎡	
20	基礎工事	100	㎡	

工作物調査表(A)は、メインの工作物移転補償金算出調査書(B)の直接工事費等「金額」を除いた「調査表」で、当該家屋工作物調査書の冒頭になります。

Hosでの作成(入力)時には(B)を作成することにより(A)は自動的に作成されます。

(B)は、各工事費「別紙」の鑑となりますので、「別紙」を作成することにより(B)もほぼ自動的に作成されることになります。

C. 別紙(親) 別紙(子)

別紙	種別	数量	単位	金額
1	基礎工事	100	㎡	10000
2	基礎工事	100	㎡	10000
3	基礎工事	100	㎡	10000
4	基礎工事	100	㎡	10000
5	基礎工事	100	㎡	10000
6	基礎工事	100	㎡	10000
7	基礎工事	100	㎡	10000
8	基礎工事	100	㎡	10000
9	基礎工事	100	㎡	10000
10	基礎工事	100	㎡	10000
11	基礎工事	100	㎡	10000
12	基礎工事	100	㎡	10000
13	基礎工事	100	㎡	10000
14	基礎工事	100	㎡	10000
15	基礎工事	100	㎡	10000
16	基礎工事	100	㎡	10000
17	基礎工事	100	㎡	10000
18	基礎工事	100	㎡	10000
19	基礎工事	100	㎡	10000
20	基礎工事	100	㎡	10000

上図(B)工作物移転補償金算出調査書、1行分の内容となります。(B)の各行にある「番号」が「別紙」番号となりますから、(B)の行番号が[2]であれば「別紙2」がこの調書の名前になります。

E. 数量調査書

主に上図(D)別紙(子)の数量根拠として作成しますが、(C)親別紙の数量調査書としても登録できます。もちろん数量調査書の各工事数量は別紙側の数量とリンクしています。

数量調査書は各別紙から呼び出すことができます。

B. 工作物移転補償金算出調査書

項目	種別	数量	単位	備考
1	基礎工事	100	㎡	
2	基礎工事	100	㎡	
3	基礎工事	100	㎡	
4	基礎工事	100	㎡	
5	基礎工事	100	㎡	
6	基礎工事	100	㎡	
7	基礎工事	100	㎡	
8	基礎工事	100	㎡	
9	基礎工事	100	㎡	
10	基礎工事	100	㎡	
11	基礎工事	100	㎡	
12	基礎工事	100	㎡	
13	基礎工事	100	㎡	
14	基礎工事	100	㎡	
15	基礎工事	100	㎡	
16	基礎工事	100	㎡	
17	基礎工事	100	㎡	
18	基礎工事	100	㎡	
19	基礎工事	100	㎡	
20	基礎工事	100	㎡	

別紙	種別	数量	単位	金額
1	基礎工事	100	㎡	10000
2	基礎工事	100	㎡	10000
3	基礎工事	100	㎡	10000
4	基礎工事	100	㎡	10000
5	基礎工事	100	㎡	10000
6	基礎工事	100	㎡	10000
7	基礎工事	100	㎡	10000
8	基礎工事	100	㎡	10000
9	基礎工事	100	㎡	10000
10	基礎工事	100	㎡	10000
11	基礎工事	100	㎡	10000
12	基礎工事	100	㎡	10000
13	基礎工事	100	㎡	10000
14	基礎工事	100	㎡	10000
15	基礎工事	100	㎡	10000
16	基礎工事	100	㎡	10000
17	基礎工事	100	㎡	10000
18	基礎工事	100	㎡	10000
19	基礎工事	100	㎡	10000
20	基礎工事	100	㎡	10000

左図(C)別紙(親)の中に各単価のコードの代わりに子別紙番号が付くと、その1行分の内容が(D)別紙(子)となります。(C)のある行のコードが[2-1]であれば「別紙2-1」がこの調書の名前になります。

項目	数量	単位	金額
1	100	㎡	10000
2	100	㎡	10000
3	100	㎡	10000
4	100	㎡	10000
5	100	㎡	10000
6	100	㎡	10000
7	100	㎡	10000
8	100	㎡	10000
9	100	㎡	10000
10	100	㎡	10000
11	100	㎡	10000
12	100	㎡	10000
13	100	㎡	10000
14	100	㎡	10000
15	100	㎡	10000
16	100	㎡	10000
17	100	㎡	10000
18	100	㎡	10000
19	100	㎡	10000
20	100	㎡	10000

F. 工作物 G. 工作物廃材量集計表 (別紙)

工作物集計表

種類	数量	単位	名称	規格	単位	材料	標準量		実績量		差	
							標準	実績	標準	実績	標準	実績
1
...
...

※ 標準量: (C)の各単価コードに廃材量が付随していれば(F)工作物廃材量集計表が別紙等調書の最後部に自動作成されます。

工作物廃材集計表 (別紙)

種類	数量	単位	名称	規格	材料	標準量		実績量		差	
						標準	実績	標準	実績	標準	実績
1
...
...

左図(F)の中に「按分」された単価コードがあれば同じく廃材量も按分されますから、その根拠が廃材量集計別紙として「廃材量集計表」の後ろに自動作成されます。

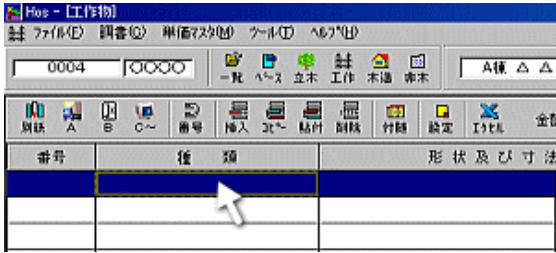
(C)の各単価コードに廃材量が付随していれば(F)工作物廃材量集計表が別紙等調書の最後部に自動作成されます。

左図(F)の中に「按分」された単価コードがあれば同じく廃材量も按分されますから、その根拠が廃材量集計別紙として「廃材量集計表」の後ろに自動作成されます。

工作物編集概要

調書作成(編集)の流れ

1. 種類選択(入力)



最初の行で「種類」列をクリックします。

ここで「語句参照表」からコピーせずに直接入力するのであれば、このセルをダブルクリックして入力してください。(下図)

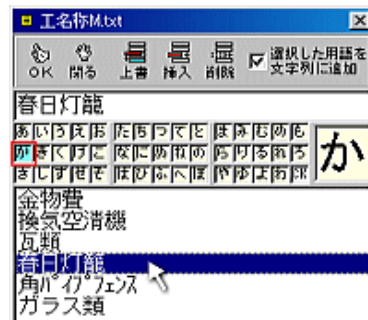
番号	種類
1	春日 灯笼

2. 語句参照表から目的の種類をコピー



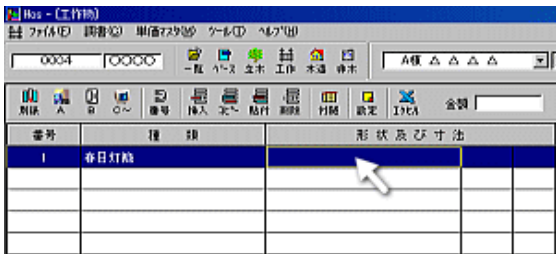
右ボタンをクリックして、ポップアップウィンドウを表示し、「語句参照表」を選択します。

このとき、列により参照表の内容も変わりますのでご注意ください。



開いた語句参照表から「春日灯笼」を選ぶのであれば、赤枠の「か」行を選択します。

3. 形状及び寸法(選択/直接入力)

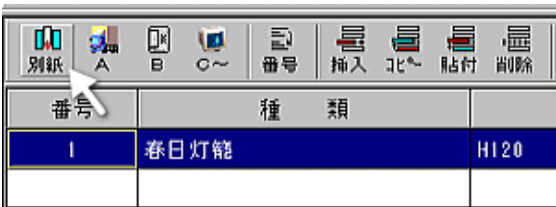


右ボタンをクリックして、ポップアップウィンドウを表示し、「語句参照表」を選択します。形状寸法に関する語句が参照できます。

直接入力するのであれば、このセルをダブルクリックして入力します。例では「H=120」を選択しています。

これで内容(別紙)作成の準備ができました。この段階で備考欄に「別紙1」が作成されていますが、これがこの行の別紙名となります。

4. 内容(別紙)の作成

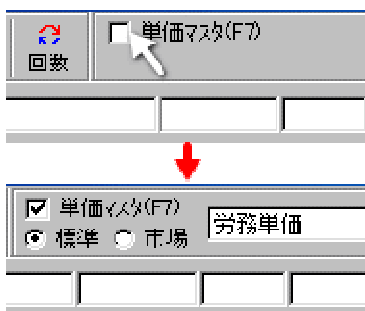


内容(別紙)を作成する行を選択した状態で画面左上の[別紙]ボタンをクリックします。

選択した行の備考欄に「別紙nn」等の別紙名(下図)がないと、[別紙]ボタンをクリックしても別紙は開きません。

金額	備考
	別紙1

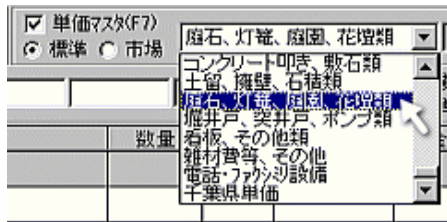
5. 単価マスタから目的の単価(とその名称等)をコピーする



新しい別紙画面が開いたら、「春日灯笼」を単価マスタからコピーします。

画面上段中程にある「単価マスタ」チェックを「ON」にします。

チェックを「ON」にすると、単価マスタ種類選択ボタン(標準/市場)と、そのマスタに応じた科目一覧プルダウンメニューが現れます。



「春日灯籠」を選択するには、右側にあるプルダウンメニューより「庭石、灯籠、庭園、花壇類」を選択します。

下図は画面下部に開いた「庭石、灯籠、庭園、花壇類」科目より「春日灯籠」を選択しています。ダブルクリックまたは Enter を押下して決定です。

コード	名称	形状寸法	単位	単価
570513	庭石	1.0m3以上~2.0m3未満・〔移設B〕	個	62,600
570612	庭石	2.0m3以上~3.0m3未満・〔移設A〕	個	107,300
570613	庭石	2.0m3以上~3.0m3未満・〔移設B〕	個	104,400
570712	庭石	3.0m3以上・〔移設A〕	個	150,300
570713	庭石	3.0m3以上・〔移設B〕	個	146,200
571012	春日灯籠	H120cm・(重量=0.55 t)・〔移設A〕	基	28,400
571013	春日灯籠	H120cm・(重量=0.55 t)・〔移設B〕	基	28,000
571112	春日灯籠	H150cm・(重量=0.65 t)・〔移設A〕	基	33,500
571113	春日灯籠	H150cm・(重量=0.65 t)・〔移設B〕	基	33,100
571212	春日灯籠	H180cm・(重量=0.8 t)・〔移設A〕	基	41,700
571213	春日灯籠	H180cm・(重量=0.8 t)・〔移設B〕	基	41,100
571312	春日灯籠	H210cm・(重量=0.9 t)・〔移設A〕	基	46,800

H120	28,000	数量	単位	単価	金額
H120cm・(重量=0.55 t)・〔移設B〕	1	基	28,000	28,000	

マスタからのコピーが完了すると、数量セルでの数量入力待ちとなります。

ここで、もし数量調書を必要とするなら、数量は空白のままにしておきます。例ではその必要はありませんので数量を入力します。

数量を入力してキーボードの「Enter」を押下すると、入力が完了してフォーカスはマスタ画面へ戻りますので、もし次の単価があれば続けてマスタからコピーする操作を繰り返します。

数量が入力されると、リアルタイムで合計が計算されます。今回のような例では1行のみですから、数量を入力した時点で、画面左上[完了]ボタンをクリックして「別紙1」の内容編集を終了してください。

Hos はどの別紙画面からでも「数量調書」を呼び出せますが、数量調書が必要な別紙は、すべての単価入力を終了した時点で[数量]ボタンをクリックしてください。開かれる数量調書はその別紙のすべての単価項目をコピーして各項目計算式の入力待ちとなります。なお、数量調書については「工作物数量調書」で詳しく解説してあります。

一応これまでが、一連編集の簡単な流れですが、別紙の中で更に合成単価を使用したい場合もあります。そのときは別紙の中から子別紙を作成できますし、子別紙に対応する数量調書も作成できます。

廃材量集計表はエクセル自動送信時にHosが作成しますので、子別紙を作成しない限りは意識なくて大丈夫です。ただし、子別紙の廃材量は親別紙から集計しますから、親別紙からの廃材量集計コマンドが必要となります。

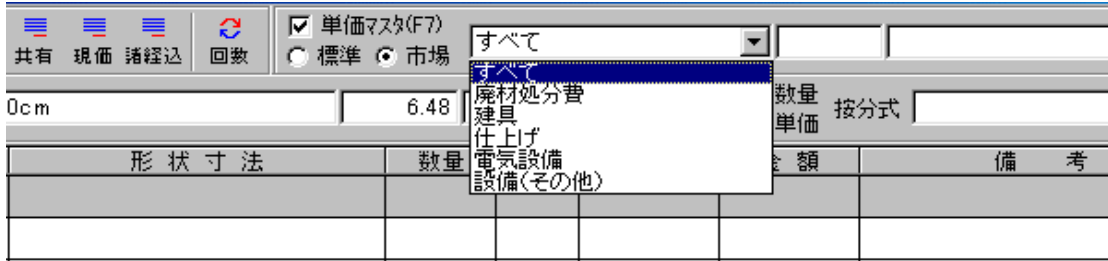
工作物内訳書(別紙)

単価マスタ

単価マスタから目的の単価をコピーする方法は「調書作成(編集)の流れ」で説明しましたが、ここでは「市場(資材)単価」の登録方法を説明します。

下図は「市場単価」ラジオボタンを選択後、そのプルダウンメニューを表示したところです。

プルダウンメニューに表示されている「科目」は、任意に作成できます。

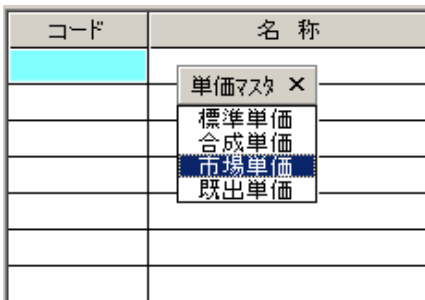


下図は「すべて」を選択したときに表示される、ある市場単価表です。プルダウンメニューに表示されている「科目」は、この中の「コード」が空白になっている行が対象になります。

下図の中では「廃材処分費」「建具」「仕上げ」が科目該当行です。

コード	名称	形状寸法	単位	単価	備考
	廃材処分費				
コ-P509_1	木くず	緑砕(再生)	m3	7,200	
コ-P509_2	ガシキ類	コ/P/Pト集、30cm以下<無筋>	t	1,200	
コ-P520_1	瓦袖		t	4,000	
コ-P520_2	方うす類		t	4,000	
コ-P520_3	腐ブラ		t	5,000	
コ-P509_3	屋根	(安定型)	m2	10,000	
コ-P509_4	石膏ボード	再生	m2	11,500	
コ-P509_5	タタミ	(管理型)	m2	11,300	
	建具				
ホ-P511	洋風鋼戸	W800×H1760	枚	11,780	80%
ホ-P511	洋風製上下レール		組	1,440	
物-p784	取付け費		枚	780	
ホ*(鉄)	浴槽	120×100×H60cm	箇所	184,800	80%
ホ-P443	戸	W910×H1020	本	61,300	
ホ-P443	金物費	W910×H1820	本	1,300	
ホ-P443	取付費	W910×H1820	本	3,300	
物-p414	断熱雨戸	W8,514×H1,700	窓	25,600	
物-p418	一般雨戸	W8,514×L,769H	窓	20,100	
	仕上げ				
物-p447	ガラス用樹脂板	平板 1.2×810×1,020	枚	3,300	
ホ*(資)-P649	基礎天井	H160×L,200mm内	個	44,000	80%

市場単価の作成



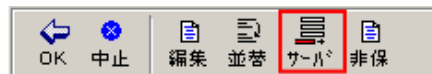
市場単価を作成するには、数量計算書からは[種別]セル、その他の計算書からは[コード]セルにて、マウスの右ボタンをクリックして開くポップアップメニューから[市場単価]を選択します。

左図はそのポップアップメニューから市場単価を導入しようとしています。

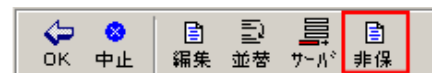


市場単価、合成単価作成では、その場限りの一過性のものと、再利用可能なものがあります。Hosでは一過性の単価データを保存することを「ローカル保存」、再利用可能なようにどの現場からも参照できるフォルダに保存することを「サーバ保存」と呼んでいます。

サーバ保存ボタン



市場単価には、合成単価のようなローカル保存はありませんが[保存せずに作成]があります。



市場単価の場合、多数の単価をサーバへ保存しても、余程汎用性がないと、爾後の単価や掲載頁管理が困難となります。通常は上図下の「非保」(保存せずに作成)を選ぶことをお勧めします。

マスターコード編集

名 称

形状寸法

単 価 80%採 単位 空白

備 考 [P****]

コ ー ド 種ホ*

OK キャンセル

ただし、どの出典先からコピーしたものがわかるようにするために、Hosでは単価コードにその出典名と掲載頁を組み合わせたもの(積ポ-P500等)を使用しています。その為「非保存」であっても、同じ画面で「出典名」だけは選択しておいてください。

左図は「非保」ボタンをクリックして開く単価作成画面です。青矢印のところに「積ポ」とあるのは、親画面で「積算ポケット」を選択しているためです。

ここに「名称」「形状寸法」等必要事項を入力します。

マスターコード編集

名 称 ビニトップ防火ドア

形状寸法 W800×H200cm

単 価 77,000 80%採 単位 枚

備 考 [P468]

コ ー ド 種ホ*-P468

OK キャンセル

左図は市場単価入力例です。

この中で、コード部につきましてはHosが自動作成します。もちろん変更も可能です。

また、単価には、80%等の割引率を掛けない「掲載単価」を入力してください。

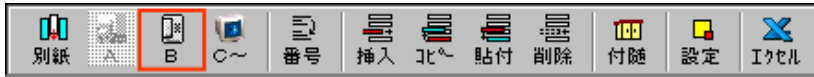
コード	名 称	規格寸法	単位	箇所	計算式
種ホ*-P468	ビニトップ防火ドア	W800×H200cm	枚	1	

上図は、レコード編集画面で「OK」ボタンをクリックして、新しい市場単価が調書に導入された直後を示しています。

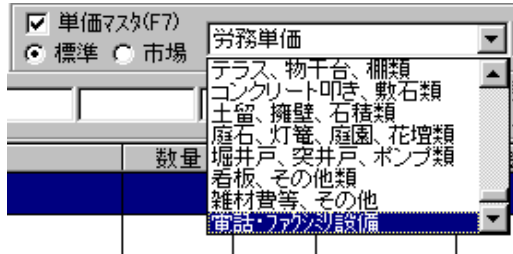
工作物内訳書(別紙)

1. 各種機能(算出調書-鑑)

1-1 電話設備



電話設備に特化した内訳書を作成します。直接工事費に依存しない(諸経費を加算しない)グループとして登録します。



標準単価から「電話・ファクシミリ設備」を選択します。

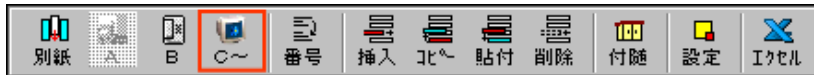
「電話・ファクシミリ設備」表の「移転回数」に合わせて「移転手数料」「配線工事費」「工事基本費用」をそれぞれ内訳書にコピーします。

移転手数料	電話・移転回数1
配線工事費	電話・移転回数1
工事基本費用	電話・移転回数1

コピーが終了したら、上部にある[計](電話設備)をクリックして計上してください。

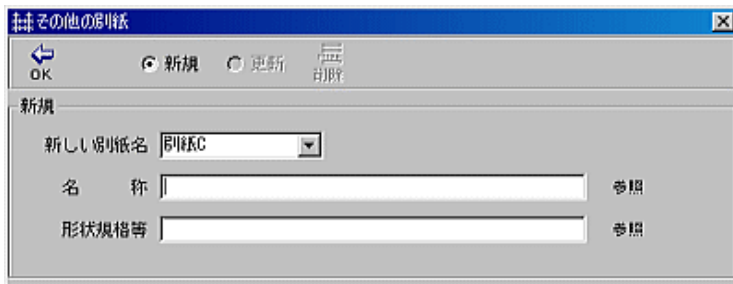
計上後コードセルに表示される「KK」や「KU」はエクセル出力時にHosが参照するための記号です。

1-2 その他の設備



直接工事費に依存しない(諸経費を加算しない)設備グループとして登録します。

別紙C以降、下図の画面が開きます。ここで、別紙C以降が既に作成されていれば[更新]、何も作成されていなければ、下図のように[別紙C]を候補として[新規]状態となります。

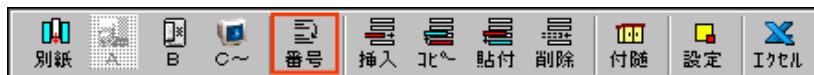


名称欄に、対象となる工事(設備)名を入力して[OK]ボタンをクリックします。

この調書以降、Hosでは特別な処理は行いません。必要に応じて[計]ボタンをクリックして生成された[補償額]欄等の修正を行って下さい。その他の設備で生成される[補償額]は、単に対象レコードの金額を合算したのとなっています。

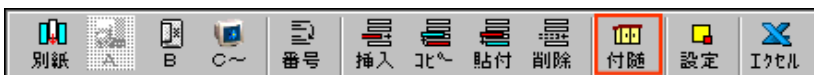
[補償額]行のコード欄にある[C]~は、エクセル転写時に重要な要素となります。[C]~はそのとき指定した設備名と認識しますので、消去をしないで下さい。

1-3 番号



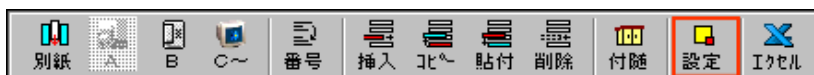
行削除や行挿入による番号の欠番、二重化を解消するためのものです。単に番号を並び替えるだけでなく、その番号に付随する内訳書(別紙)や数量調書の番号も親番号に合わせて書き換えます。

1-4 付随(建物付随工作物)



選択された行を「工作物算定」から隠蔽して、廃材量のみ「廃材量集計表」に合算します。木造建物算定と併用するときには有効です。

1-5 設定(移設費の構外/構内切替)



登録されたすべての別紙を検索して、移設費の構外/構内(A/B)切替えを行います。

工作物内訳書(別紙)

2. 各種機能(別紙-親)

2-1 準用

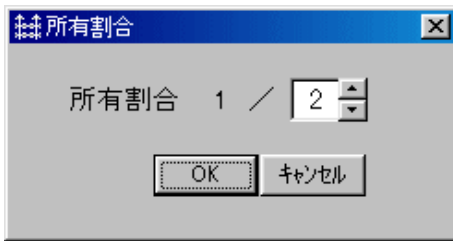


対象単価を準用した場合に、単にコードへ「準用」を付加します。準用を取り消すときもこのボタンをクリックしてください。

2-2 共有



隣地共有として計上します。[共有]ボタンをクリックすると下図の所有割合画面が開きます。



この画面で所有割合を確定してください。

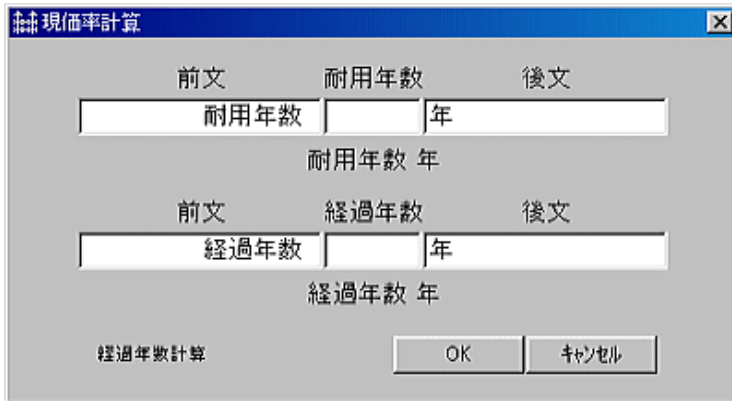
[OK]ボタンをクリックすると該当内訳書の金額を割合率で再計算後計上します。

計上後コードセルに表示される「KT」や「KU」はエクセル出力時にHosが参照するための記号です。

2-3 現価

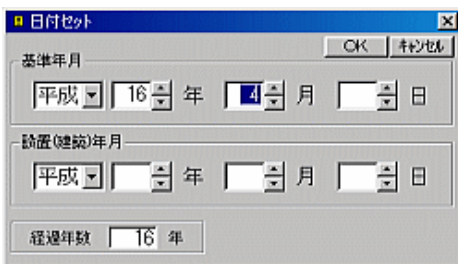


指定単価(行)について「現価」を計上し、指定外単価と合算します。



[現価]ボタンをクリックすると右図の画面が開きます。

ここで「耐用年数」と「経過年数」を確定します。付け加える語句があればこの中で編集して「経過年数計算」ラベルをクリックすると下図画面で経過年数を計算し、「経過年数」ボックスにその結果を出力します。



「耐用年数」と「経過年数」を確定したら[OK]ボタンをクリックしてください。

現価対象部分は「諸経費込み」「消費税対象外」となります。

2-4 諸経込



指定単価(行)について別途「諸経費込み」として計上して、消費税対象から外します。

2-5 回数(移転回数)



内訳書の合計金額を「現在の合計金額」×「移転回数」とします。

工作物内訳書(別紙)

3. 各種機能(別紙-子)

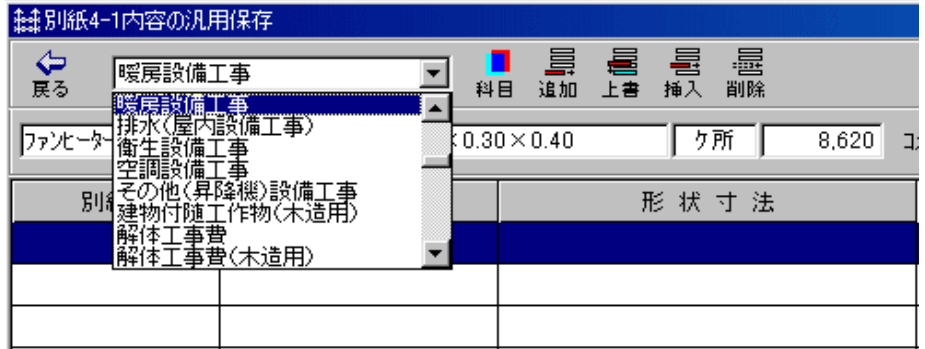
3-1 保存(別紙参照のための保存)



汎用性があると思われる子別紙を、他の現場でも利用できる共通フォルダに保存します。

[保存]ボタンをクリックすると、保存のための一覧表が開きます。(右図参照)

科目プルダウンメニューの中から該当科目を選び[追加]または[挿入]ボタンをクリックします。このとき数量調書が付随していれば同時に保存されます。



3-2 一覧(別紙参照のための一覧表示)



共通フォルダにある内訳書と数量調書を現在の内訳書(子別紙)にコピーします。

[一覧]ボタンをクリックすると、共通フォルダにある一覧表が開きます。(右図参照)

内訳書や付随する数量調書を閲覧するには、該当行の「別紙名」列をクリックします。

閲覧画面では[内訳]ラジオボタンと[数量]ラジオボタンでそれぞれの調書が閲覧できます。



コード	名称	形状寸法
601102	根切り(根椀)	小規模・深さ=3.0m以内
601106	埋戻し(根椀)	現場内仮置場土使用・運搬20m~30m
601141	不用土処分	構内敷きならし
16023補	玉石	φ150程度
46008補	木材・【正角材】	幅・1等→4.00×10.5×10.6
46021補	木材・【平割材】	幅・1等→3.00×3×10.6

コード	名称	計
501102	根切り(根椀)	1.02×3.64
501106	埋戻し(根椀)	2.73+(1.02×1+2)
501141	不用土処分	1.82×3.646
115038	玉石	3.84×2.78
		2.33×1.21
		→

3-2 他費(雑材費・その他)



標準単価コード[900000]台の「その他費用」を計上します。

内訳書内にコード[900000]台のコードがコピーされ、その行が選択されている状態で[他費]ボタンをクリックします。(下図参照)

コード	名称	形状寸法	数量	損率	単位	単価	金額
501102	根切り(根椀)	小規模・深さ=3.0m以内	0.11	1.00	m3	1,560	171
501106	埋戻し(根椀)	現場内仮置場土使用・運搬20m~	0.08	1.00	m3	2,120	169
501141	不用土処分	構内敷きならし	0.03	1.00	m3	350	10
502131	コンクリート	21N/mm2・キャスト打設・小型構造物	0.03	1.00	m3	16,200	486
502251	型枠	木造建物・工作物基礎	0.36	1.00	m2	2,700	972
(外)-P302補	車止めポール	固定式	1.00	1.00	本	8,000	8,000
18	大工		0.05	1.00	人	21,900	1,095
2	普通作業員		0.05	1.00	人	14,400	720
900026	雑材費	労×5~10%	1.00		式		

[他費]ボタンをクリックすると下図の画面が開きます。

完了 <input type="checkbox"/> 下表より対象行を選択してください。 <input type="checkbox"/> 端数処理をする <input type="button" value="クリア(C)"/> 計 1,815 × 7% = 127					
コード	名称	形状寸法	数量	単位	金額
501102	根切り (機械)	小規模・深さ=3.0m以内	0.11	m ³	171
501106	埋戻し (機械)	現場内仮置場土使用・運搬20m-	0.08	m ³	169
501141	不用土処分	構内敷きならし	0.03	m ³	10
502131	コンクリート	21N/mm ² ・シュート打設・小型構造物	0.03	m ³	486
502251	型枠	木造建物・工作物基礎	0.38	m ²	972
外)-P302:	車止めポール	固定式	1.00	本	8,000
16	大工		0.05	人	1,095
2	普通作業員		0.05	人	720

上図、緑色行は「労務費」(2行)を選択しています。行選択するには該当行をダブルクリックします。「赤矢印」のボックスはその合計金額、「青矢印」のボックスには率(%)が入力されています。

この状態で[完了]ボタンをクリックすると、図の場合は[127]円が計上され、その式が内訳書の「形状寸法」と「備考」欄にそれぞれ表示されます。(下図参照)

800025	雑材費	労×6~10% (1,815×7%)	1.00	式	127	1,095+720=1,815
--------	-----	--------------------	------	---	-----	-----------------

3-3 ×10(金額1/10割戻し)



歩掛には、切り上げられる小数点以下第4位(例0.0006 0.001)を計上するために、数量が標準の10倍で作られたものがあります。その歩掛で作成された内訳書に対して、金額を1/10に割り戻すコマンドです。標準の10倍の数量で計算された内訳書に対してのみ有効なコマンドとなります。

3-4 小数(3位迄と2位迄との切替)



数量を小数点以下第3位とするか第2位とするかの切替コマンドです。Hosは、第3位以下を入力すればそのまま受け入れますので、内訳書全体の桁揃えを行いたいときに有効です。

(工作物算定)取扱説明書

工作物数量調査

内訳書(別紙)との関係

別紙の鑑となる「算出調書」には金額抜きの「調査表」が付随しますが、その行毎備考欄には、簡単な数量根拠(式)を記述することができます。(下図参照)

[1]入力時の画面

金額	18,121,291	調査表(式)	9.8+46.3+13.4
工法	69.30	m	式
	88.70	m	式

[2]エクセル出力後の画面(ピンクの行)

数量	単位	備考
69.30	m	9.8+46.3+13.4
83.70	m	
1.00	ヶ所	

長さのみの「塀」等は上記方法で表現できますが、複数の単価を含む数量計算式には別途「数量調書」を作成することになります。

下図は別紙とその子別紙、子別紙に付随する「数量調書」との関係図です。

番号	種類	形状及び寸法	数量	単価	単価
1	四つ目塀	H120cm	89.90	m	
2	格子フェンス	H170cm	83.70	m	
3	鋼製両開門扉	H130×H130cm	1.00	枚	
4	ブロック造門柱	御影石仕上:50×50cm	1.00	柱	
5	格子フェンス	H120cm	1.40	m	
6	鋼製鉄骨門扉	片引・H700×H120cm	1.00	枚	
7	井戸設備	突抜け井戸・圧力物	1.00	式	
8	引込み電柱		2.00	本	
9	ブロック造式小屋	3.48㎡	1.00	ヶ所	
10	ブロック造倉庫	6.76㎡	1.00	ヶ所	
11	木造倉庫	3.91㎡	1.00	ヶ所	

[1]算出調書(鑑) - 初期画面

ここでは「ブロック造倉庫」を例にしています。「別紙10」

「別紙10-1」 「数量調書10-1」
「別紙10-2」 「数量調書10-2」

別紙10	ブロック造倉庫	6.76㎡
コード	名称	形状寸法
10-1	ブロック造倉庫	6.76㎡・【新設】
10-2	ブロック造倉庫	6.76㎡・【撤去B】

[2]内訳書(別紙10)

△・・ 呷・ 調(y) 併10-1組
△・・ ⅡB・ 調(y) 併10-2組

コードを「10-1」という別紙番号にしています。このように子別紙を作成する場合は親別紙番号(10)と任意な子別紙番号(1等)をハイフン(-)で組み合わせたコードを入力します。Hosは、コードにハイフン(-)を見つけると「子別紙」であると認識します。

別紙10-1	ブロック造倉庫	6.76㎡・【新設】	ヶ所	584,410		
コード	名称	形状寸法	数量	標準	単位	単価
501101	やりかた	土間厚・雑瓦	6.76	1.40	㎡	410
501121	外部単管本足場	高さ10m未満・期間ヶ月	44.16	1.00	㎡	1,510
501411	土間ブロック叩き	厚20cm・有筋・【新設】	9.36	1.00	㎡	8,310
502772	ブロック造門柱	8種・厚150mm・両面化粧目地	20.76	1.00	㎡	8,510
502131	ブロック	210/210mm2ブロック行積・小型雑瓦	2.52	1.00	ヶ	16,210
502235	型枠	くぼ・鉄種・47mm	15.44	1.00	㎡	5,510
502385	溶接金網敷き	8.0×100×100 2*2-3-共	12.90	1.00	㎡	710
504255	防水処理塗	厚25mm	16.44	1.00	㎡	3,510
物-P406準用	鋼製ブロック	W1,000×H1,800	1.00	1.00	ヶ	67,310
物-P794	鋼製ブロック	750×750	1.00	1.00	㎡	4,910
物-P736準用	換気口	400×400	2.00	1.00	個	4,310

[3]内訳書(子別紙10-1)

子別紙は親別紙と区分するため水色の画面です。この中に「ブロック造倉庫【新設】」の内容を記述しています。

コード	名称	形状寸法
501101	やりかた	9.65×9.65
501121	外部単管本足場	(9.65+9.65+4.00)×9×49.46
501411	土間ブロック叩き	3.11×3.01
502772	ブロック造門柱	(9.81+9.30)×9×49.90-1.00×H1.81
502131	ブロック	3.60×3.60×H0.20
502235	型枠	3.60×3.60+(3.60+3.60)×9×H0.70
502385	溶接金網敷き	3.60×3.60
504255	防水処理塗	3.60×3.60+(3.60+3.60)×2×H0.20
物-P406準用	鋼製ブロック	1.00
物-P794	鋼製ブロック	1.00×H1.80
物-P736準用	換気口	2.00

[4]数量調書(10-1)

子別紙10-1に対する数量調書10-1です。

数量調書を作成して数量調書の「完了」ボタンをクリックすると該当内訳書の「数量」セルへ、それぞれのコード毎に「資材計」がコピーされます。

(工作物算定)取扱説明書

工作物数量調書

数量調書作成手順

必要であれば親別紙のみでもそれに対応する数量調書は作成できますが、ここではその子別紙に対して数量調書を作成することにします。下図は親別紙の画面で、子別紙を作成しようとしています。子別紙の番号(任意)は、親別紙番号が「2」なので「2-1」としています。この行で「別紙」ボタンをクリックすると、子「別紙2-1」が開きます。

コード	名 称	形 状 寸 法	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
581112	木造物置	上・(CB布基礎・土台付)面積6㎡以	8.84	㎡	37,400	331,768	
268011	鋸(金鋸)工事	幅比・割・半円・幅105mm・受金物共	8.84	建㎡	1,150	11,481	
272221	電灯設備(事務用系)	電灯・コンセント・スイッチ・分電盤・照明具	2.00	ヶ所	10,500	21,000	スイッチ・引掛シーリング
2-1	上記追加設備等	〔修繕A〕					

1. 数量抜きの内訳書を作成する

数量調書を作成する場合は、その内訳書(別紙)を先に作成します。このとき内訳書(別紙)内それぞれの数量については、「数量調書」からコピーされますので空欄にしてください。「損率」は、空欄のままでも[1.00]として計算できます。

数量抜きの内訳書(下図参照)が完成したら「数量」ボタンをクリックします。現在ボタンのアイコンが白色であることにご注目ください。数量調書がすでに作成されていれば「黄色」のアイコンになります。

コード	名 称	形 状 寸 法	数 量	損 率	単 位	単 価	金 額	備 考
541212	アルミテラス	面積6㎡以上・ネット入塩ビ液・(移			㎡	27,600	178,080	
530012	木造下屋(掘立・外壁無)	赤・鉄板波板葺・面積3㎡未満・(㎡	11,700	0,424	
553011	土間コンクリート叩き	厚9cm・有筋・珪砂塗・(新設)			㎡	5,610	45,777	
553015	土間コンクリート叩き	厚9cm・有筋・珪砂塗・(撤去B)			㎡	2,020	16,483	
520041	植用7°Dの基礎	GLH10cm・V12cm・2段階・(新設)			n	5,440	0,704	階段部(1段)
520045	植用7°Dの基礎	GLH10cm・V12cm・2段階・(撤去B)			n	1,900	3,040	"
520081	植用7°Dの基礎	GLH10cm・V12cm・1段階・(新設)			n	3,630	10,164	階段部(2段)
520085	植用7°Dの基礎	GLH10cm・V12cm・1段階・(撤去B)			n	1,010	2,828	"
524101	7°Dの積層・A種	厚10cm・2段階・基礎別途・(新設)			n	2,920	8,176	"
524104	7°Dの積層・A種	厚10cm・2段階・基礎別途・(撤去)			n	430	1,204	"
111035	雑土				m3	4,000	1,120	
501141	不用土処分	構内敷きならし			m3	850	98	

2. 計算式を入力する

下図は数量調書初期画面です。対応内訳書のコード、名称がコピーされています。ここでは「計算式」を入力して、その結果を単価項目毎の「資材計」に反映させます。

コード	名 称	計 算 式	数 量	資材計
541212	アルミテラス			
530012	木造下屋(掘立・外壁無)			
553011	土間コンクリート叩き			
553015	土間コンクリート叩き			
520041	植用7°Dの基礎			
520045	植用7°Dの基礎			
520081	植用7°Dの基礎			
520085	植用7°Dの基礎			
524101	7°Dの積層・A種			
524104	7°Dの積層・A種			
111035	雑土			
501141	不用土処分			

冒頭の「アルミテラス」の式(4.50*1.40)を入力します

計 算 式	数 量	資材計
4.50*1.40		

カーソルの式入力完了位置で[Shift] + [Enter]を押下すると計算結果が表示されます。

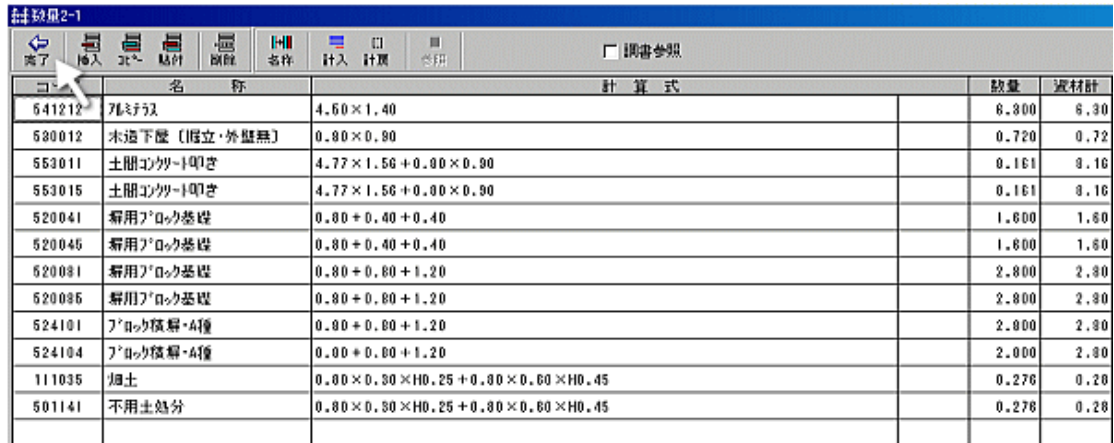
計算方法の裏技は「計算式」メニューにて詳述しています。

計 算 式		数量	資材計
4.50*1.40=6.3			

計算結果が出力されたら[計入]ボタンをクリックして、結果を「資材計」に反映させます。

計 算 式		数量	資材計
4.50×1.40		6.300	6.30

下図は式の入力が終了して[完了]ボタンをクリックしようとしています。



The screenshot shows a software window titled '計算2-1' with a menu bar containing '完了', '挿入', '削除', '計算', '印刷', '名前', '計入', '計算', '印刷', and '調査参照'. Below the menu is a table with columns for 'コード', '名称', '計算式', '数量', and '資材計'. A mouse cursor is pointing to the '完了' button.

コード	名称	計算式	数量	資材計
541212	外壁打込	4.60×1.40	6.300	6.30
520012	木造下屋〔自立・外壁無〕	0.80×0.80	0.720	0.72
553011	土間コンクリート即き	4.77×1.56+0.80×0.80	0.161	0.16
553015	土間コンクリート即き	4.77×1.56+0.80×0.80	0.161	0.16
520041	帯用ブロック基礎	0.80+0.40+0.40	1.600	1.60
520045	帯用ブロック基礎	0.80+0.40+0.40	1.600	1.60
520081	帯用ブロック基礎	0.80+0.80+1.20	2.800	2.80
520085	帯用ブロック基礎	0.80+0.80+1.20	2.800	2.80
524101	ブロック積層・4種	0.80+0.80+1.20	2.000	2.00
524104	ブロック積層・4種	0.80+0.80+1.20	2.000	2.00
111035	畑土	0.80×0.80×H0.25+0.80×0.60×H0.45	0.276	0.28
501141	不用土処分	0.80×0.80×H0.25+0.80×0.60×H0.45	0.276	0.28

工作物数量調書

計算式

数量調書作成手順では、簡単な計算式を例に説明しましたが、ここではその応用(裏技)をご紹介します。

下図は式を分割しています。

1行目に $0.80*0.30*H0.25=0.06*$

2行目に $0.80*0.60*H0.45=0.216*$ と入力してあります。

いずれも式最後尾に[*](赤字のところ)を付加していることにご注目下さい。

不用土処分	$0.80*0.30*H0.25=0.06*$			
	$0.80*0.60*H0.45=0.216*$			

1行目と2行目の式を合算します。

2個の式をドラッグ(マウスボタンを押しながら移動して選択状態にする)して[計入]ボタンをクリックします。

不用土処分	$0.80*0.30*H0.25=0.06*$			
	$0.80*0.60*H0.45=0.216*$			

下図はその結果です。

それぞれの式の結果と、合算状態お解かりになると思います。計行の[]は表示のみで出力されません。

1行では処理できない長い式にご利用下さい。

不用土処分	$0.80 \times 0.30 \times H0.25$	0.060		
	$0.80 \times 0.60 \times H0.45$	0.216		
	⇒		0.276	0.28

式は、四則演算のみサポートします。四則演算の範囲であれば、どのような複雑な式でも計算できます。ただし、以下の条件が満たされる必要があります。

- (1) 式は1行内。複数行にまたがる式は計算できません。
- (2) 原則的に1行内には1ブロックの式のみ許可されます。(*1の方法で1行内でも複数のブロックを計算できます)
- (3) 括弧の対照性が完全であること。非対称の場合は =Error となります。
- (4) [((は, (((を使用してください。

式の中にある半角の数値、半角の()、半角の四則演算子(+,-,*,/)以外の文字は、すべて無視されます。したがって次のような式 $1.82L*2+0.91H*2$ は、正常に計算されます。()は、演算時に検討されますので、'(0.5人工計上)'のような語句を式の中に入れる場合の'()'や、'0.5'は、必ず全角を使用するようにして下さい。

式の結果は、式の後ろに半角の[=]を付けて Enter キーを押下します。[Shift]+[Enter]を押下するのであれば、式の直後に[=]は入れなくても[=]を自動付加して計算結果が表示されます。=Error となる場合は、殆ど()の非対称が原因となっています

*1

1行で複数のブロックを計算したい場合は、以下の方法で行います。

1.365*1.82=2.4843 (1)2.4843*1.1=2.73273 (2)2.4843*1.2=2.98116

上記を1行で計算するには、まず 1.365*1.82 を入力後、式直後にカーソルを置いた状態で Shift+Enter。1.365*1.82=2.4843 が完成したら、その後に半角の[|](円マーク Shift+[¥])を入力して、全角の(1)と2番目の式 2.4843*1.1 の直後で Shift+Enter。このとき半角の[|]は、空白に変換され、2.4843*1.1 のみが計算されます。1.365*1.82=2.4843 (1)2.4843*1.1=2.73273 まで完成したら、更に上記を繰り返して式を完成させます。

1.365*1.82 Shift+Enter

1.365*1.82=2.4843

1.365*1.82=2.4843 | (1)2.4843*1.1 Shift+Enter

1.365*1.82=2.4843 (1)2.4843*1.1=2.73273

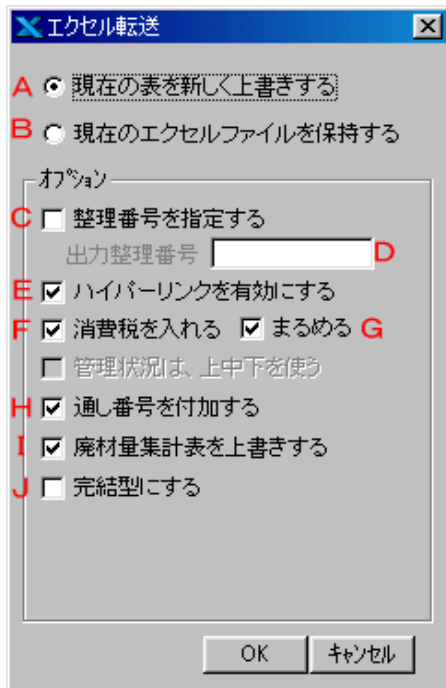
1.365*1.82=2.4843 (1)2.4843*1.1=2.73273 | (2)2.4843*1.2 Shift+Enter

1.365*1.82=2.4843 (1)2.4843*1.1=2.73273 (2)2.4843*1.2=2.98116

(1)(2)は必ず全角を使用してください。半角を使用した場合、算出値が違ってきます。

エクセル

送信(転写)



- A すでにエクセルへ送信したファイルがあれば、Hosで作成された現在の内容を上書きします。なければ新規作成します。
- B すでに送信してあるエクセルファイルを、再編集したり印刷するために開きます。
- C チェックをONにすると「整理番号」の指定ができます。OFFであればHosで指定された整理番号となります。空白の整理番号も出力できます。
- D 出力したい整理番号を入力します。CのチェックがOFFの場合は入力できません。また入力していてもOFFではデフォルトになります。
- E チェックをONにすると、出力されたエクセルの算出調書備考欄の別紙とリンクします。
- F チェックをONにすると、消費税を最後に計上します。
- G FがONのとき、計上した消費税をまるめるか否かの選択です。
- H チェックをONにすると、出力されるすべての調書(調査表を除く)のフタに通し番号をふります。
- I チェックをONにすると、すでにエクセルへ送信したファイルがあれば、その廃材集計表に対しても上書きします。エクセル上で廃材集計表を修正したときにOFFにするとその部分は上書きしません。
- J 完結型を指定すると、「廃材処分費」(直接入力)が指定できます。木造建物等と連結しない場合に有効です

立竹木概要

調書の種類

A. 立竹木補償額算定書

B. 立竹木調査表

立竹木補償額算定書(A)は、メインとなる金額一覧表ですが、任意の金額をマスクすることもできます。

(A)の金額抜き一覧表。

C. 立竹木移転補償金総括書

(A)の総括表(鑑)となります。

D. 立竹木組替単価表

標準値を超える立木の組み換え単価表。

E. 立竹木補償単価認定書

移植費と処分費加算伐採費の比較認定書。

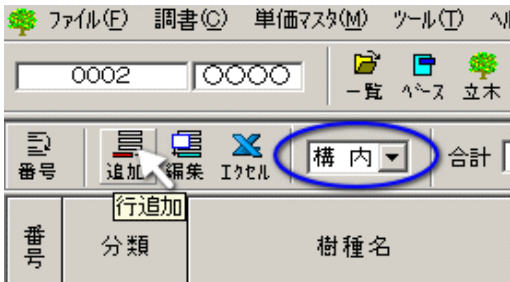
F. 立竹木除根費集計表

立木除根費が加算された場合の集計表。

立竹木概要

入力例

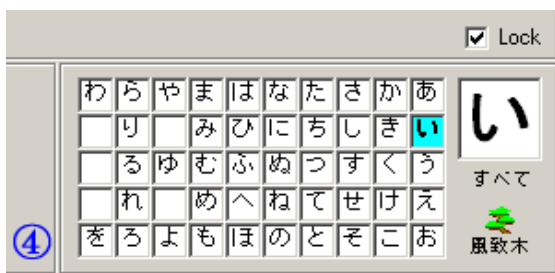
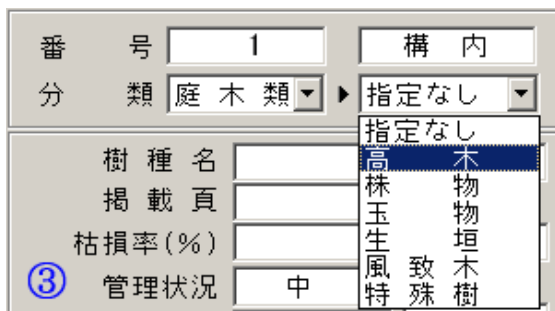
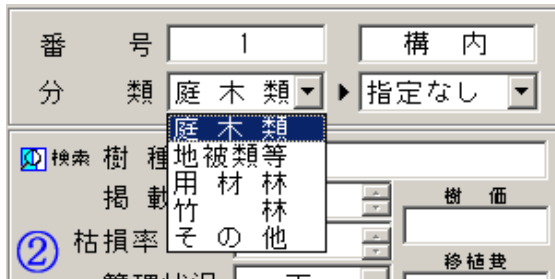
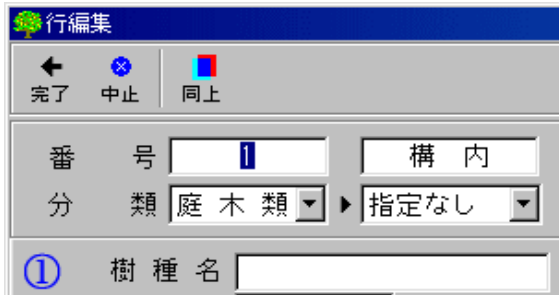
1. 庭木類



1 高木 いぬまき 移植

右図は追加時の行編集画面です。

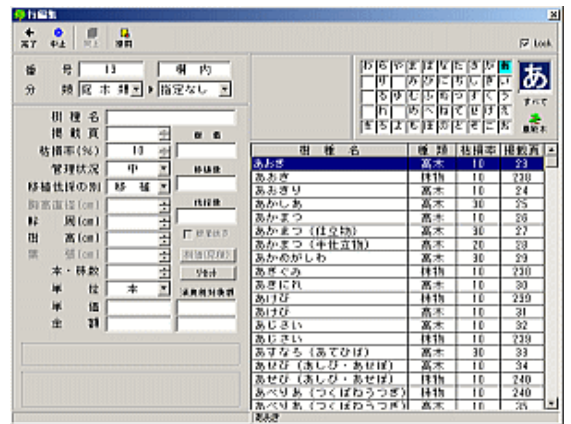
下図()は右図左上部分の拡大図で「番号」は自動挿入されています。この番号でよければ、キーボードの[Enter]または[TAB]キーを押下してください。



まず「構内」/「構外」/「伐採」の別を確定します(青丸)。構内/構外/伐採の別が確定したら、[追加]ボタンをクリックして最初の立竹木を算定します。

「構内」/「構外」/「伐採」の別はいつでも変更可能ですが、1整理番号(所有者単位)につきどちらかとなります。

伐採については行編集時に個別指定が可能です。



で[Enter]を押下した場合([TAB]キーではフォーカスがへ移動するだけ)は、左図()のように「分類」プルダウンメニューが開き、キーボード上下のキーで選択できる状態になります。

ここでは「庭木類」を選択(Enter)します。

で[Enter]が押下されると「種別」プルダウンメニューが開き、キーボード上下のキーで選択できる状態になります。

左図参照

例の場合「指定なし」・「高木」どちらを選択しても結果は同じですが、「高木」とわかっていれば後者を選んだほうが見つけやすくなります。

確定したら[Enter]、次は「樹種」選択となります。

左図()で樹種名の「頭文字」を選択します。「いぬまき」の「い」をキーボード上下左右のキーを使用して選択した状態です。「い」を選択する別の方法として「かな漢字変換」で「い」を入力しても同等です。いずれの方法でも選択したら必ず[Enter]を押下して下さい。

フォーカスは下段の「樹種名選択」へ移動します。

樹種名	種類	枯損率	掲載頁
いすのぎ	高木	10	39
いちい(おんこ・あららぎ)	高木	30	40
いちじく	高木	10	41
いちよう(ぎんなん)	高木	10	42
いとすぎ	高木	20	43
いとひば(ひよくひば)	高木	20	44
いぬつげ	高木	10	45
いぬまぎ(まぎ)	高木	10	46
いぶぎ(びゃくしん)	高木	20	47
いばたのぎ	高木	10	48
いろはもみじ	高木	10	49

ここで「いぬまぎ・高木」を選択します。種別選択()で「指定なし」を選択した場合は「いぬまぎ・生垣」も表示されますので種別にご注意下さい。下図参照

いぬつげ	生垣		300
いぬつげ	高木	10	45
いぬつげ	株物	10	241
いぬつげ玉	玉物	10	293
いぬまぎ(まぎ)	生垣		300
いぬまぎ(まぎ)	高木	10	46
いぶぎ(びゃくしん)	株物	20	242
いぶぎ(びゃくしん)	高木	20	47

確定したら[Enter]を押下します。

樹種名 いぬまぎ(まぎ)

掲載頁 46 樹価

枯損率(%) 10

管理状況 中 移植費

移植伐採の別 移植 伐採費

胸高直径(cm)

幹周(cm) 18

樹高(cm)

葉張(cm)

本・株数

単位 本

単価

金額

組替単価算出式

⑥

カーソルは「幹周」入力ボックスにありますが、必要に応じて「管理状況」と「移植/伐採」の別をマウスで選択してください。

「管理状況」や「移植/伐採」を選択しますと、いったんフォーカスが「幹周」入力ボックスから外れますのであらためて「幹周」入力ボックスをクリックして「幹周」を入力します。入力したら[Enter]を押下します。

次に、高木の場合は「樹高」入力ボックスにカーソルが移動しますので、「樹高」を入力して[Enter]を押下して下さい。

幹周と樹高のいずれを単価取得に採用するかは、標準書の内容に沿って行われます。したがって、採用されない側の数値を空白にしても単価取得結果は同じになります。

検索 樹種名 いぬまぎ(まぎ)

掲載頁 49 樹価 38,200

枯損率(%) 10 移植費 21,901

管理状況 中 伐採費 774

移植伐採の別 移植

胸高直径(cm)

幹周(cm) 18

樹高(cm) 200

葉張(cm)

本・株数

単位 本

単価 25,500

金額 25,500

組替単価算出式

⑦

「樹高」の次は「本数」の指定となります。この時点でHosは単価マスタから該当単価を所定の入力ボックスにコピーします。参照

検索 樹種名 いぬまぎ(まぎ)

掲載頁 49 樹価 779,000

枯損率(%) 20 移植費 116,007

管理状況 中 伐採費 15,634

移植伐採の別 移植

胸高直径(cm)

幹周(cm) 100

樹高(cm) 200

葉張(cm)

本・株数

単位 本

単価 271,800

金額 271,800

移植組替単価(掲載価超過)

移植 $779,000 \times 1.0 \times 0.2 + 116,007 = 271,807$

伐採 $779,000 \times 1.0 + 44,900 = 823,900$

⑧

左図は「幹周」を「100」とした場合の例です。掲載単価を超過したため、下部に「移植組替単価」が作成されています。

組替単価が不適当な場合は「見積単価」も指定できます。下図は[樹価(見積)]ボタンで開く画面です。

樹価掲載単価超過

採用樹価 450,000

最高単価を使用

見積単価を使用

OK

「幹周」が掲載単価を超過したときは、「移植組替単価」が作成されましたが、移植補償額に比べて伐採補償額の方が安い場合は、「伐採適用単価」が組み込まれます。

最後に本数を入力して[Enter]を押下すると、その内容が一覧表にコピーされ、同時に入力画面が消えて一覧表に戻ります。

立竹木概要

入力例

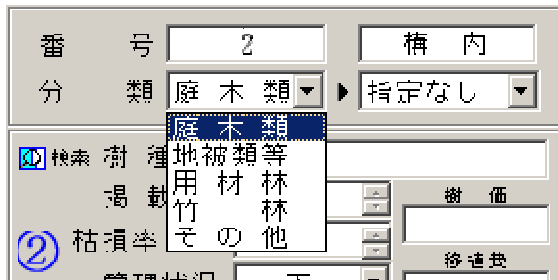
2 風致木 くすのき 移植



左図は「一覧」画面より[追加]ボタンをクリックした直後の画面です。すでに新しい番号[2]が自動挿入されています。

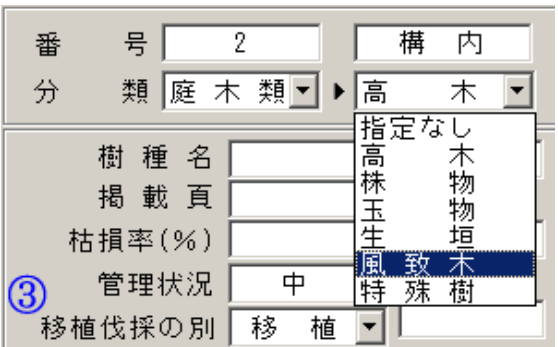
ここで[同上]ボタンをクリックすると、直前の(この例では 1の)データがコピーされ、次の入力位置へHosが誘導します。[同上]ボタンの代わりに[Ctrl] + [Enter]を押下しても同等です。

この例では[同上]ではなく、[Enter]を押下します。



[Enter]を押下した場合([TAB]キーではフォーカスがへ移動するだけ)は、左図()のように「分類」プルダウンメニューが開き、キーボード上下のキーで選択できる状態になります。

ここでは「庭木」を選択(Enter)します。

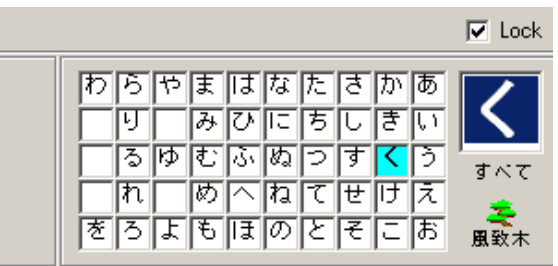


[Enter]が押下されると「種別」プルダウンメニューが開き、キーボード上下のキーで選択できる状態になります。

左図参照

例の場合「すべて」、「一般庭木」、「風致木」のどれを選択しても結果は同じですが、「風致木」とわかっていれば後者を選んだほうがミスなく入力できます。

確定したら[Enter]、次は「樹種」選択となります。



左図()で樹種名の「頭文字」を選択します。「くすのき」の「く」をキーボード上下左右のキーを使用して選択した状態です。「く」を選択する別の方法として「かな漢字変換」で「く」を入力しても同等です。いずれの方法でも選択したら必ず[Enter]を押下して下さい。

フォーカスは下段の「樹種名選択」へ移動します。

で「風致木」を選択していない場合、[Enter]を押下する前でしたら図右下の「風致木」アイコンをクリックできます。

樹種名	種類	枯損率	掲載頁
くすのき	高木	10	85
くちなし	高木	10	86
くぬぎ	高木	30	87
くり	高木	20	88
くるみ(おにぐるみ)	高木	30	89
くろがねもち	高木	10	90
くろまつ	高木	10	91
くろまつ(仕立物)	高木	10	92
くろまつ(半仕立物)	高木	10	93
くわ(やまぐわ)	高木	20	94

ここで「くすのき・高木」を選択します。

確定したら[Enter]を押下します。

⑥

樹種名	くすのぎ	樹価	
掲載頁	335	移植費	
枯損率(%)	10	伐採費	
管理状況		移植費	
移植伐採の別	移植	伐採費	
胸高直径(cm)			
幹周(cm)			
樹高(cm)			
葉張(cm)			
本・株数			
単位	本		
単価			
金額			

カーソルは「幹周」入力ボックスにあります。必要に応じて「管理状況」と「移植/伐採」の別をマウスで選択してください。

「管理状況」や「移植/伐採」を選択すると、いったんフォーカスが「幹周」入力ボックスから外れますので、あらかじめ「幹周」入力ボックスをクリックして「幹周」を入力します。入力したら[Enter]を押下します。

次に、高木の場合は「樹高」入力ボックスにカーソルが移動しますので、「樹高」を入力(未入力でも可)して[Enter]を押下して下さい。

幹周と樹高のいずれを単価取得に採用するかは、標準書の内容に沿って行われます。したがって、採用されない側の数値を空白にしても単価取得結果は同じになります。

⑦

樹種名	くすのぎ	樹価	25,300
掲載頁	335	移植費	21,901
枯損率(%)	10	伐採費	1,086
管理状況		移植費	
移植伐採の別	移植	伐採費	
胸高直径(cm)			
幹周(cm)	24		
樹高(cm)	200		
葉張(cm)			
本・株数			
単位	本		
単価	24,400		24,400
金額			

「樹高」の次は「本数」の指定となります。この時点でHosは単価マスタから該当...

樹種名	くすのぎ	樹価	1,770
掲載頁	335	移植費	3,044
枯損率(%)	10	伐採費	121
管理状況		移植費	
移植伐採の別	移植	伐採費	
胸高直径(cm)			
幹周(cm)	8		
樹高(cm)	120		
葉張(cm)			
本・株数			
単位	本		
単価	1,900		1,900
金額			

移植の適否(否)

移植 1,770 × 0.1 + 3,044 ⇒ 3,220

伐採 1,770 + 137 ⇒ 1,900

本/㎡当り廃材容量 除根費(F5)

000005 高木

左図は「幹周」を「8」(10cm未満)「樹高」を「120」とした場合の例です。この事例では伐採補償額の方が安くなりますので、「伐採適用単価」が組み込まれます。

左図下方に「伐採適用単価」が作成され、「廃材容量」が取得されていることにご注目下さい。

地域仕様により「除根費」「運搬費」を加算することもできます。

最後に本数を入力して[Enter]を押下すると、その内容が一覧表にコピーされ、同時に入力画面が消えて一覧表に戻ります。

立竹木概要

入力例

4. 地被類(草花等 地被類 移植)

左図は「一覧」画面より[追加]ボタンをクリックした直後の画面です。すでに新しい番号[4]が自動挿入されています。

ここで[同上]ボタンをクリックすると、直前の(この例では 3の)データがコピーされ、次の入力位置へHosが誘導します。[同上]ボタンの代わりに[Ctrl] + [Enter]を押下しても同等です。

この例では[同上]ではなく、[Enter]を押下します。

で[Enter]を押下した場合([TAB]キーではフォーカスがへ移動するだけ)は、左図()のように「分類」プルダウンメニューが開き、キーボード上下のキーで選択できる状態になります。

ここでは「地被類等」を選択(Enter)します。

で[Enter]が押下されると「種別」プルダウンメニューが開き、キーボード上下のキーで選択できる状態になります。

左図参照

今回の例の場合は「草本系」を選択します。

確定したら[Enter]押下して下さい。

左図()のプルダウンメニューより「草花」を選択後、下部入力ボックスで面積式(m²)を入力して下さい。Hosが演算を行いますので、式のみ入力して[Enter]を押下して下さい。

草本系の名称は上部「編集」ラベルをクリックすると追加できます。

で入力した式の演算結果が数量欄にコピーされます。

確認後[Enter]を押下して下さい。その内容が一覧表にコピーされ、同時に入力画面が消えて一覧表に戻ります。

立竹木概要

入力例

5. 竹林(竹林 は竹 伐採)

① 行編集
完了 中止 同上

番号 5 構内
分類 庭木類 指定なし

① 樹種名

番号 5 構内
分類 竹林 もうそう竹
庭木類
草花等
用材林
竹
その他

② 樹種名 しば
掲載頁 501
枯損率(%)

構内
は竹
面積の式を入力すると結果を数量に転送します。
1.5本/m²
5本/m²
0本/m²
8本/m²
1.5本/m²
4.5*3.5

③ 樹種名 は竹
掲載頁 577
枯損率(%)
管理状況 上
移植伐採の別 伐採
胸高直径(cm)
根回り(cm)
樹高(cm)
枝幅(cm)
本・株数 15.75
単位 m²
単価 110
金額 1,732

⑤ 金額 1,732

左図は「一覧」画面より[追加]ボタンをクリックした直後の画面です。すでに新しい番号[5]が自動挿入されています。

ここで[同上]ボタンをクリックすると、直前の(この例では 4の)データがコピーされ、次の入力位置へHosが誘導します。[同上]ボタンの代わりに[Ctrl] + [Enter]を押下しても同等です。

この例では[同上]ではなく、[Enter]を押下します。

で[Enter]を押下した場合([TAB]キーではフォーカスがへ移動するだけ)は、左図()のように「分類」プルダウンメニューが開き、キーボード上下のキーで選択できる状態になります。

ここでは「竹林」を選択(Enter)します。

で[Enter]が押下されると「種別」プルダウンメニューが開き、キーボード上下のキーで選択できる状態になります。

左図参照

今回の例の場合は「は竹」を選択します。

確定したら[Enter]押下して下さい。

左図()のプルダウンメニューから該当面積あたり本数を選択して[Enter]キーを押下します。

続けて面積入力ボックスで面積式(m²)を入力して下さい。Hosが演算を行いますので、式のみ入力して[Enter]を押下して下さい。

で入力した式の演算結果が数量欄にコピーされます。

確認後[Enter]を押下して下さい。その内容が一覧表にコピーされ、同時に入力画面が消えて一覧表に戻ります。

立竹木概要

入力例

6. その他立木(その他 すぎ 伐採)

左図は「一覧」画面より[追加]ボタンをクリックし、新しい番号[6]が自動挿入され、[Enter]を押下した直後の画面です。

ここでは「その他」を選択(Enter)します。

「その他」を選択すると、「移植伐採の別」プルダウンメニューが自動的に「伐採」となります。

で[Enter]が押下されると「樹種名」入力ボックスへ誘導されますので、この例では「すぎ」を入力します。

左図参照

確定したら[Enter]、「胸高直径」「樹高」(必要に応じて)と入力して[Enter]で移動します。

樹種名ボックスでマウスの右ボタンをクリックすると(左下図)、ポップアップメニュー(右下図)が開き、そこから樹名を参照することができます。参照表に追加するには参照表上で更にマウスの右ボタンをクリックします。

左図は、単価を取得した直後の画面ですが、廃材容量は必要に応じて下図のように、高木から流用することができます。

「その他」伐採のみでなく、幹周や胸高直径が掲載廃材容量より大きい場合は、[>・]というマークが廃材容量ボックスに表示されます。その場合は、手入力によりマークを消して、適当な廃材容量を入力してください。

立竹木概要

機能別説明

A. 番号整理



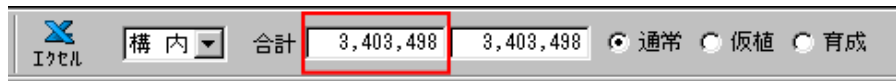
削除、挿入等で欠番やダブリが生じた一覧番号を連番にします。

B. 構内/構外/伐採へ一括変換

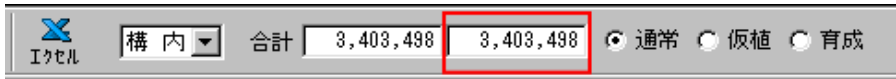


1所有者あたりで一括変換します。ただし「伐採」で一括変換した場合は元の状態へは戻せませんのでご注意ください

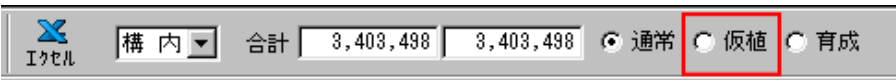
C. 合計金額



D. 消費税対象額合計



E. 仮移植



「通常」で編集された一覧を「仮移植」にするには以下の方法が便利です。

1. 必要な行を選択する。 ドラッグします。

語句参照表 Ctrl+F4	
行編集	Ctrl+E
行追加	Ctrl+A
行挿入	Ctrl+I
行コピー	Ctrl+C
行貼付	Ctrl+P
行削除	Ctrl+D
セルコピー	
セル貼付	

2. マウスの右ボタンクリックによるポップアップメニューより「行コピー」を選択。

3. 「仮植」ラジオボタンをクリック。

4. 「仮植」画面でマウスの右ボタンクリックによるポップアップメニューより「行貼り付け」を選択。

語句参照表 Ctrl+F4	
行編集	Ctrl+E
行追加	Ctrl+A
行挿入	Ctrl+I
行コピー	Ctrl+C
行貼付	Ctrl+P
行削除	Ctrl+D
セルコピー	
セル貼付	



5. 「構内」または「構外」をプルダウンメニューより選択。

構内/構外の単価に応じた「仮移植単価」に変換されます。

F. 育成畑

上記「仮移植」を「育成畑」に置き換えてお読み下さい。

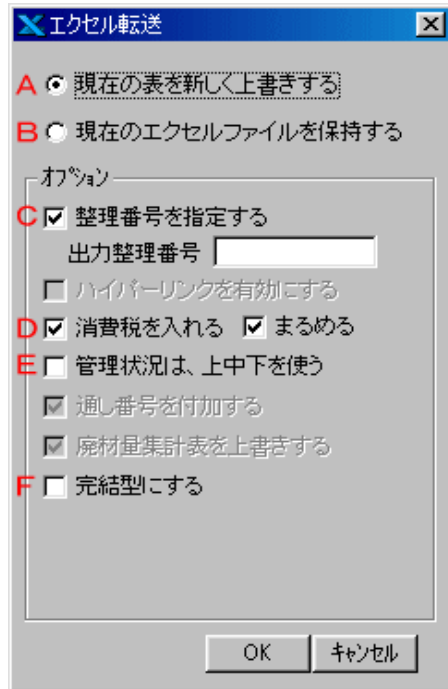
G. 金額のマスキ処理

マスクしたい行で、キーボードの[スペースバー]を押下します。押下すると次の行にカレントが移動しますので、[スペースバー]を押下し続けると連続したブロックがマスクされます。

マスクを解除したい場合は、マスクされた行で、同じくキーボードの[スペースバー]を押下します。

エクセル

送信(転写)



A すでにエクセルへ送信したファイルがあれば、Hosで作成された現在の内容を上書きします。なければ新規作成します。

B すでに送信してあるエクセルファイルを、再編集したり印刷するために開きます。

C チェックをONにすると「整理番号」の指定ができ、空白の整理番号も出力できます。OFFであればHosで指定された整理番号となります。出力整理番号入力ボックスには、出力したい整理番号を入力します。CのチェックがOFFの場合は入力できません。また入力していてもOFFではデフォルトになります。

D チェックをONにすると、消費税を最後に計上します。[まるめる]は、FがONのとき、計上した消費税をまるめるか否かの選択です。

E チェックをONにすると、管理状況のデフォルトの「良い」「やや良い」「普通」をそれぞれ「上」「中」「下」に置き換えます。

F 完結型を指定すると、「廃材処分費」(直接入力)が指定できます。木造建物等と連結しない場合に有効です。

作成(編集)概要 [調書の種類]

A. 内訳書

内訳書						
品名	計量単位	数量	単位	単価	金額	備考
基礎	延床面積	1	㎡	25000	25000	
柱	延床面積	1	㎡	15000	15000	
梁	延床面積	1	㎡	10000	10000	
床	延床面積	1	㎡	5000	5000	
天井	延床面積	1	㎡	3000	3000	
外装	延床面積	1	㎡	12000	12000	
その他						
合計					70000	

「建築費」、「解体費」、「発生材」の鑑を含むすべての内訳書

B. 合成単価表

合成単価表						
品名	計量単位	数量	単位	単価	金額	備考
基礎	延床面積	1	㎡	25000	25000	
柱	延床面積	1	㎡	15000	15000	
梁	延床面積	1	㎡	10000	10000	
床	延床面積	1	㎡	5000	5000	
天井	延床面積	1	㎡	3000	3000	
外装	延床面積	1	㎡	12000	12000	
その他						
合計					70000	

内訳書に含まれるすべての合成単価表

C. 統計数量対照表

統計数量対照表						
品名	計量単位	数量	単位	単価	金額	備考
基礎	延床面積	1	㎡	25000	25000	
柱	延床面積	1	㎡	15000	15000	
梁	延床面積	1	㎡	10000	10000	
床	延床面積	1	㎡	5000	5000	
天井	延床面積	1	㎡	3000	3000	
外装	延床面積	1	㎡	12000	12000	
その他						
合計					70000	

関連するすべての統計値と、その補正值の一覧表

D. 数量計算書

数量計算書						
品名	計量単位	数量	単位	単価	金額	備考
基礎	延床面積	1	㎡	25000	25000	
柱	延床面積	1	㎡	15000	15000	
梁	延床面積	1	㎡	10000	10000	
床	延床面積	1	㎡	5000	5000	
天井	延床面積	1	㎡	3000	3000	
外装	延床面積	1	㎡	12000	12000	
その他						
合計					70000	

科目単位数量調書

E-1. コンクリート計算書

コンクリート計算書						
品名	計量単位	数量	単位	単価	金額	備考
基礎	延床面積	1	㎡	25000	25000	
柱	延床面積	1	㎡	15000	15000	
梁	延床面積	1	㎡	10000	10000	
床	延床面積	1	㎡	5000	5000	
天井	延床面積	1	㎡	3000	3000	
外装	延床面積	1	㎡	12000	12000	
その他						
合計					70000	

土間、柱等のコンクリートの計算書

E-2. 鉄骨計算書 / 鉄骨集計表

鉄骨計算書						
品名	計量単位	数量	単位	単価	金額	備考
基礎	延床面積	1	㎡	25000	25000	
柱	延床面積	1	㎡	15000	15000	
梁	延床面積	1	㎡	10000	10000	
床	延床面積	1	㎡	5000	5000	
天井	延床面積	1	㎡	3000	3000	
外装	延床面積	1	㎡	12000	12000	
その他						
合計					70000	

積上鉄骨量の計算書とその集計表

F. 解体数量計算書

【解体】		数量計算書		見積単位		工事	
種別	用途	用途	計算式	数量	単価	w3	w4
解体	解体	解体
...

解体費の数量計算書

H. 外部仕上計算書

【外部仕上】		仕上計算書		見積単位		工事	
種別	用途	用途	計算式	数量	単価	w3	w4
外部仕上	外部仕上	外部仕上
...

外部の仕上計算書

J. 内部仕上計算書

【内部仕上】		仕上計算書		見積単位		工事	
種別	用途	用途	計算式	数量	単価	w3	w4
内部仕上	内部仕上	内部仕上
...

内部の仕上計算書

L. 外部建具計算書

【外部建具】		建具計算書		見積単位		工事	
種別	用途	用途	計算式	数量	単価	w3	w4
外部建具	外部建具	外部建具
...

外部の建具計算書

G. 発生材数量計算書

【発生材】		数量計算書		見積単位		工事	
種別	用途	用途	計算式	数量	単価	w3	w4
発生材	発生材	発生材
...

発生材の数量計算書

I. 外部仕上集計表

【外部仕上集計】		仕上集計表		見積単位		工事	
種別	用途	用途	計算式	数量	単価	w3	w4
外部仕上集計	外部仕上集計	外部仕上集計
...

内訳書へ渡すための外部仕上集計表

K. 内部仕上集計表

【内部仕上集計】		仕上集計表		見積単位		工事	
種別	用途	用途	計算式	数量	単価	w3	w4
内部仕上集計	内部仕上集計	内部仕上集計
...

内訳書へ渡すための内部仕上集計表

M. 外部建具集計表

【外部建具集計】		建具集計表		見積単位		工事	
種別	用途	用途	計算式	数量	単価	w3	w4
外部建具集計	外部建具集計	外部建具集計
...

外部建具周り仕上集計表

N. 内部建具計算書

器具材種別				器具種別		器具仕様		器具数量		器具単価		器具合計	
品名	仕様	数量	単位	品名	仕様	数量	単位	品名	仕様	数量	単位	品名	仕様
1.5×1.5×1.5 器具材種別	器具種別	2	1.200										
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	8	4.300										
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	84	84.000										
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	1	4.300										
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	2	84.000										
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	2	1.200										

内部の建具計算書

O. 内部建具集計表

器具材種別												器具種別		器具仕様		器具数量		器具単価		器具合計	
品名	仕様	数量	単位	品名	仕様	数量	単位	品名	仕様	数量	単位	品名	仕様	数量	単位	品名	仕様	数量	単位	品名	仕様
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	2	1.200																		
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	8	4.300																		
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	84	84.000																		
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	1	4.300																		
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	2	84.000																		
1.5×1.5×1.5 器具種別	器具種別	2	1.200																		

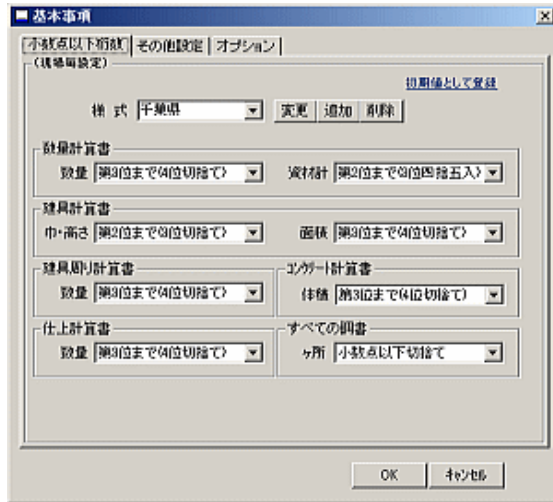
内部建具周り仕上集計表

非木造建物編集概要

調書作成(編集)の流れ(1)

1. 基本設定

最初に「基本設定」をします。「基本設定」は現場単位ですので、通常ははじめの1回だけ設定すれば結構です。



デフォルト(初期値)は最初に登録された様式となります。
デフォルトは変更(初期値として登録)できません。

様式は属性として左図の「小数点以下桁数」を記憶しますので、様式毎に「小数点以下桁数」の設定ができます。

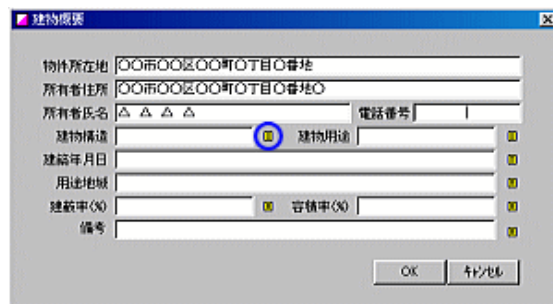
「小数点以下桁数」、「その他設定」は現場単位でこの設定値を引用しますが、次タブの「オプション」はすべての現場から引用されます。

なお、設定画面については「基本設定」の項で詳しい操作方法を説明してあります。

ここでは最初に表示された初期値のまま[OK]ボタンをクリックしてください。

2. 建物概要

建物概要は、図面に転写するためのエクセルシートへ送るためのデータです。図面の建物概要欄にエクセルからの転写を行わないのであれば入力する必要はありません。



初期値は、すでにHosの「ベース」にて住所等が入力されていれば、それをコピーします。その他の空欄は適宜埋めてください。

左図の青円は参照ボタンです。よく使用する語句を参照表の中に登録しておくくと便利です。

よければ[OK]ボタンをクリックします。

3. 作成

設定された条件から統計値を選定し、基本的ないくつかの数量計算書を自動作成します。



自動作成
✕

概要

構造種別: LGS造

標準形: 標準

用途: 共同住宅

実用途: 社員寮

建築面積: _____ m²

(A) 延床面積: _____ m²

(B) 1階床面積: _____ m²

間接部面積: _____ m²

基本面積: _____ m²

階層平: _____

階層平式: _____

摘要階層: _____ 階

平均階高: _____ m

統計数量表

工種	対象	統計数量	補正率
根切	1階床面積	0.48	
砂利・割石敷	1階床面積	0.081	
給エコット	1階床面積	0.02	
基礎エコット	1階床面積	0.12	
基礎型枠	エコット体積	0.9	
基礎鉄筋	エコット体積	0.121	
く棒エコット	基本面積	-	
型枠	エコット体積	-	
鉄筋	エコット体積	-	
鉄骨量	延床面積	36	
SFC除却	鉄骨量	-	

部位別ボタン表示

備考

補正率

対象名	状態	補正率
杭地業	補正なし	-
地盤	補正なし	-
ピロティ	-	-
階高	-	-
粗縁	補正なし	-
鼻	補正なし	-

一部2階

中2階床面積: _____ m²

中2階平均階高: _____ m

クレーン反照

クレーン設置面積: _____ m²

自動作成 確定 キャンセル

ここでは補正等は行わずに、左図青枠内のみ必要事項を選択、または入力してください。

下図参照

概要

構造種別: LGS造

標準形: 標準

用途: 共同住宅

実用途: 社員寮

建築面積: 705.00 m²

(A) 延床面積: 1389.23 m²

(B) 1階床面積: 705.00 m²

間接部面積: _____ m²

基本面積: 1389.23 m²

階層平: 1.97

階層平式: (A)1318.23 / (B)705.08

摘要階層: 2 階

平均階高: 2.87 m

なお、自動作成とその雛形編集については「雛形編集」の項を参照してください。

必要事項の入力が完了したら[自動作成]ボタンをクリックしてください。

作成表選択

1. 直接仮設

2. 土工・地業

3. く体

4. 外部仕上

5. 内部仕上

6. 電気設備

7. 給排水衛生設備

8. 空気調和設備

9. 昇降設備

10. 解体

すべて選択

選択解除

作成 キャンセル

上図[自動作成]ボタンをクリックして開く「作成表選択」画面(左図)で、[すべて選択]ラジオボタンをクリックします。

自動作成を行うと、すでに作成されている数量計算書は上書きされますので、再自動作成を行うときは、作成調書は慎重に選択する必要があります。なお、ここで作成される調書は数量計算書のみで、他の調書には影響ありません。

それでは[作成]ボタンをクリックしてください。作成はほとんど瞬時に終了します。作成が終了すると「自動作成」画面は閉じられ、元の画面に戻ります。

非木造建物編集概要

調書作成(編集)の流れ(2)

4. 数量計算書

下図は自動作成された直後の「直接仮設工事」の数量計算書です。自動作成画面にある雛形編集で属性を指定された単価について(やりかた、墨出し等)は、その式と数量がすでに計算されているのがお判りかと思ます。

種別	形状寸法	計算式	数量	口ス	資材計	単位
やりかた	一般	「建築面積」705.08	705.080		705.08	延m ²
墨出し	一般	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
現寸型板		「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
単管ラケット足場	高さ10m未満・期間6ヶ月				0.00	架m ²
仕上げ用足場(枠組3組)	H=5.7m以上~7.4m未満・期				0.00	伏m ²
樹立足場	平面・H=1.8m・期間2ヶ月	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	床m ²
外窓ラケット張	網目25mm・期間6ヶ月				0.00	架m ²
養生		「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
整理・清掃・片付	木造・S造・CB造	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²

上図、式が空白で数量が[0.00]となっている単価があります。これは雛形編集で単価の指定はありましたが「属性」が指定されていないことによるものです。式が統計値によるものや、一定のものは属性指定が可能ですが、そうでないものについては後から式を入力する必要があります。

下図は土工・地業の自動作成例です(修正していません)。例の場合、最後の「割石地業」のみ式を追加します

種別	形状寸法	計算式	数量	口ス	資材計	単位
根切り(掘機)	小規模・深さ=3.0m以内	「1階床面積」705.08 × 「統計値」0.58	408.946		408.95	m ³
埋戻し(掘機)	現場内仮置場土使用・運搬	「根切り」408.946	408.946			
		- 「捨コンクリート」16.921	-16.921			
		- 「基礎コンクリート」101.531	-101.531			
		- 「割石・基礎下」68.392	-68.392			
		(計)	222.102		222.10	m ³
不用土処分	積内仮置・運搬20m~30m	「根切り」408.946	408.946			
		- 「捨コンクリート」16.921	-16.921			
		- 「基礎コンクリート」101.531	-101.531			
		- 「割石・基礎下」68.392	-68.392			
		(計)	222.102		222.10	m ³
不用土処分(機械積込)	自由処分・4t車使用・運搬	「捨コンクリート」16.921	16.921			m ³
		「基礎コンクリート」101.531	101.531			
		「割石・基礎下」68.392	68.392			
		(計)	186.844		186.84	
割石地業	割石・厚15cm以上	「1階床面積」705.08 × 「統計値」0.097	68.392		68.39	m ³
割石地業	割石・厚10cm以下	× 「統計値」0.097	0.000		0.00	m ³

このように雛形参照による自動作成を使うと、「直接仮設工事」、「土工・地業」、「く体」については、いくつかの式を入力するだけで終了します。

5. 建具計算書(外部 / 内部)

下図は建具計算書にて、建具符号「AW/1」を入力しています。画面では「aw1」(右側の縦棒はカーソル)としていますが、入力ボックスを上げる(通常はEnter)と、「AW/1」に変換されます。(分離記号[/]は変更可能)

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード
aw1							

必要箇所を入力(符号、W、H、箇所)したら、「コード」セル上でマウス右ボタンをクリックして、「単価マスタ」一覧を開きます。

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード	名称
AW/1	1.75	2.00	54			3.500		単価マスタ ×
								標準単価
								合成単価
								市場単価
								既出単価

ここでは[標準単価]を選択します。

大科目	中科目	品名	単価	単位	備考
建具	金属製建具工事	253001 76引違い窓	¥15,000	個	RC・OB適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共
		253005 76引違い窓	¥15,000	個	RC・OB適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共
		253011 76引違い窓		個	RC・OB適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共
		253015 76引違い窓		個	RC・OB適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共
		253021 76引違い窓		個	RC・OB適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共
		253025 76引違い窓		個	RC・OB適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共
		253061 76引違い窓		個	S適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共
		253065 76引違い窓		個	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共
		253061 76引違い窓		個	S適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共
		253065 76引違い窓		個	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共
		253071 76引違い窓		個	S適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共
		253075 76引違い窓		個	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共
		253211 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・片袖付・ガラス上
		253215 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・片袖付・ガラス中
		253221 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・ガラス付・中
		253225 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・ガラス付・非
		253231 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・ガラス付・中
		253235 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・ガラス付・非
		253271 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・ガラス付・上
		253274 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・ガラス付・中
		253277 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・ガラス付・非
		253301 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・W80cm×H180cm・片開
		253305 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・W80cm×H180cm・片開
253311 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・W160cm×H180cm・両開		
253315 玄関76引違い窓		個	RC・OB適用・W160cm×H200cm・両開		

建具計算書の場合の初期画面は、大科目「建具」、中科目「金属製建具工事」になっています。

例の分類に一致するコード[253055]を選択して、ダブルクリック(またはEnter)します。

これを繰り返して、まずは建具のみ入力してしまいます。

次に建具「枠周り」を計算します。入力した建具の1行目[AW/1]の行をクリックしておいて、下図青枠内の1行目コードセルをクリックすると、上部「AW/1」の建具周り計算書となります。(上部[AW/1]の1行に対して、青枠以下の行すべてが枠周り計算書です)

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード	名称	規格寸法	単位
AW/1	1.75	2.00	54			3.500	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分0・ガラス共	m ²
AW/2	1.75	1.20	1			2.100	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分0・ガラス共	m ²
AW/3	1.75	1.00	8			1.750	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分0・ガラス共	m ²
AW/4	1.30	1.00	12			1.300	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分0・ガラス共	m ²
AW/5	0.80	1.00	4			0.800	253051	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分1・ガラス共	m ²
AW/6	0.80	0.90	4			0.720	253051	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分1・ガラス共	m ²
AW/7	1.75	1.40	12			2.450	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分0・ガラス共	m ²
AD/1	0.80	2.00	6	1	6	1.600	G001	片開きフラッシュドア	ビニル [※] ・W80×H200cm	ヶ所

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
AW/1	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分0・ガラス共	m ²	54		189.000

建具コードのときと同じようにコードセル上で右ボタンをクリックすると、単価マスター一覧が開きますので、目的の単価表を選択します。標準単価以外のマスタにつきましては「単価マスタの作成方法(市場、合成、鉄骨)」の項で詳しく解説してあります。

単価選択が終了しましたら、その「式」の入力となりますが、下図のように既に[AW/1]の大きさから、いくつかの枠周り「計算式候補」が作成されており、ほとんどの場合この中から選択することができます。

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード	名称	規格寸法	単位
AW/1	1.75	2.00	54			(1.75 + H2.00) × 2	257011	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分II・ガラス共	m ²
AW/2	1.75	1.20	1			1.75 × 2	257011	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分II・ガラス共	m ²
AW/3	1.75	1.00	8			1.75 × 2	257011	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分II・ガラス共	m ²
AW/4	1.30	1.00	12			H2.00 × 2	257011	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分II・ガラス共	m ²
AW/5	0.80	1.00	4			0.800	253051	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分I・ガラス共	m ²
AW/6	0.80	0.90	4			0.720	253051	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分I・ガラス共	m ²
AW/7	1.75	1.40	12			2.450	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分II・ガラス共	m ²
AD/1	0.80	2.00	6	1	6	1.600	G001	片開きフラッシュドア	ビニル [※] ・W80×H200cm	ヶ所

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
257011	アルミ引違い窓	FL・厚5mm・規模2.22m ² 以下	m ²	54	(1.75 + H2.00) × 2	189.000

下図は[式候補]から選択直後の画面です。

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
257011	アルミ引違い窓	FL・厚5mm・規模2.22m ² 以下	m ²	54	1.75 × H2.00	189.000

[AW/1]に対する枠周り計算書の例です。下図のパターンコピーを行いますと、ほかの建具周りに貼り付けたとき、式も該当建具に合わせたものになり、高速な入力が可能となります。

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
257011	アルミ引違い窓	FL・厚5mm・規模2.22m ² 以下	m ²	-54	1.75 × H2.00	-189.000
257071	網入唐板ガラス	PW・厚6.8mm・規模2.18m ² 以下	m ²	54	1.75 × H2.00	189.000
246801	額縁	杉・材工共	m	54	(1.75 + H2.00) × 2	405.000
261585	オイルステイン塗	OS・細物・木部・2回塗・密地共	m	54	(1.75 + H2.00) × 2	405.000

非木造建物編集概要

調査作成(編集)の流れ(3)

5. 設備関連数量計算書

種 別	形 状 寸 法
6.1 電灯設備	
該当なし	
6.2 動力設備	
該当なし	
6.3 弱電設備	

単価マスタ ×

- 標準単価
- 合成単価
- 市場単価
- 既出単価

電気設備等その他の調査では、自動作成に使用された雛形の中科目が生成されます。したがって、自動作成ではどの雛形が選択されたかで、中科目の内容は変化します。

「該当なし」とするか、その中科目は作成しないかは、雛形の作成者が決めることができます。

左図のように「コード」列が存在しない調査で単価マスタを選択するときは、「名称」列で選択してください。

下図は複合単価[271005]よりコピーして計算式を入力しようとしています。(黄色の部分)

種 別	形 状 寸 法	計 算 式	数 量	口 入	資 材 計	単 位
6.1 電灯設備						
電灯設備(非木造)	住居系・配線・配管・付属品					ヶ所

語句参照表 Ctrl+F4

- 数量名称
- 数量根拠
- 既出語句

- 行追加 Ctrl+A
- 行挿入 Ctrl+I
- 行北へ Ctrl+C

- 行貼付 Ctrl+P
- 行削除 Ctrl+D

- セルコピー
- セル貼付

設備計算書の数量は、殆どの場合、図面参照となると思われます。このような場合は、計算式セルでマウスの右ボタンをクリックすると左図のポップアップメニューが開きますので、そこから[語句参照表]を選択して、該当語句をコピーすると便利です。

図面参照 ×

- 電灯設備配置図より
- 動力設備配置図より
- 弱電設備配置図より
- 火災報知設備図より

語句参照表等の、参照のためのリストは自由に改編できます。

数量は、下図の青円内にあるように、別窓があり、そこで数量を入力すると数値がフォーマットされた形で「式」欄に追加されます。

数量 650

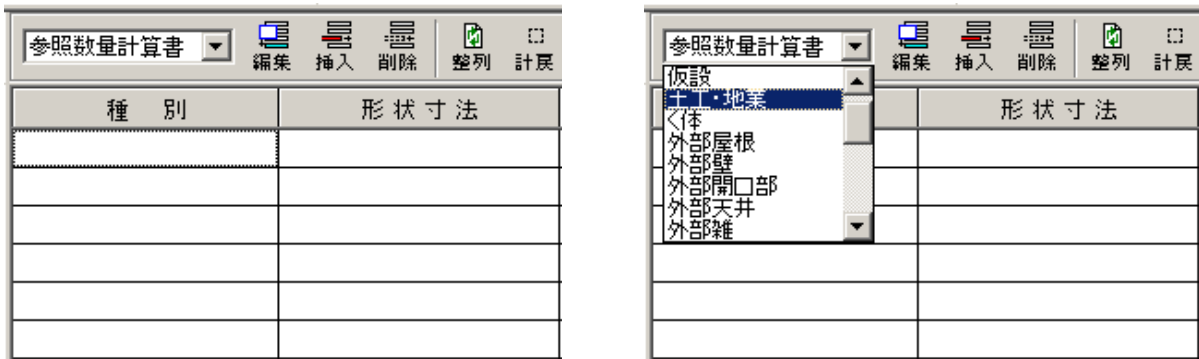
種 別	形 状 寸 法	計 算 式	数 量	口 入	資 材 計	単 位
6.1 電灯設備						
電灯設備(非木造)	住居系・配線・配管・付属品	電灯設備配置図より				ヶ所
6.2 動力設備						
該当なし						

数量

種 別	形 状 寸 法	計 算 式	数 量	口 入	資 材 計	単 位
6.1 電灯設備						
電灯設備(非木造)	住居系・配線・配管・付属品	電灯設備配置図より 650.000	650.000		650.00	ヶ所

6. 解体数量計算書

解体計算書では、「土工・地業」や「く体」数量調書を参照したいことがあります。



上図の数量計算書選択プルダウンメニューには、これまで編集された計算書がリストアップされていますので、参照したい計算書を選ぶと、この計算書を下図のように画面下部に開くことができます。そこから必要な行をコピーして、解体計算書の任意の行に貼り付けます。

種別	形状寸法	計算式	数量	口ス	資材計	単位
根切り(概算)	小規模・深さ=3.0m以内	「1階床面積」705.08 × 「統計値」0.58	408.946		408.95	m3
埋戻し(概算)	現場内仮置場土使用・運搬	「根切り」408.946				
		- 「捨コンクリート」16.921				
		- 「基礎コンクリート」101.531				
		- 「割石・基礎下」68.392				
		(計)				
不用土処分	構内仮置・運搬20m~30m	「根切り」408.946				
		- 「捨コンクリート」16.921				
		- 「基礎コンクリート」101.531				

非木造建物編集概要

調書作成(編集)の流れ(4)

7. 鑑・内訳書

鑑と内訳書は自動作成され、[鑑・内訳書]を開く度に再集計されます。右図は数量調書から集計を行っているところです。



8. 合成単価表の集計

あらゆる調書で使用(作成)された合成単価は、ここで一括集計されます。ここも[合成単価表]を開く度に再集計されます。

名称	形状寸法	数量	単位	単価	金額	備考
【G003】						
アルミバルコニー	面積3.00㎡未満	5.70	㎡	162,500		
員数、コード288131 準用						
アルミバルコニー	ウイング型・L2.73×D0.91	0.402	台	337,200	135,564	本(外)-P280 1.00÷(2.73×0.91)=0.402 421,600×0.8=337,280≒337,200
サッシ工		0.410	人	16,400	6,724	コード 23
普通作業員		0.200	人	14,400	2,880	コード 2
その他	(材+労)×10~15%	1.000	式	17,418	17,418	コード 910001 145,158×12%
〈計〉					162,576	
【G004】						
アルミバルコニー	面積3.00㎡以上6.00㎡未満	119.62	㎡	143,600		
員数、コード288141 準用						
アルミバルコニー	ウイング型・L3.64×D0.91	0.301	台	394,100	118,624	本(外)-P280 1÷(3.64×0.91)=0.301 492,700×0.8=394,160≒394,100
サッシ工		0.410	人	16,400	6,724	コード 23

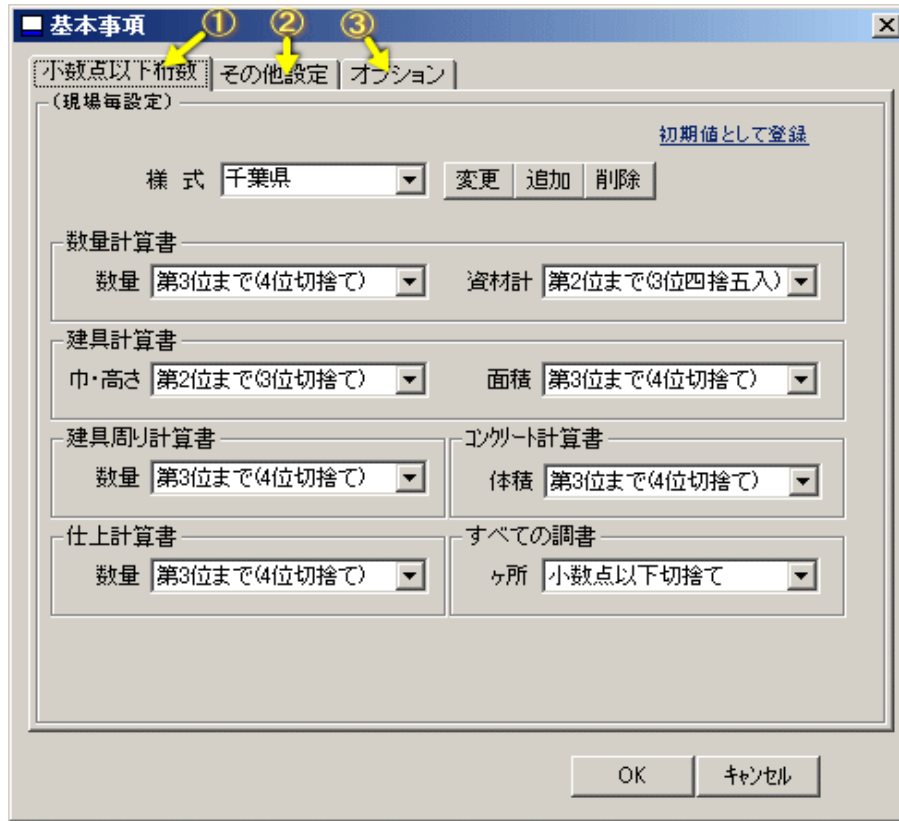
各種集計表は、一応編集可能です。ただし開く度に再集計されるため、編集した集計表は上書きされてしまいます。これは集計表を常に最新に保つための仕様です。編集状態をエクセルに出力するより、出力されたエクセルシートに対して改編を行ったほうがより安全です。(その場合、エクセル出力で上書きしないようにご注意ください。出力調書は選択できます。)

計算書の自動作成

基本設定

基本設定は、自動作成時、計算書編集時やエクセル転送時に、参照する各種方法を設定したもので、編集後にこの設定を変えても参照できません。したがって、基本設定は自動作成する前に検討しておく必要があります。

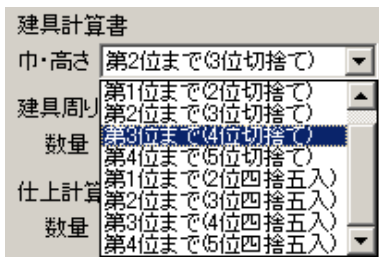
下図は基本設定の画面です。[小数点以下桁数]、[その他設定]は現場毎(ローカル)、[オプション]はすべての現場に共通します。



小数点以下桁設定

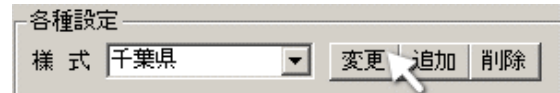
調書種類ごとに、数量の小数点以下桁数を指定できます。これらは「様式」単位に管理され、現場毎1様式となります。

a. 有効桁数の変更

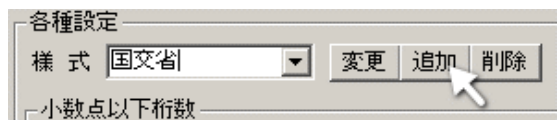
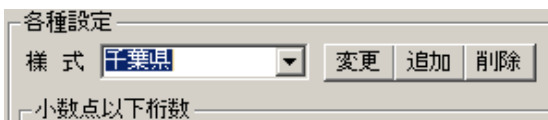


変更したい調書の数量名プルダウンメニューを開き、目的の桁数を選択します。

次に[変更]ボタンをクリックして、選択されている[様式]を更新します。



b. グループ(様式)の追加



起業者の要求に合わせたこれらの小数点以下桁数は、様式で表すところのグループ名(千葉県等)で管理されます。例えば現在選択されている様式が「千葉県」であるとき、[追加]ボタンをクリックして新しいグループ名(様式名)を登録すれば、現在の千葉県の有効桁数が新しいグループ名に登録されます。

c. グループ(様式)の削除

選択されている(表示中)のグループ名(様式)を削除します。

d. [初期値として登録]

現在表示中のグループを初期値(デフォルト)とします。つまり新しく作成される現場は、最初はこのグループ名が登録されることとなります。

その他設定

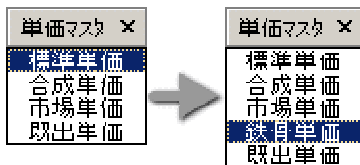
この項目は現場単位で管理されません。ほかの現場には影響を与えません。

a. チェック [エクセル出力する前にすべての調書を再集計する]

ONにすると、エクセル転送時の選択画面(左図)にある[再集計する]チェックの初期値が常に[ON]状態になり、再集計のし忘れを防止します。

通常は[ON]にしておいてください。

b. チェック [単価表選択一覧に鉄骨単価を表示する]



ONにすると、積上げ鉄骨計算書を作成するときのマスター選択画面に[鉄骨単価]を表示します。通常は[OFF]設定です。

c. チェック [該当なし科目は表示しない]

ONにすると、**エクセル転送時**、科目の項目に「該当なし」が存在するときに、その科目は無視されます。

オプション

オプションに属するすべての項目は、選択された様式にかかわらず「設定値」です。いわばユーザーの規定値となるもので、セットアップ時にご確認ください。

チェックボックスにマウスポインタを乗せると、その内容に合わせた説明図が表示されます。

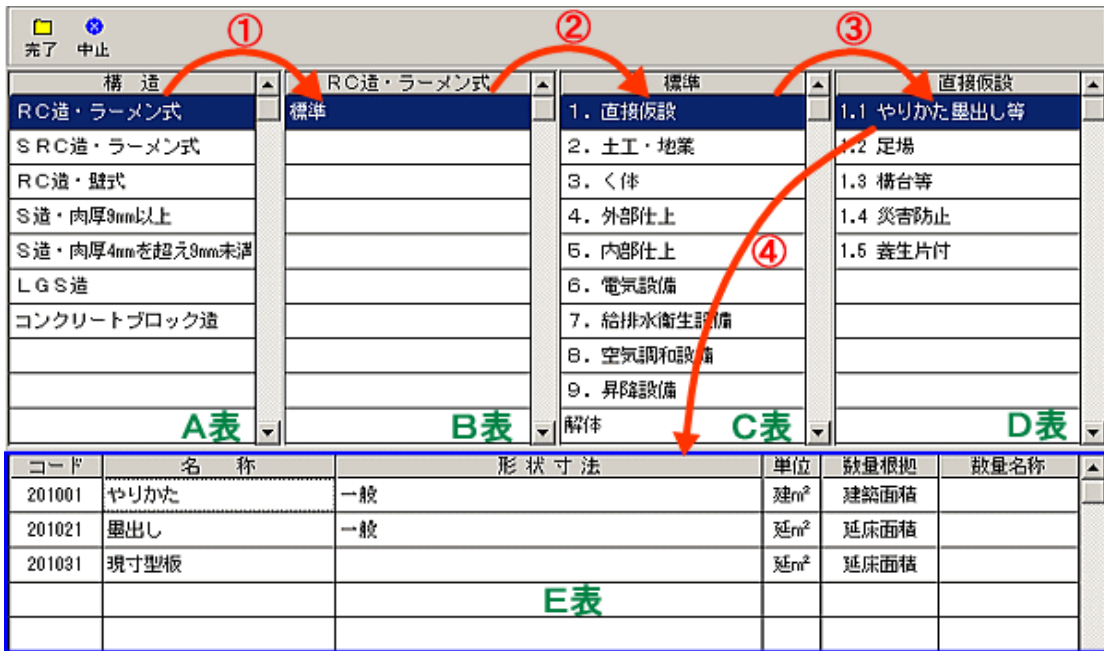
計算書の自動作成

雛形編集

Hosは、建物構造や用途に応じた「雛形」を参照しながら計算書の自動作成をします。有用な「雛形」を作成しておくことで効率的な計算書を自動で作成することができます。また、これらの雛形を登録しておくことで、次の機会にこれとよく似た建物に流用できるようになります。



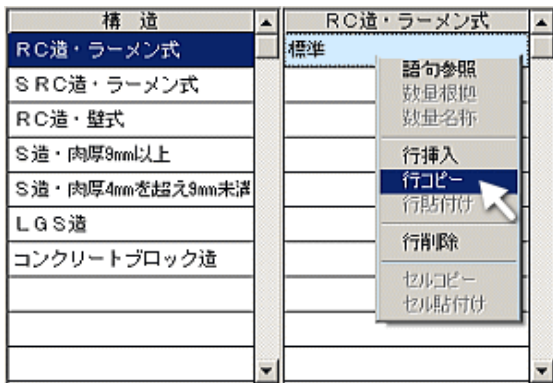
下図「雛形編集」画面を開くには、上図、[作成]ボタン 開いた画面の[雛形編集]ボタンをクリックします。



a. 各表の内容

- 矢印 A表「RC造・ラーメン式」の大科目
- 矢印 B表「標準」の科目
- 矢印 C表「1. 直接仮設」の科目
- 矢印 D表「1.1 やりかた墨出し等」の単価内容(青枠)

b. 雛形の追加



ここでは雛形追加の例として、「RC・ラーメン」の大科目「標準」をコピーして、それを新しい雛形に改造してみます。

B表の大科目とD表の科目は個別にコピーできますが、A表とC表はコピーできません。また、D表からB表というような異種間コピーもできません。

B表の「標準」を同じB表にコピーするには、「標準」セル上でマウスの右ボタンをクリックして開くポップアップメニューから、「行コピー」を選択します。(左図参照)

構造	RC造・ラーメン式
RC造・ラーメン式	標準
S RC造・ラーメン式	
RC造・壁式	
S造・肉厚9mm以上	
S造・肉厚4mmを超え9mm未満	
LG S造	
コンクリートブロック造	

次の空白行で、同じく貼り付けを行います。

貼り付けた行をダブルクリックして、新しい雛形名を入力します。

RC造・ラーメン式	標準
標準	
標準	

RC造・ラーメン式	標準
標準	雛形 I

入力が終了したら
[Enter]を押下します。

これで「標準」と全く同じ内容で「雛形」が作成できましたので、これを目的の形に編集しなおします。

c. 小科目なしの雛形

「1. 直接仮設」に小科目を作たくない場合は「1. 直接仮設」の科目(D表)をすべて削除してください。ただし、空欄のままではその下の単価を作成できませんので、暗号として「%」(半角のパーセント)を最初の行に作成します。一連の流れは下図を参照してください。

RC造・ラーメン式	標準	1. 直接仮設
標準	1. 直接仮設	1.1 やりかた 掘出し等
雛形 I	2. 土工・地業	1.2 定礎
	3. くげ	1.3 橋台等
	4. 外壁仕上	1.4 天窓閉止
	5. 内装仕上	1.5 養生材付
	6. 電気設備	
	7. 給排水衛生設備	
	8. 空気調和設備	
	9. 昇降設備	
	解体	

削除したい行でマウスの右ボタンをクリックして開くポップアップメニューから「行削除」を選択します。ただし、仕様上、1行ずつしか削除できません。

すべての行を削除したら、最初の行に、半角の「%」を入力します。

1. 直接仮設	
%	

次に「標準」「1. 直接仮設」の小科目ごとの単価表をコピーして、「雛形」「1. 直接仮設」の「%」へ貼り付けします。

RC造・ラーメン式	標準	1. 直接仮設	1.1 やりかた 掘出し等
S RC造・ラーメン式	雛形 I	2. 土工・地業	1.2 定礎
RC造・壁式		3. くげ	1.3 橋台等
S造・肉厚9mm以上		4. 外壁仕上	1.4 天窓閉止
S造・肉厚4mmを超え9mm未満		5. 内装仕上	1.5 養生材付
LG S造		6. 電気設備	
コンクリートブロック造		7. 給排水衛生設備	
		8. 空気調和設備	
		9. 昇降設備	
		解体	

RC造・ラーメン式	標準	1. 直接仮設	1. 直接仮設
S RC造・ラーメン式	雛形 I	2. 土工・地業	
RC造・壁式		3. くげ	
S造・肉厚9mm以上		4. 外壁仕上	
S造・肉厚4mmを超え9mm未満		5. 内装仕上	
LG S造		6. 電気設備	
コンクリートブロック造		7. 給排水衛生設備	
		8. 空気調和設備	
		9. 昇降設備	
		解体	

「[行コピー]」等、「行」単位のブロック処理では、すべてのセルを選択しなくても、対象行の一部のセルを選択すれば(上図左)それらの「行」を選択したことになります。

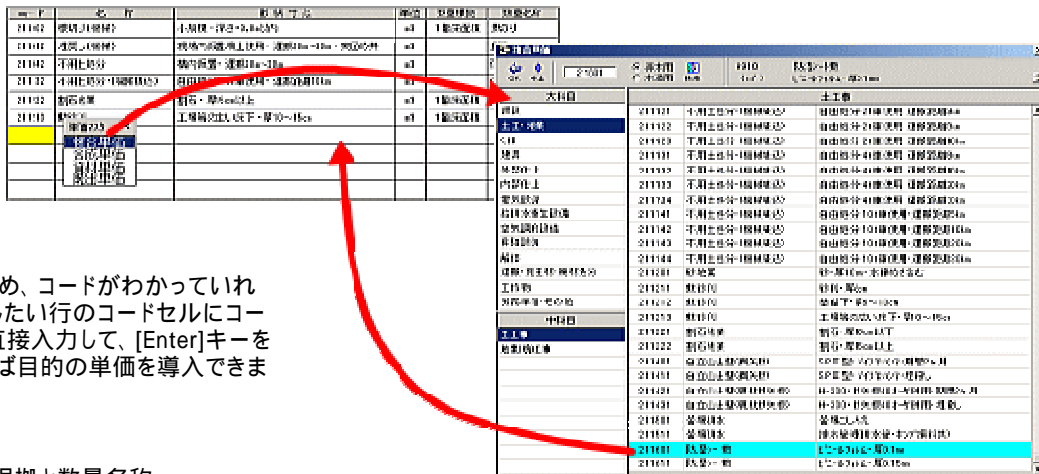
続いて、「標準」「1. 直接仮設」の次の小科目に登録された単価表をコピーして、「雛形」「1. 直接仮設」の「%」へ追加して貼り付けます(下図左)。下図右はその完成図です。

RC造・ラーメン式	標準	1. 直接仮設	1. 直接仮設
S RC造・ラーメン式	雛形 I	2. 土工・地業	
RC造・壁式		3. くげ	
S造・肉厚9mm以上		4. 外壁仕上	
S造・肉厚4mmを超え9mm未満		5. 内装仕上	
LG S造		6. 電気設備	
コンクリートブロック造		7. 給排水衛生設備	
		8. 空気調和設備	
		9. 昇降設備	
		解体	

RC造・ラーメン式	標準	1. 直接仮設	1. 直接仮設
S RC造・ラーメン式	雛形 I	2. 土工・地業	
RC造・壁式		3. くげ	
S造・肉厚9mm以上		4. 外壁仕上	
S造・肉厚4mmを超え9mm未満		5. 内装仕上	
LG S造		6. 電気設備	
コンクリートブロック造		7. 給排水衛生設備	
		8. 空気調和設備	
		9. 昇降設備	
		解体	

d. 単価表(E表)への単価の追加

追加したい行の「コード」セル上でマウスの右ボタンをクリックする(下図左参照)と、「単価マスタ」選択画面が開きますので、そこから目的の単価を導入します。(下図右参照)



あらかじめ、コードがわかっていれば、追加したい行のコードセルにコード番号を直接入力して、[Enter]キーを押下すれば目的の単価を導入できます

e. 数量根拠と数量名称

数量根拠と数量名称は、導入した単価毎に設定するもので、自動作成時に参照されます。

数量根拠は、例えば「延床面積」や「1階床面積」などの、「作成」画面で入力される面積名のことです。数量根拠セルを「延床面積」にすると、自動作成時にその単価の「式」に延床面積の数量を関連付けます。(下図参照) 該当行の数量根拠セルをダブルクリックすると、そのセル内に、使用できる数量根拠の選択リストが表示されますので、その中から選択します。

コード	名称	形状寸法	単位	数量根拠	単位	数量根拠	数量名称
201001	やりかた	一般	延m ²	建築面積	延m ²	建築面積	
201021	墨出し	一般	延m ²	延床面積	延m ²	延床面積	
201031	現寸型板		延m ²	延床面積 基本面積 1階床面積	延m ²	延床面積	

概要		
精 造	造	LGS造
型 形	形	標準
用 途	途	共同住宅
実 用 途	途	狂鳥寮
建築面積	705.08	m ²
(A) 延床面積	1389.23	m ²
(B) 1階床面積	705.08	m ²
開放部面積		m ²
基本面積	1389.23	m ²

種 別	形状寸法	計算式
1.1 やりかた墨出し等		
やりかた	一般	建築面積 705.08
墨出し	一般	延床面積 1389.23
現寸型板		延床面積 1389.23

自動作成された(右図)に左図青枠内の数量が関連付けられています。

数量名称は、例えば「根切り」や「外部足場」などの、その単価の一般名称です。これを設定しておく、自動作成時や計算書の手入力のときに、簡単に式の参照ができるようになります。

コード	名称	形状寸法	単位	数量根拠	数量名称
211002	根切り(機械)	小規模・深さ=3.0m以内	m ³	1階床面積	根切り
211012	埋戻し(機械)	現場内仮置場土使用・運搬20m~30m・突固め共	m ³		埋戻し
211042	不用土処分	構内仮置・運搬20m~30m	m ³		不用土仮置
211132	不用土処分(機械積込)	自由処分・4t車使用・運搬距離10km	m ³		不用土処分
211222	割石地業	割石・厚15cm以上	m ³	1階床面積	割石地業
211213	敷砂利	工場等の広い床下・厚10~15cm	m ³	1階床面積	
211601	防湿シート敷	ビニル貼・厚0.1mm	m ²	1階床面積	

種 別	形状寸法	計算式
2.1 土工		
根切り(機械)	小規模・深さ=3.0m以内	1階床面積 705.08 × 統計値 0.58
埋戻し(機械)	現場内仮置場土使用・運搬	根切り 408.946 - 捨コンクリート 16.921 - 基礎コンクリート 101.531 - 割石基礎下 68.392 (計)
不用土処分	構内仮置・運搬20m~30m	根切り 408.946 - 捨コンクリート 16.921 - 基礎コンクリート 101.531 - 割石基礎下 68.392 (計)

左図の最上段「根切り(機械)」の単価には「根切り」という名称が設定されています。Hosは自動作成するときに、参照できる数量名称があればそれを参照します。ただし、Hosに事前登録された名称しか参照しませんから、数量名称セルで参照できる語句のみがその対象となります。Hosに事前登録された名称は、単価導入時に、それが適合単価名称であれば、数量名称に自動設定されます。

f. 雛形の保存とキャンセル

編集が終了して、[保存]ボタンをクリックしたときのみ、全体の状態が保存されます。個別的な保存は行いません。また、ウィンドウ右上の閉じるボタンや[中止]ボタンをクリックすると、雛形編集画面を呼び出す直前の状態に戻します。つまり雛形編集画面を呼び出した以降編集されたものはすべて無効となります。

調書毎作成方法

直接仮設、土工・地業

下図は自動作成された直後の「直接仮設工事」の数量計算書です。自動作成画面にある雛形編集で属性を指定された単価について(やりかた、墨出し等)は、その式と数量がすでに計算されているのがお判りかと思ます。

種別	形状寸法	計算式	数量	口入	資材計	単位
やりかた	一般	「建築面積」705.08	705.080		705.08	延m ²
墨出し	一般	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
現寸型板		「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
単管ブラケット足場	高さ10m未満・期間6ヶ月				0.00	架m ²
仕上げ用足場(枠組3種)	H=5.7m以上~7.4m未満・期				0.00	伏m ²
樹立足場	平面・H=1.8m・期間2ヶ月	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	床m ²
外部クレーンネット張	網目25mm・期間6ヶ月				0.00	架m ²
養生		「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
整理・清掃・片付	木造・S造・CB造	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²

上図、式が空白で数量が[0.00]となっている単価があります。これは雛形編集で単価の指定はありましたが「数量根拠」や「数量名称」が指定されていないことによるものです。式が統計値によるものや、一定のものは数量根拠等の指定が可能ですが、そうでないものについては後から式を入力する必要があります。

(1) 式の入力

種別	形状寸法	計算式	数量	口入	資材計	単位
やりかた	一般	「建築面積」705.08	705.080		705.08	延m ²
墨出し	一般	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
現寸型板		「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
単管ブラケット足場	高さ10m未満・期間6ヶ月				0.00	架m ²
仕上げ用足場(枠組3種)	H=5.7m以上~7.4m未満・期				0.00	伏m ²
樹立足場	平面・H=1.8m・期間2ヶ月	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	床m ²
外部クレーンネット張	網目25mm・期間6ヶ月				0.00	架m ²
養生		「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
整理・清掃・片付	木造・S造・CB造	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²

左図は「単管ブラケット足場」のセルに式を作成するため、該当セルをダブルクリックしようとしています。

(44.06 + 9.06 + 2.00 + 1.44 + 2.00 + 9.06) × 2 × H6.29 + 9.16 × 2 × H3.30 という式を作り、Hosに計算させてみます。

(44.06+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H6.29			0.00	架m ²
--	--	--	------	-----------------

(44.06+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H6.29 まで入力したところで、残りを入力すると枠外になる可能性がある場合(実際にはエクセルで縮小される)は、次行に続きを入力することができます。

種別	形状寸法	計算式	数量	口入	資材計	単位
高さ10m未満・期間6ヶ月	H=5.7m以上~7.4m未満・期	(44.06+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H5.29			0.00	架m ²
単管ブラケット足場	高さ10m未満・期間6ヶ月				0.00	架m ²
樹立足場	平面・H=1.8m・期間2ヶ月	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	床m ²
外部クレーンネット張	網目25mm・期間6ヶ月				0.00	架m ²
養生		「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
整理・清掃・片付	木造・S造・CB造	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²

続きの式を次行に入力するには、次行に空白行が必要ですので、次の行で「右ボタン」をクリックして表示されるポップアップメニューより[行挿入]を選択します。または、次の行へキーボードの矢印キーによりフォーカスを移動した後、[Insert]キーを押下しても行挿入ができます。

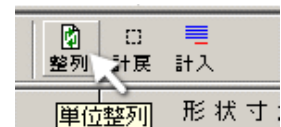
挿入した空白行の「式」セルに、残りの「+9.16*2*H3.30」を入力します。

種別	形状寸法	計算式	数量	口入	資材計	単位
一般	一般	「建築面積」705.08	705.080		705.08	延m ²
一般	一般	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
一般	一般	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
単管ブラケット足場	高さ10m未満・期間6ヶ月	(44.06+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H5.29				架m ²
単管ブラケット足場	高さ10m未満・期間6ヶ月	+9.16*2*H3.30				架m ²
仕上げ用足場(枠組3種)	H=5.7m以上~7.4m未満・期				0.00	伏m ²
樹立足場	平面・H=1.8m・期間2ヶ月	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	床m ²

左図は2行の式をドラッグした後、[計入](計処理)ボタンをクリックして式を計算させようとしているところです。

下図(左)はその結果です。演算子は全角文字に置き換えられています。このとき、単位「架m²」を数量位置に合わせるには、[整列](単位整列)ボタンをクリックします。下図(右)

(44.06 + 9.06 + 2.00 + 1.44 + 2.00 + 9.06) × 2 × H6.29				架m ²
+ 9.16 × 2 × H3.30	911.115	911.12		架m ²



2箇所の式を合計する方法もあります。下図は1箇所目の式を入力してこの式の値を求めようとしています。

4.06+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H6.29]				架m ²
---	--	--	--	-----------------

複数の独立した計算式の合計を求めるには、式の中で値を求めておき、後で計処理を行います。複数の独立した計算値は、式の直後(上図)で、[Ctrl] + [Enter]を押下します。下図(青線部)がその結果です。最後のアスタリスク(*)は消去しないでください。

6+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H6.29=850.6596*				架m ²
---	--	--	--	-----------------

次の式も同じように入力します。(下図)

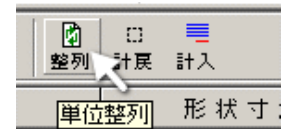
(44.06+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H6.29=850.659				架m ²
9.16*2*H3.30=60.456*				

形状・法	計算式	数量	口ス	資材計	単位
一般	「建床面積」705.08	705.080		705.08	建m ²
一般	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
一般	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²
高さ10m未満・期間6ヶ月	(44.06+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H6.29=850.659				架m ²
H=5.7m以上~7.4m未満・期	9.16*2*H3.30=60.456*				架m ²
H=5.7m以上~7.4m未満・期				0.00	架m ²
平面・H=1.0m・期間2ヶ月	「延床面積」1389.23	1389.230		1389.23	延m ²

左図は2行の式をドラッグした後、[計入](計処理)ボタンをクリックして式を計算させようとしているところです。

下図(左)はその結果です。演算子は全角文字に置き換えられています。このとき、単位「架m²」を数量位置に合わせるには、[整理](単位整理)ボタンをクリックします。下図(右)

(44.06 + 9.06 + 2.00 + 1.44 + 2.00 + 9.06) × 2 × H6.29	850.659			架m ²
9.16 × 2 × H3.30	60.456			
(計)	911.115		911.12	



次に「仕上げ用足場(枠組3段)」の式「3.42*2.84*3」を入力します。

仕上げ用足場(枠組3段)	H=5.7m以上~7.4m未満・期	3.34*2.84*3
--------------	-------------------	-------------

式を入力したら[計入]ボタンをクリックして計処理を行います。

3.34 × 2.84 × 3	28.456		28.46	伏m ²
-----------------	--------	--	-------	-----------------

H=5.7m以上~7.4m未満・期		
平面・H=1.0m・期間2ヶ月	「延床面積」1389.23	請用参照表 Ctrl+F4
網目25mm・期間5ヶ月		数量名称 数量集約 既出語句
	「延床面積」1389.23	行追加 Ctrl+A
未造・S造・CB造	「延床面積」1389.23	行挿入 Ctrl+I
		行削除 Ctrl+D
		行移動 Ctrl+P
		行削除 Ctrl+D
		セルコピー
		セル貼付

次の、単価「外部グリーンネット張」は、外部足場である「単管ブラケット足場」の数量と同じであるため、「単管ブラケット足場より911.115」としたいところです。

「単管ブラケット足場」は雛形編集で「外部足場」属性が付けられていますので、数量名称「外部足場」を呼び出すことにより簡単に作成することができます。

左図は対象の式のセル上で右ボタンをクリックして開くポップアップメニューより、数量名称を呼び出しています。



左図はその数量名称呼び出し画面です。下方の「数量を計上する」チェックがON、「数量名称を使う」チェックがOFFになっていることに注意してください。「数量を計上する」チェックがOFFであれば数量は計上されずに式の中に残るだけであり、「数量名称を使う」チェックがONであれば雛形で編集された数量名称(外部足場等)となります。

今回は式を完結させますので「数量を計上する」チェックはON、「数量名称を使う」チェックはOFFです。

下図はその結果です。

「単管ブラケット足場」より	911.115		911.12	架m ²
---------------	---------	--	--------	-----------------

自動作成した計算書でも、はじめから手入力による作成時でも、自由に単価マスタを呼び出して、新しい単価を導入できます。導入したい行の「種別」セルをクリックした後、マウスの右ボタンで開く「単価マスタ」選択画面で目的の単価マスタを選択すれば、すばやしい導入が可能です。

下図、水色の部分が必須入力箇所です。通常は[符号] [部材位置] [厚さ] [箇所] [X式] [Y式]の順番に入力します。

符号	部材位置	寸法	厚さ	箇所	体積	X 計算式	Y 計算式	備考
	光庭		0.09	3				

ちなみに、[X式(3.94)] [Y式(3.44)]と入力すると、結果は下図の様になります。[寸法]、[体積]が自動生成されています。

符号	部材位置	寸法	厚さ	箇所	体積	X 計算式	Y 計算式	備考
	光庭	3.94 × 3.44	0.09	3	3.859	3.94	3.44	

寸法	厚	X 計算式
3.94 × 3.44	0	3.94

既出語句

行追加 Ctrl+A

行挿入 Ctrl+I

行削除 Ctrl+C

行貼付 Ctrl+P

行削除 Ctrl+D

セルコピー

セル貼付

三角形

三角形や台形の場合は、それぞれ[X式][Y式]を入力後、寸法セルでマウス右ボタンクリックによるポップアップメニューより[三角形]を選択してください。結果は下図の通りです。

符号	部材位置	寸法	厚さ	箇所	体積	X 計算式	Y 計算式	備考
	光庭	3.94×3.44×1/2	0.09	3	1.829	3.94	3.44	

「土間コン」の入力が終了したら、「く体」画面のどこか、例えば下図のセルをクリックすると「土間コン」画面は消去されます。

3.2 上部く体								
土間コンクリート	18N/mm ² ・ホック打設						3.767	3.77 m ³
鉄筋・加工組立	S造基礎・5t以上～50t未満	基礎コン 101.531 × 統計値 0.121					12.285	12.29 t
溶接金継ぎ	5.0×100×100 スペーサー共	3.94×3.44×3					40.660	40.66 m ²
鋼材費・[材料費のみ]	肉厚4mm未満(軽量鉄骨)・1	延床面積 1,389.23 × 統計値 34 ÷ 1,000					47.233	47.23 t
工場加工・組立	肉厚4mm未満(軽量鉄骨)・1	鉄骨量より 47.233					47.233	47.23 t
現場建方	肉厚4mm未満(軽量鉄骨)・1	鉄骨量より 47.233					47.233	47.23 t
耐火被覆	吹付ロックウール(乾式)柱・梁	鉄骨量 47.233 × 60					2833.980	2833.98 m ²
符号	部材位置	寸法	厚さ	箇所	体積	X 計算式	Y 計算式	備考
	光庭	3.94 × 3.44	0.09	3	3.859	3.94	3.44	
	廊下出口	0.60 × 1.00	0.09	2	0.108	0.60	1.00	

そして、下図のように式セルにその結果がリンクされます。

3.2 上部く体								
土間コンクリート	18N/mm ² ・ホック打設					[土間コンクリート計算書参照] 3.767	3.767	3.77 m ³
鉄筋・加工組立	S造基礎・5t以上～50t未満	基礎コン 101.531 × 統計値 0.121					12.285	12.29 t

「土間コンクリート」単価に「土間コン」数量名称が設定されていますので、いつでもこの「土間コン」計算書呼び出すことができます。同じように「柱コンクリート」計算書も作成することが可能です。

調書毎作成方法

建具計算書

下図は建具計算書にて、建具符号「AW/1」を入力しています。画面では「aw1」（右側の縦棒はカーソル）としていますが、入力ボックスを抜ける（通常はEnter）と、「AW/1」に変換されます。（分離記号[/]は変更可能）



必要箇所を入力（符号、W、H、箇所）したら、「コード」セル上でマウス右ボタンをクリックして、「単価マスタ」一覧を開き、目的の単価を導入します。

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード	名称
AW/1	1.75	2.00	54			3.500		単価マスタ ×
								標準単価
								合成単価
								市場単価
								既出単価

下図は内部建具計算書入力完成例です。

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード	名称	規格寸法	単位
WD/1	0.60	1.80	4	1	4	1.080	251004	アラッシュ戸	大きさ区分Ⅰ・中	枚
WD/2	0.80	1.80	5	1	5	1.440	251004	アラッシュ戸	大きさ区分Ⅰ・中	枚
WD/3	1.05	1.80	1	2	2	1.890	251004	アラッシュ戸	大きさ区分Ⅰ・中	枚
WD/4	1.75	1.80	1	2	2	3.150	251004	アラッシュ戸	大きさ区分Ⅰ・中	枚
WD/5	0.60	1.80	1	1	1	1.080	251104	ガラス戸[F1・厚3mm]	大きさ区分Ⅰ・中	枚
WD/6	0.80	1.80	1	1	1	1.440	251104	ガラス戸[F1・厚3mm]	大きさ区分Ⅰ・中	枚
WD/7	0.65	1.80	1	1	1	1.170	251104	ガラス戸[F1・厚3mm]	大きさ区分Ⅰ・中	枚
WD/8	0.80	1.80	1	1	1	1.440	251104	ガラス戸[F1・厚3mm]	大きさ区分Ⅰ・中	枚
WD/9	1.75	1.80	1	2	2	3.150	251104	ガラス戸[F1・厚3mm]	大きさ区分Ⅰ・中	枚
F/1	1.70	1.80	2	2	4	3.060	251504	ふすま	大きさ区分Ⅰ・中	枚
F/2	1.70	0.60	2	2	4	1.020	251564	ふすま	大きさ区分Ⅲ・天袋・地袋用・中	枚
F/3	2.80	1.80	1	4	4	5.040	251504	ふすま	大きさ区分Ⅰ・中	枚
F/4	1.09	0.80	1	2	2	0.872	251564	ふすま	大きさ区分Ⅲ・天袋・地袋用・中	枚
F/5	1.09	1.00	1	2	2	1.090	251534	ふすま	大きさ区分Ⅱ・中	枚
SS/1	1.40	1.90	1	1	1	2.660	251404	障子	大きさ区分Ⅰ・中	枚
SS/2	3.30	1.80	1	4	4	5.940	251404	障子	大きさ区分Ⅰ・中	枚
AD/3	1.49	1.80	1			2.682	253005	アルミ引違い窓	RC・CB適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
K/1	2.15	2.35	1			5.052				
K/2	0.82	1.80	1			1.476				
K/3	1.49	1.90	1			2.831				

建具の按分

下図は、W=0.7, H=0.4 となっていますが、標準寸法は、「アルミ製・W91.6cm × H40cm」です。

MK/1	0.70	0.40	2	1	2	0.280	247501	窓面格子	アルミ製・W91.6cm × H40cm	ヶ所
------	------	------	---	---	---	-------	--------	------	----------------------	----

この標準単価を按分するには、画面上部の[按分]ボタンをクリックして、按分単価をセットします。このとき同時に規格寸法内の「アルミ製・W91.6cm × H40cm」も「アルミ製・W70cm × H40cm」に変換されます。

■ 建具按分

標準規格(W×H) (cm) × (cm) 単価

標準規格寸法 アルミ製・W91.6cm×H40cm

按分側の寸法 アルミ製・W70cm×H40cm

按分式

[更新](#)

上図「式」はエクセル出力時に[備考]欄に表示されます。

建具周り計算書

建具「枠周り」の計算書は、建具1行に対して下部枠周り画面1ブロックとなります。入力した建具の1行目[AW/1]の行をクリックしておいて、下図青枠内の1行目コードセルをクリックすると、上部「AW/1」の建具周り計算書となります。(上部[AW/1]の1行に対して、青枠以下の行すべてが枠周り計算書です)

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード	名称	規格寸法	単位
AW/1	1.75	2.00	54			3.500	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AW/2	1.75	1.20	1			2.100	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AW/3	1.75	1.00	8			1.750	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AW/4	1.30	1.00	12			1.300	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AW/5	0.80	1.00	4			0.800	253051	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	m ²
AW/6	0.80	0.90	4			0.720	253051	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	m ²
AW/7	1.75	1.40	12			2.450	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AD/1	0.80	2.00	6	1	6	1.600	G001	片開きフラッシュドア	ビニルコア・W80×H200cm	ヶ所

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
	単価マスタ ×					
	標準単価					
	合成単価					
	市場単価					
	既出単価					
S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共						

建具コードのときと同じようにコードセル上で右ボタンをクリックすると、単価マスター一覧が開きますので、目的の単価表を選択します。複合単価以外のマスタにつきましては「単価マスタ」の項で詳しく説明してあります。

単価選択が終了しましたら、その「式」の入力となりますが、下図のように既に[AW/1]の大きさから、いくつかの枠周り「計算式候補」が作成されており、ほとんどの場合この中から選択することができます。

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード	名称	規格寸法	単位
AW/1	1.75	2.00	54			3.500	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AW/2	1.75	1.20	1			2.100	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AW/3	1.75	1.00	8			1.750	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AW/4	1.30	1.00	12			1.300	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AW/5	0.80	1.00	4			0.800	253051	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	m ²
AW/6	0.80	0.90	4			0.720	253051	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	m ²
AW/7	1.75	1.40	12			2.450	253055	アルミ引違い窓	S適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	m ²
AD/1	0.80	2.00	6	1	6	1.600	G001	片開きフラッシュドア	ビニルコア・W80×H200cm	ヶ所

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
257011	加-ガラス	FL・厚5mm・規模2.22m ² 以下	m ²	54		54.000

下図は[式候補]から選択直後の画面です。

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
257011	加-ガラス	FL・厚5mm・規模2.22m ² 以下	m ²	54	1.75×H2.00	189.000

建具枠周りのパターンコピー

[AW/2]に対する枠周り計算書の例です。下図のパターンコピーを行いますと、ほかの建具周りに貼り付けたとき、式も該当建具に合わせたものになり、高速な入力が可能となります。下図はその「枠周りコピー」をしています。赤枠内にご注目ください。

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード	名称	規格寸法	単位
AD/1	0.800	1.810	2			1.448	253401	アルミテア(勝手口)	RC・CB適用・W80cm×H181cm	ヶ所
AD/2	1.30	2.45	1			3.185	253215	玄関アルミテア	RC・CB適用・片袖付・ラッチ付・中	ヶ所
AD/4	10.44	2.25	1			23.490	G001	フロントドア	自動ドア付	ヶ所
AW/1	0.60	0.40	1			0.240	253021	アルミ内倒し窓	RC・CB適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	㎡
AW/2	0.60	0.40	3			0.240	253021	アルミ内倒し窓	RC・CB適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	㎡
AW/3	0.60	0.80	1			0.480	253021	アルミ内倒し窓	RC・CB適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	㎡
AW/4	1.25	1.20	1			1.500	253005	アルミ引違い窓	RC・CB適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	㎡

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
257011	ガラス	FL・厚5mm・規模	㎡	-3	0.60×H0.40	-0.720
257061	網入板ガラス	FW・厚6.8mm・規模	㎡	3	0.60×H0.40	0.720
246801	額縁	杉・材工共	m	3	(0.60+H0.40)×2	6.000
261585	オイルステイン塗	OS・細物・木部	m	3	(0.60+H0.40)×2	6.000

建具画面の[AW/2]すぐ下の、[AW/3]の枠周りも同じパターンですので、これに上でコピーしたパターンを貼り付けます。

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
		その他面積 行追加 行挿入 行削除	Ctrl+A Ctrl+I Ctrl+C			
		行貼付 行削除	Ctrl+P Ctrl+D			
		セルコピー セル貼付				
		枠周りコピー 枠周り貼付				

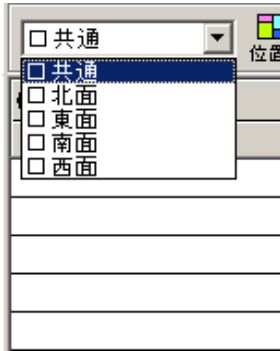
[AW/3]の枠周りに[AW/2]のパターンが貼り付けられています。赤枠内にご注目ください。

符号	W	H	箇所	枚数	計	面積	コード	名称	規格寸法	単位
AD/1	0.800	1.810	2			1.448	253401	アルミテア(勝手口)	RC・CB適用・W80cm×H181cm	ヶ所
AD/2	1.30	2.45	1			3.185	253215	玄関アルミテア	RC・CB適用・片袖付・ラッチ付・中	ヶ所
AD/4	10.44	2.25	1			23.490	G001	フロントドア	自動ドア付	ヶ所
AW/1	0.60	0.40	1			0.240	253021	アルミ内倒し窓	RC・CB適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	㎡
AW/2	0.60	0.40	3			0.240	253021	アルミ内倒し窓	RC・CB適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	㎡
AW/3	0.60	0.80	1			0.480	253021	アルミ内倒し窓	RC・CB適用・大きさ区分Ⅰ・ガラス共	㎡
AW/4	1.25	1.20	1			1.500	253005	アルミ引違い窓	RC・CB適用・大きさ区分Ⅱ・ガラス共	㎡

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式	数量
257011	ガラス	FL・厚5mm・規模2.22㎡以下	㎡	-1	0.60×H0.80	-0.480
257061	網入板ガラス	FW・厚6.8mm・規模2.18㎡以下	㎡	1	0.60×H0.80	0.480
246801	額縁	杉・材工共	m	1	(0.60+H0.80)×2	2.800
261585	オイルステイン塗	OS・細物・木部・2回塗・素地共	m	1	(0.60+H0.80)×2	2.800

調書毎作成方法

外部仕上げ計算書

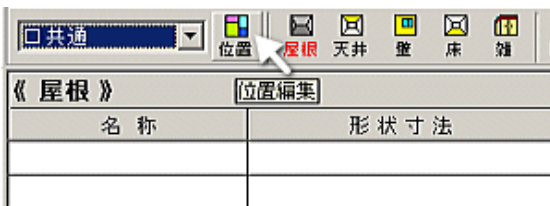


外部仕上面(位置)については、左図のように[共通][北面][東面][南面][西面]を標準で用意してあります。

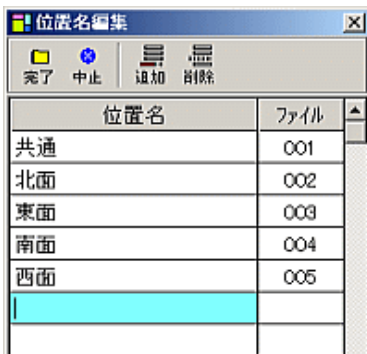
新しく作成する場合の手順は以下の通りです。

- a. 仕上げ面の選択。
- b. 部位(天井、壁、幅木、床、雑)の指定。
- c. 単価マスタから単価の導入。
- d. 数量式の入力。
- e. 箇所数の入力。
- f. 以下2.または3.から5.の繰り返し。

a. 位置(面)の追加



位置(位置編集ボタンの左にあるプルダウンメニューの項目)を追加するには、[位置](位置編集)ボタンをクリックします。



設定済み項目直下(水色セル)をダブルクリック(またはEnter)するとセル内入力状態になりますので、追加したい位置名を入力します。

西面	005
光庭	006

位置名(例 光庭)を入力して[Enter]を押下すると、Hosが新しい番号を生成した後、次の行で位置名入力待ちとなります。

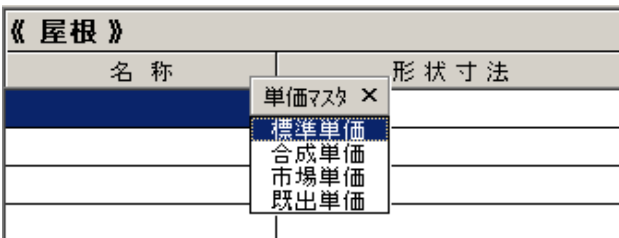
よければ[完了]ボタンをクリックします。

b. 部位の指定



左図は、現在[共通]位置 [屋根]が選択されています。選択されている部位は赤色で表示されます。

c. 単価の導入



各部位とも[名称]セルが単価マスタ導入窓口となります。導入したい行の[名称]セルでマウスの右ボタンをクリックして開く「単価マスタ」選択一覧で、参照したい単価マスタを選択してください。

以下、単価導入方法については編集概要(仮設等、建具)または、「単価マスタの作成方法」の項目を参照してください。

d. 数量式の作成

形状寸法	計算式	加所
耐火野地板下地	43.92*19.42*1.031(勾配率)	

[計算式]セル上でダブルクリックまたはキーボードの[Enter]を押下して、式入力状態にします。

式の入力が終了しましたら、このほかに加算式、または減算式がなければ[Enter]を押下して、[加所]数を入力します。

ブロック式にしたい場合は上図の位置で[Ctrl] + [Enter]を押下して、[カ所]数を入力します。下図はブロック式の例です。

形状寸法	計算式	カ所	数量
耐火野地板下地	43.92*19.42*1.031(勾配率)=879.3671184*	1	
	2.00*1.58*1.031=3.25796*	-2	
	2.08*1.58*1.031=3.3882784*	-3	
	2.92*10.16*1.031=30.5868832*	1	

ブロック式すべての行の式セルをドラッグして選択します。

形状寸法	計算式	カ所	数量
耐火野地板下地	43.92*19.42*1.031(勾配率)=879.3671184*	1	
	2.00*1.58*1.031=3.25796*	-2	
	2.08*1.58*1.031=3.3882784*	-3	
	2.92*10.16*1.031=30.5868832*	1	

[計入] ボタンをクリックしてブロック演算を行います。(減算式は[カ所]をマイナスにしていることに留意してください。)

天井・スレートボード張	ALCパネル・厚5mm・突付張・下地	屋根面積 926.631 - 建築面積 705.08	1	221.551
内外装・薄付仕上塗材仕上	セメント珪藻土			

計算例(1)

「天井・スレートボード張」と「内外装・薄付仕上塗材仕上」は、式「屋根面積 926.631 - 建築面積 705.08」が対応しています。

形状寸法	計算式	カ所	数量
耐火野地板下地	43.92×19.42×1.031(勾配率)	1	879.367
	2.00×1.58×1.031	-2	-6.514
	2.08×1.58×1.031	-3	-10.164
	2.92×10.16×1.031	1	30.586
	(計)		893.275

計算例(2)

「住宅用ALCパネル」、「内外装・薄付仕上塗材仕上」、「壁・断熱材張」に、ブロック式「42.06×H5.79」～「(計)」までが対応しています。「外壁・モルタル塗はけ引き」が、式「42.06×H0.50」に対応します。

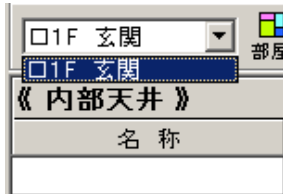
住宅用ALCパネル	A-タイプ*	42.06×H5.79	1	243.527
内外装・薄付仕上塗材仕上	セメント珪藻土	【AW/1】1.75×H2.00	-28	-98.000
壁・断熱材張	ポリスチレンフォーム・厚50mm	(計)		145.527
外壁・モルタル塗はけ引き	厚25mm	42.06×H0.50	1	21.030

計算例(3)

「住宅用ALCパネル」、「内外装・薄付仕上塗材仕上」、「壁・断熱材張」に、ブロック式「(17.56+2.00×2)×H5.79+10.16×H2.80」～「(計)」までが対応しています。「外壁・モルタル塗はけ引き」に、式「(17.56+2.00×2+10.16)×H0.50」～「(計)」までが対応しています。

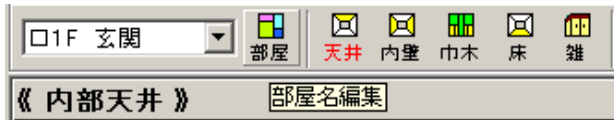
住宅用ALCパネル	A-タイプ*	(17.56+2.00×2)×H5.79+10.16×H2.80	1	153.280
内外装・薄付仕上塗材仕上	セメント珪藻土	【AW/3】1.75×H1.00	-2	-3.500
壁・断熱材張	ポリスチレンフォーム・厚50mm	【AW/4】1.30×H1.00	-2	-2.600
		【AW/6】0.80×H0.90	-2	-1.440
		【AD/1】0.80×H2.00	-3	-4.800
		【AD/1】0.80×H1.70	-2	-2.720
		(計)		138.220
外壁・モルタル塗はけ引き	厚25mm	(17.56+2.00×2+10.16)×H0.50	1	15.860
		【AD/1】0.80×H0.80	-2	-0.480
		(計)		15.380

内部仕上げ計算書



内部仕上位置については、左図のように[1F 玄関]のみを標準で用意してあります。

a. 部屋名(位置)の追加



部屋名(部屋名編集ボタンの左にあるプルダウンメニューの項目)を追加するには、[部屋](部屋名編集)ボタンをクリックします。



設定済み項目直下(水色セル)をダブルクリック(またはEnter)するとセル内入力状態になりますので、追加したい位置名を入力します。

1F	玄関	001
1F	廊下A	002
1F		

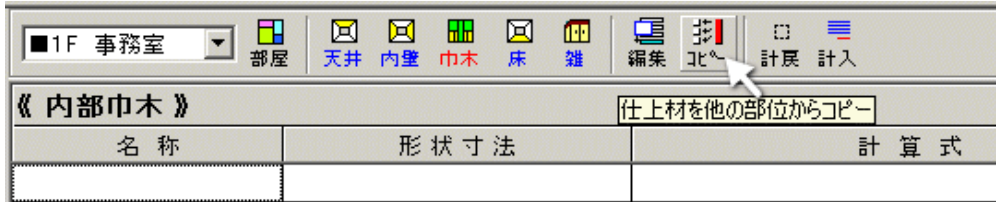
階数、部屋名(例 1F, 廊下A)をそれぞれ入力して[Enter]を押下すると、Hosが新しい番号を生成した後、次の行で階数入力待ちとなります。

部位の指定以降は「外部仕上げ計算書」に準じますので、説明は省略します。

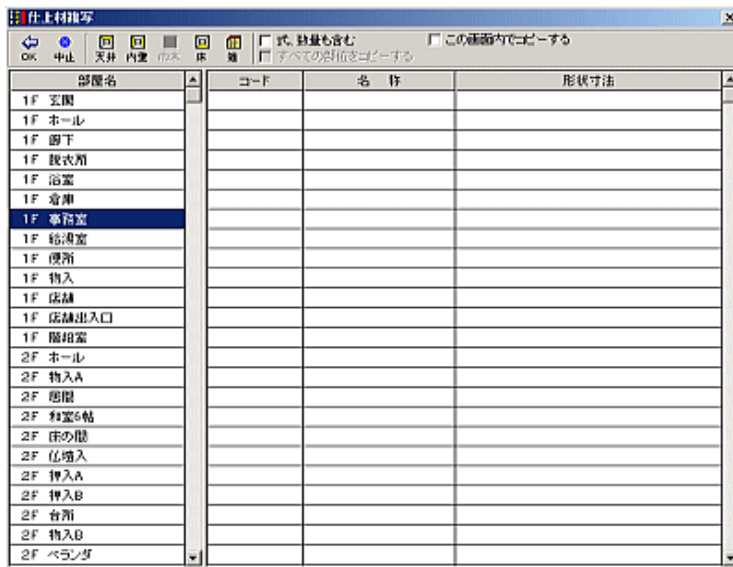
調書毎作成方法

仕上計算書内コピー

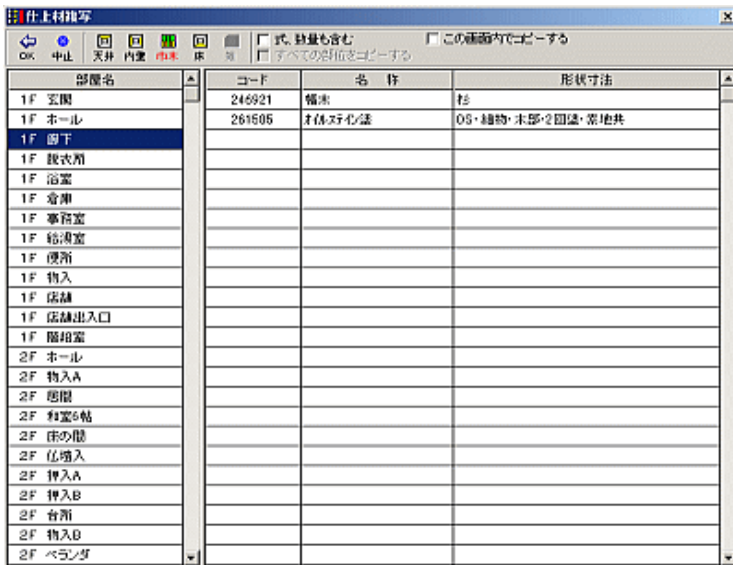
共同住宅などでは、多くの場合、各階とも占用部分においても、共用部分においても同じサイズで同じ仕上げとなっています。このような時に、「コピー」ボタン(下図)を活用すれば、重複入力を防止でき、入力ミスを最小限にすることが可能です。



ここではページ単位のコピーとなりますので、コピーされる側は必ず空白ページでなければなりません。何かデータが書き込まれていると「仕上材複写」画面は開きません。



左図は1F事務室の内部巾木に他の部屋からコピーするために開かれた「仕上材複写」画面ですが、1F事務室巾木のデータは空欄ですから、当然この部屋の巾木ボタンは無効となっています。



コピーしたい部屋の巾木を左側のリストから選択します。巾木のデータがある部屋の「巾木」ボタンは有効となっていますから、そのボタンをクリックして右側の画面にその項目を表示させます。

ここで[式、数量を含む]にチェックをしないで[OK]ボタンをクリックすれば、式、数量を含まない項目が元の頁に複写されます。

コピーする側と同じ形態であれば[式、数量を含む]にチェックをして[OK]ボタンをクリックしてください。式、数量を含むすべての項目が元の頁に複写されます。

他の部位、部屋から仕上材や計算式をコピーするには、上記の方法のほかに、コピーしたい部位(部屋)の調書をマウスの右ボタンクリックによるポップアップメニューより「コピー」して、該当調書に「貼付」という一般的な方法があります。

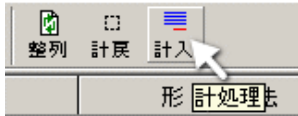
入力補助

計算式

計算式例 1 (単純計算)

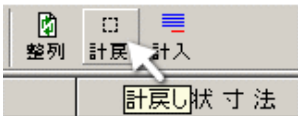
(21.22+4.55)*H2.00			
--------------------	--	--	--

上図のような単一な式は、入力完了時点で、画面上部にある[計入] (計処理: 下図左) ボタンをクリックすることにより、その値を必要な箇所复制到します。このとき的小数桁は基本設定に依存します。

	(21.22 + 4.55) × H2.00	51.540	51.54
---	------------------------	--------	-------

式の途中にある半角数字以外 (英字ならば半角でも可) の文字は計算結果に影響を与えません。また、計処理後の式は、各種演算子が全角のそれに変換されます。

再計算したい場合は、その行をクリックしておいて、[計戻] (計戻し: 下図左) ボタンをクリックしてください。再計算できる式に文字列を元に戻します (下図右)。

	(21.22 + 4.55) × H2.00 = 51.54		
---	--------------------------------	--	--

計算式例 2 (二重括弧の例)

(1.51+(3.64+4.22)*1.20+1.33)*2.42			
-----------------------------------	--	--	--

'((('は '['('に変換されます。

[1.51 + (3.64 + 4.22) × 1.20 + 1.33] × 2.42	29.698		29.70
---	--------	--	-------

計算式例 3 (次行に続きの計算式)

(44.06+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H6.29			
+9.16*2*H3.30			

2行の式をドラッグして選択状態にします。

(44.06+9.06+2.00+1.44+2.00+9.06)*2*H6.29			
+9.16*2*H3.30			

[計入]ボタンをクリックします。

(44.06 + 9.06 + 2.00 + 1.44 + 2.00 + 9.06) × 2 × H6.29			
+ 9.16 × 2 × H3.30	911.115		911.12

計算式例 4 (ブロック計算式)

(3.03+5.03)*2*H2.47			
---------------------	--	--	--

[Ctrl] + [Enter]を押下します。

(3.03+5.03)*2*H2.47=39.8164*			
------------------------------	--	--	--

ブロックしたい式をすべて作成します。(箇所数を忘れずに入力)

(3.03+5.03)*2*H2.47=39.8164*	4		
(3.00+5.03)*2*H2.47=39.6682*	23		
1.75*H2.00=3.5*	-27		
0.80*H2.10=1.68*	-27		
1.75*H2.10=3.675*	-27		
0.80*H1.00=0.8*	-27		

ブロック式をドラッグして選択状態にします。

$(3.03+5.03)*2*H2.47=39.8164*$	4		
$(3.00+5.03)*2*H2.47=39.6682*$	23		
$1.75*H2.00=3.5*$	-27		
$0.80*H2.10=1.68*$	-27		
$1.75*H2.10=3.675*$	-27		
$0.80*H1.00=0.8*$	-27		

[計入]ボタンをクリックします。

$(3.03 + 5.03) \times 2 \times H2.47$	4	159.264	
$(3.00 + 5.03) \times 2 \times H2.47$	23	912.364	
$1.75 \times H2.00$	-27	-94.500	
$0.80 \times H2.10$	-27	-45.360	
$1.75 \times H2.10$	-27	-99.225	
$0.80 \times H1.00$	-27	-21.600	
(計)			810.943

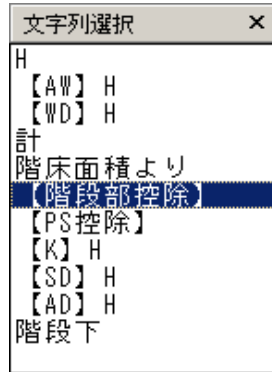
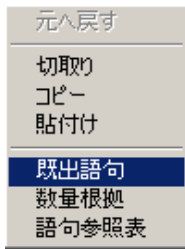
入力補助(計算式)

入力補助 (計算式入力状態の時:[*]はキーボード)

括弧	'()'	*[F12]	両括弧の中央にカーソルが位置します。
H(半角)	'H'	*[PageDown]	高さを示す半角[H]をカーソル位置に追加
W(半角)	'W'	*[PageUp]	巾を示す半角[W]をカーソル位置に追加

式入力状態で右ボタンをクリックしたときに開く、ポップアップメニューには便利な入力補助があります。

1. 既出語句

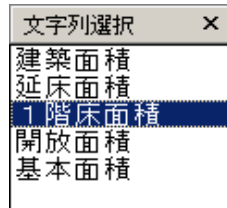
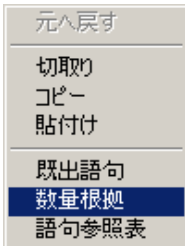


おなじページにある、これまで入力した数値以外の文字を、簡単に再利用できるよう一覧表にして表示します。

[文字列選択]表で、利用したい行をクリックすると、カーソル位置にその文字列が挿入されます。(' | 'はカーソル位置)

1 2 3 4 5 | 6 7 8 9 1 2 3 4 5【階段部控除】 | 6 7 8 9

2. 数量根拠



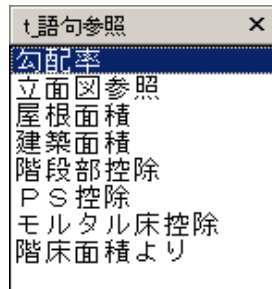
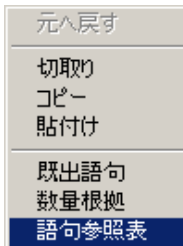
自動作成画面で設定された、いくつかの「面積」を参照できます。

[文字列選択]表で、利用したい行をクリックすると、カーソル位置にその文字列と参照された数値が挿入されます。(' | 'はカーソル位置)

| 「1階床面積」705.08 |

「」は基本設定に依存します。

3. 語句参照



既に登録された参照語句が選択できます。

[t語句参照]表で、利用したい行をクリックすると、カーソル位置にその文字列が挿入されます。(' | 'はカーソル位置)

5.60*4.55* | 5.60*4.55*勾配率 |

単価マスタの作成方法

市場単価の作成

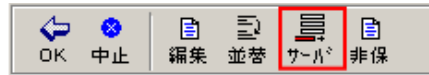
コード	名称
	単価マスタ ×
	標準単価
	合成単価
	市場単価
	既出単価

市場単価を作成するには、数量計算書からは[種別]セル、その他の計算書からは[コード]セルにて、マウスの右ボタンをクリックして開くポップアップメニューから[市場単価]を選択します。

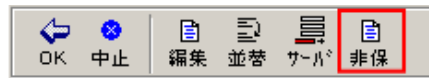
左図はそのポップアップメニューから市場単価を導入しようとしています。

市場単価、合成単価作成では、その場限りの一過性のものと、再利用可能なものがあります。Hosでは一過性の単価データを保存することを「ローカル保存」、再利用可能なようにどの現場からも参照できるフォルダに保存することを「サーバ保存」と呼んでいます。

サーバ保存ボタン



市場単価には、合成単価のようなローカル保存はありませんが[保存せずに作成]があります。



市場単価の場合、多数の単価をサーバへ保存しても、余程汎用性がないと、爾後の単価や掲載頁管理が困難となります。通常は上図下の[非保] (保存せずに作成) を選ぶことをお勧めします。

ただし、どの出典先からコピーしたものがわかるようにするために、Hosでは単価コードにその出典名と掲載頁を組み合わせたもの(積ボ-P500等)を使用しています。その為[非保存]であっても、同じ画面で[出典名]だけは選択しておいてください。

左図は[非保]ボタンをクリックして開く単価作成画面です。青矢印のところに「積ボ」とあるのは、親画面で「積算ポケット」を選択しているためです。

ここに「名称」「形状寸法」等必要事項を入力します。

左図は市場単価入力例です。

この中で、コード部につきましてはHosが自動作成します。もちろん変更も可能です。

また、単価には、80%等の割引率を掛けない「掲載単価」を入力してください。これについては、後述の「単価補正」にて説明してあります。

コード	名称	規格寸法	単位	箇所	計算式
積ボ-P468	ピニトップ防火ドア	W80×H200cm	枚	1	

上図は、レコード編集画面で[OK]ボタンをクリックして、新しい市場単価が調書に導入された直後を示しています。

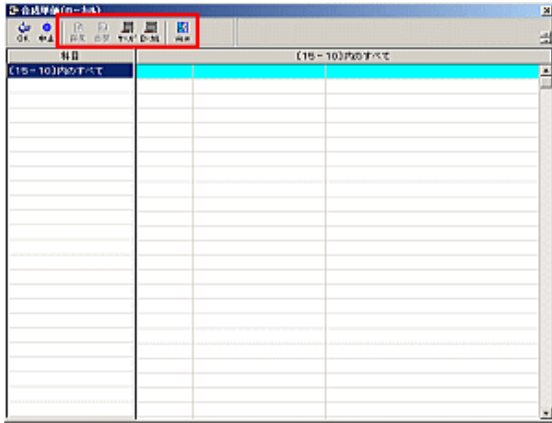
単価マスタの作成方法

合成単価の作成

コード	名称
	単価マスタ ×
	標準単価
	合成単価
	市場単価
	既出単価

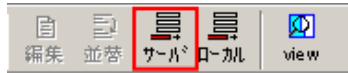
合成単価を作成するには、数量計算書からは[種別]セル、その他の計算書からは[コード]セルにて、マウスの右ボタンをクリックして開くポップアップメニューから[合成単価]を選択します。

左図はそのポップアップメニューから合成単価を導入しようとしています。

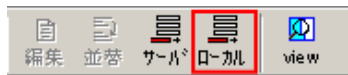


合成単価作成では、その場限りの一過性のものと、再利用可能なものがあります。Hosでは一過性の単価データを保存することを「ローカル保存」、再利用可能なようにどの現場からも参照できるフォルダに保存することを「サーバ保存」と呼んでいます。

下図はサーバ保存への追加ボタンです。



下図はローカル保存への追加ボタンです。



通常は、ローカル保存を選択して、爾後必要なものをサーバへ再登録したほうが良いでしょう。

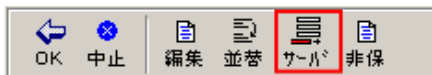
下図は、サーバまたはローカルへ追加ボタンをクリックして開く合成単価作成画面の一部です。画面青枠行はこの合成単価の「鑑」となります。鑑の行で入力が必要な部分を水色で記してあります。その他のセルはHosが作成しますので、空白にしておいてください。

コード	名称	形状寸法	計算式	数量	単位	単価	金額

2行目以降がその内訳となります。単価をマスタから導入する方法はいつもの通りですが、この合成単価表内にさらに合成単価を導入することも可能です。ここでは市場単価から先ほどの「ピニトップ防火ドア」をサーバに登録して導入してみます。

コード	名称	形状寸法	計算式	数量
	[AD/1] 片開きフラッシュ	ピニトップ* W80×H200cm		
	単価マスタ ×			
	標準単価			
	合成単価			
	市場単価			
	既出単価			

今度は市場単価選択画面の[サーバ]を使用しますが、出典名と科目を忘れずに選択してください。作成された単価は選択した出典名 その科目へ登録されます。



もし、出典先や適当な科目がない場合は、対象リストボックスの[空白行]をダブルクリックして出典名、科目名を追加してください。

左図青円内に「80%属」というチェックボックスがあります。これは積ボなど割引の対象となるものに、単価の割引を指定するものです。この属性を指定しておく、後日この単価をサーバから呼び出したときに、80%の割引を行うか否かの「問い合わせ」を行います。

後述の「単価補正」でも説明してありますが、ここでは掲載単価を入力してください。

レコード編集画面で[OK]をクリックすると、「サーバ」域に保存されますので、どの現場からでも、この単価を参照できます(下図参照)。ここで、一旦サーバに保存されたデータを、先ほどの合成単価表にコピーするため、改めて作成した単価(水色行)をダブルクリックします。

出典名	積算ポケット[積ボ] ⇒ 金属製建具	
建設物価[物]	S0201001	フロント材 10.44 × H2.25
積算ポケット[積ボ]	S0201002	自動扉 高引
積算ポケット(設備)[ボ(設)]	S0201003	ピニトッ防火ドア W80 × H200cm
積算ポケット(外回り)[ボ(外)]		
コスト情報[コスト]		

今回は作成した市場単価に「80%属」を付加しました(チェックをONにした)ので、左図のように問い合わせが行われます。80%割引しますので[はい]をクリックしてください。

合成単価表でのこの単価の導入状況は下図の通りです。数量欄がまだ空欄ですので、続けて該当数量を入力します。

コード	名称	形状寸法	計算式	数量	単位	単価	金額
G0100001	[AD/1] 片開きフラッシュ	ピニトッ* W80 × H200cm			ヶ所		
積ボ-P468	ピニトッ防火ドア	W80 × H200cm	77,000 × 0.8 = 61,600		枚	61,600	

数量は「基本設定」で小数点以下桁数が定められていますので、[1.000]であれば、[1]と入力すれば結構です。

コード	名称	形状寸法	計算式	数量	単位	単価	金額
G0100001	[AD/1] 片開きフラッシュ	ピニトッ* W80 × H200cm			ヶ所	61,600	
積ボ-P468	ピニトッ防火ドア	W80 × H200cm	77,000 × 0.8 = 61,600	1.000	枚	61,600	61,600

下図は単価導入が終了して、[雑材費等その他]の単価入力待ち状態です。

コード	名称	形状寸法	計算式	数量	単位	単価	金額
G0100001	[AD/1] 片開きフラッシュ	ピニトッ* W80 × H200cm			ヶ所	71,700	
積ボ-P468	ピニトッ防火ドア	W80 × H200cm	77,000 × 0.8 = 61,600	1.000	枚	61,600	61,600
23	サッシ工			0.370	人	16,400	6,068
242321	ソーリング	ホリクワシ系・[断面15 × 10]		4.800	m	850	4,080
900002	その他	労 × 10 ~ 15%		1.000	式		

雑材費等その他の単価は以下の方法で入力します。

数量	単位	雑材費等その他	金額
	ヶ所	71,700	
1.000	枚	61,600	61,600
0.370	人	16,400	6,068
4.800	m	850	4,080
1.000	式		

合成単価表作成画面右上の[雑費](雑材費等その他)ボタンをクリックします。(左図)
開いた画面(下図)右上にある「率(%)」に該当数値を入力します。

この場合は人工単価である「サッシ工」をダブルクリックします。

完了 下表より対象行を選択してください 端数処理をする クリア 計 0 × 12% =

コード	名称	形状寸法	数量	単位	金額
G0100001	【AD/1】片開きフラッシュ	ビニトップ・W80×H200cm		ヶ所	
積ホ-P468	ビニトップ防火ドア	W80×H200cm	1.000	枚	61,600
23	サツ工		0.370	人	6,068
242321	シーリング	ホリウレタン系・【断面15×10】	4.800	m	4,080

完了 下表より対象行を選択してください 端数処理をする クリア 計 6,068 × 12% = 728

コード	名称	形状寸法	数量	単位	金額
G0100001	【AD/1】片開きフラッシュ	ビニトップ・W80×H200cm		ヶ所	
積ホ-P468	ビニトップ防火ドア	W80×H200cm	1.000	枚	61,600
23	サツ工		0.370	人	6,068
242321	シーリング	ホリウレタン系・【断面15×10】	4.800	m	4,080

上図[完了]ボタンをクリックすると、下図の様に式が挿入されて、単価が計算されます。

コード	名称	形状寸法	計算式	数量	単位	単価	金額
G0100001	【AD/1】片開きフラッシュ	ビニトップ・W80×H200cm			ヶ所	72,400	
積ホ-P468	ビニトップ防火ドア	W80×H200cm	77,000×0.8=61,600	1.000	枚	61,600	61,600
23	サツ工			0.370	人	16,400	6,068
242321	シーリング	ホリウレタン系・【断面15×10】		4.800	m	850	4,080
900002	その他	労×10～15%	6,068×12%	1.000	式	728	728

一応これで完了ですが、員数参照先を示したいときに、例えば鑑行の直後にそれを記述する場合は、行挿入を行い、下図のように入力します。

コード	名称	形状寸法	計算式
G0100001	【AD/1】片開きフラッシュ	ビニトップ・W80×H200cm	
積ホ-P468	ビニトップ防火ドア	W80×H200cm	77,000×0.8=61,600
23	サツ工		
242321	シーリング	ホリウレタン系・【断面15×10】	
900002	その他	労×10～15%	12%

挿入行でマウスの右ボタンをクリックして開くポップアップメニューより[行挿入]を選択して空白行を1行挿入します。
挿入した行の名称セルをダブルクリックして、例えば「員数は、コード253371準用」というように入力します。

コード	名称	形状寸法	計算式	数量	単位	単価	金額
G0100001	【AD/1】片開きフラッシュ	ビニトップ・W80×H200cm			ヶ所	72,400	
	員数は、コード253371準用						
積ホ-P468	ビニトップ防火ドア	W80×H200cm	77,000×0.8=61,600	1.000	枚	61,600	61,600
23	サツ工			0.370	人	16,400	6,068
242321	シーリング	ホリウレタン系・【断面15×10】		4.800	m	850	4,080
900002	その他	労×10～15%	6,068×12%	1.000	式	728	728

合成単価表作成画面で、編集終了の[OK]ボタンをクリックすると、下図のように登録番号(Hos初期画面で作成した現場番号)の下に今作成した合成単価が登録されます。

OK 中止 編集 並替 検索 印刷 view ¥72,400 【AD/1】片開きフラッシュドア (ヶ所) ビニトップ・W80×H200cm

科目	【15-10】内のすべて		
【15-10】内のすべて	G0100001	【AD/1】片開きフラッシュドア	ビニトップ・W80×H200cm

上図、「G0100001」コードはこの登録表内の整理番号で、この番号が調書の中の単価コードになるわけではありません。先ほど合成単価を作りはじめた調書へこの合成単価をコピーします。該当単価(水色行)をダブルクリックしてください。コードに新しい番号が生成されています(下図)。今後、この番号はHosによって管理されます。

AD/1	0.80	2.00	1		1.600	G-001	【AD/1】片開きフラッシュドア	ビニトップ・W80×H200cm	ヶ所
------	------	------	---	--	-------	-------	------------------	------------------	----

単価補正の仕方

名称	形状寸法	
カーテンレール	アルミ製・ダブル・2m物	1
押入れ・(建具除く)	W180cm・中棚付・天袋無・内装した	1
押入れ・(建具除く)	W200cm・中棚付・天袋無・内装した	1

左図水色行のように該当単価をクリックしておき(実際には水色にはなりません)、該当計算書画面の[編集]ボタンをクリックします。

コード	2653(単価補正(後分))
名称	押入れ・(建具除く)
形状寸法	W180cm・中棚付・天袋無・内装した合板
計算式	1
箇所	3
数量	3.000
単位	ヶ所
単価	45,100
標準単価	45,100
備考	

開いた編集画面の[単価補正]ボタンをクリックします。(左図)

補正式を入力して[Enter]キーを押下します。

単価補正 補正式

下図をご覧ください。コードには「補正」が付加され、備考欄に式が挿入されました。次に、手入力で青円内のように形状寸法を整えます。これで完了ボタンをクリックすれば終了です。

コード	265341 補正
名称	押入れ・(建具除く)
形状寸法	W203cm・中棚付・天袋無・内装した合板
計算式	1
箇所	3
数量	3.000
単位	ヶ所
単価	55,200
標準単価	45,100
備考	$45,100 \times 203 \div 182 \times 100 \div 91 = 55,279 \approx 55,200$

このように、単価を補正する場合には、標準単価を目的の単価に補正する過程で[式]が挿入されます。そのため、市場単価等を作成するときには、割引等は行わず、掲載単価をそのまま入力しておく必要があります。

単価マスタの作成方法

鉄骨単価の作成

符号	種別	形状寸法
C/1		

鉄骨単価を作成するには、鉄骨計算書[種別]セルにて、マウスの右ボタンをクリックして開くポップアップメニューから[鉄骨単価]を選択します。

左図はそのポップアップメニューから鉄骨単価を導入しようとしています。

基本設定の「単価表選択一覧に[鉄骨単価]を表示する」チェックを[ON]にして下さい。

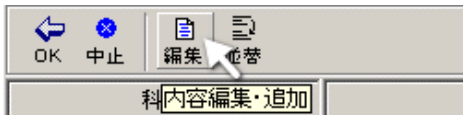
鉄骨単価		
科目	単価	係数
異形棒鋼(棒鋼)	D100001	D10
丸鋼	D100002	D13
広幅平鋼(平鋼)	D100003	D19
H形鋼	D100004	D22
等辺山形鋼(山形鋼)	D100005	D25
不等辺山形鋼(山形鋼)	D100006	D29
溝形鋼	D100007	D32
リップ溝形鋼	D100008	D35
I形鋼	D100009	D38
軽溝形鋼(溝形鋼)		
キーストン・デッキ(デッキ)		
縞鋼板(鋼板)		
鋼板		
一般構造用炭素鋼鋼管(鋼管)		
一般構造用内径鋼管(鋼管)		
小径内径鋼管(鋼管)		
軽量H形鋼(H形鋼)		
ボルト類		
その他		

既に登録されている科目

1. 異形棒鋼(棒鋼)
2. 丸鋼
3. 広幅平鋼(平鋼)
4. H形鋼
5. 等辺山形鋼(山形鋼)
6. 不等辺山形鋼(山形鋼)
7. 溝形鋼
8. リップ溝形鋼
9. I形鋼
10. 軽溝形鋼(溝形鋼)
11. キーストン・デッキ(デッキ)
12. 縞鋼板(鋼板)

単価は登録されていません。
その他の科目は未登録状態です。

データの編集



鉄骨単価画面左上の[編集]ボタンをクリックします。

コード	名称	規格寸法	単位	単価	径	単価	係数
D100001	異形棒鋼	D10	t	1.05	10	0.56	0.031
D100002	異形棒鋼	D13	t	1.05	13	0.995	0.040
D100003	異形棒鋼	D19	t	1.05	19	2.25	0.059
D100004	異形棒鋼	D22	t	1.05	22	3.04	0.069
D100005	異形棒鋼	D25	t	1.05	25	3.98	0.078
D100006	異形棒鋼	D29	t	1.05	29	5.04	0.091
D100007	異形棒鋼	D32	t	1.05	32	6.23	0.100
D100008	異形棒鋼	D35	t	1.05	35	7.51	0.109
D100009	異形棒鋼	D38	t	1.05	38	8.95	0.119

[塗装係数] 「赤枠」 式がセットされていればHosが計算します。

[ロス率] 「青枠」 下表をご覧ください。

ロス率

形鋼・鋼管及び平鋼	1.05
広幅平鋼及び鋼板	1.03
ボルト類	1.04
アンカーボルト	1.00
デッキプレート	1.05

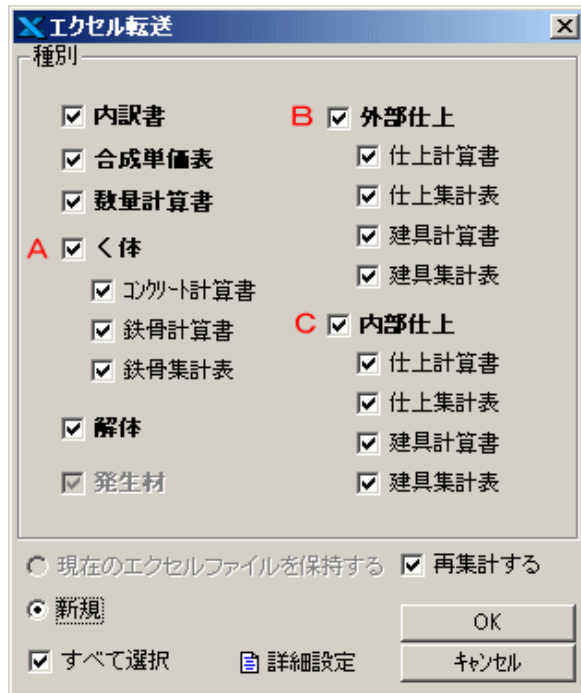
塗装係数

鋼板など	2
平鋼など	$2 \times (a + b)$
丸鋼・鋼管・棒鋼など	$a \times (\text{パイ})$
角形鋼管・山形鋼・T形鋼など	$2 \times (a + b)$
H形鋼	$2 \times a + 4 \times b$
I形鋼・溝形鋼など	$2 \times a + 4 \times b$
リップ溝形鋼など	$2 \times a + 4 \times b + 4 \times c$
デッキプレートなどその他	ユーザ設定

鉄骨単価はすべてサーバ保存です。マスタに単価を登録したくない場合(現状維持)は、調書の[編集]ボタンで開く、行編集画面で個別にセットできます

エクセル

転送(送信)



The dialog box titled "Excel Transfer" (エクセル転送) contains the following elements:

- 種別 (Category):** A list of document types with checkboxes. It is organized into three groups: A (親チェック), B (親チェック), and C (親チェック).
 - Group A:** 内訳書, 合成単価表, 数量計算書, く体, コンクリート計算書, 鉄骨計算書, 鉄骨集計表, 解体, 発生材.
 - Group B:** 外部仕上, 仕上計算書, 仕上集計表, 建具計算書, 建具集計表.
 - Group C:** 内部仕上, 仕上計算書, 仕上集計表, 建具計算書, 建具集計表.
- Buttons:** "OK" and "キャンセル" (Cancel).
- Options:** Radio buttons for "現在のエクセルファイルを保持する" (Keep current Excel file) and "新規" (New). A checked checkbox for "再集計する" (Re-calculate).
- Other:** A checked checkbox for "すべて選択" (Select all) and a "詳細設定" (Detailed settings) button.

この画面は、まだ1度もエクセルに転送していない[新規]作成時のものです。

A、B、Cは、親チェックです。これらのチェックをONにすると、それに属するすべての調書出力がONになります。OFFにすると同じく調書出力もOFFになります。もちろん子チェック単独でも指定できますが、親チェックの下は相互に関連性がありますので、通常は親チェックで指定してください。

[再集計する]チェックをONにすると、内外仕上集計表、内訳書と合成単価表を再作成してエクセル転送を始めます。通常はONにしてください。

エクセル転送2回目以降は、[現在のエクセルファイルを保持する]が初期値になります。